

島根原子力発電所 耐震設計審査指針の改定に伴う  
地質調査にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書

# 尾崎遺跡

2009年3月

島根県教育委員会  
中国電力株式会社



# 序

中国電力株式会社では、平成18年に改訂された「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」に基づき、島根原子力発電所の耐震安全性評価を行うことになりました。

そのなかで、松江市美保関町下宇部尾地内において実施したトレンチ調査では、調査開始に先立ち、埋蔵文化財の保護および記録の保存を目的とし、埋蔵文化財の発掘調査を島根県教育委員会に委託のうえ実施しました。

本報告書は、その発掘調査の結果をまとめたものです。本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育等のために広く活用されることを期待します。

最後に、当社の地質調査にご理解、ご支援いただきました地域の皆様をはじめ、今回の発掘調査及び報告書の取りまとめにあたり、同教育委員会及びご指導ご協力いただきました関係諸機関の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

平成21年3月

中国電力株式会社島根原子力本部

執行役員 島根原子力建設所長

柴 田 芳 昭



# 序

島根県教育委員会では、中国電力株式会社の委託を受けて、島根原子力発電所周辺の断層などの地質調査予定地内の埋蔵文化財の発掘調査を平成19年度に実施しました。本報告書は、発掘調査対象地である松江市美保関町下宇部尾地内の尾崎遺跡の発掘調査の結果をまとめたものです。

今回の調査では、遺構としては礎石・礎盤建物の柱穴が確認された他、主な遺物として墨書き器・転用硯・土鍤などが多数出土しました。それらの資料から、役所などの公的施設や村落内の仏堂などの建物が存在していた可能性が考えられるなど貴重な成果を得ることができました。

本報告書が、ふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育等のために、広く活用されることを期待します。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、ご協力いただきました中国電力株式会社をはじめ、地元の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

島根県教育委員会  
教育長 藤原義光



## 例　　言

1. 本書は、島根県教育委員会が中国電力（株）の委託を受けて、平成19年度に実施した島根原子力発電所 耐震設計審査指針の改訂に係る地質調査に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2. 本書で報告する遺跡は次の通りである。

　島根県松江市美保関町下宇部尾213-1, 224　　尾崎遺跡

3. 調査組織は次の通りである。

　平成19年度　現地調査

【事務局】 ト部吉博（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（調整監）、坂本憲一（同総務課長）、廣江耕史（同調査第3グループ課長）

【調査員】 平石 充（同文化財保護主任）、濱岡宏行（同教諭兼保護主任）、小池康明（同調査補助員）

　平成20年度　報告書作成

【事務局】 ト部吉博（島根県埋蔵文化財調査センター所長）、川原和人（副所長）、赤山 治（同総務課長）、廣江耕史（同調査第3グループ課長）

【調査員】 平石 充（同文化財保護主任）、濱岡宏行（同教諭兼保護主任）

4. 発掘調査並びに報告書作成にあたっては、以下の方から有益な御指導・御助言・御協力をいただいた。記して謝意を表させていただく。

　大橋康夫（島根大学法文学部）・赤澤秀則（松江市教育委員会）・中村唯史（三瓶自然館）

5. 本書のうち、挿図中の北は測量法による第Ⅲ座標系X軸方向を指し、平面直角座標系X Y座標は世界測地系による。また、レベル高は海拔高を表す。

6. 本書で使用した第1図は松江市都市計画図（1/10000）を使用して作成したものである。

7. 本書に掲載した写真は、平石が撮影した。

8. 本書に掲載した遺物実測図の作成と清書は、各調査員・補助員の他、佐々木知子、無川美知子が行った。

9. 本書の執筆・編集は平石が行った。

10. 註は各章ごとに連番を振り当該頁下に配置した。

11. 本文・図版中の表記に用いた遺構略号は次の通りである。

　S D：溝

12. 本書の仕様は巻末に示した。

13. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管している。

## 凡　例

- (1) 遺物実測図の断面は、縄文土器、弥生土器、土師器は白ヌキ、須恵器を黒塗り、陶磁器を50%スミで示している。
- (2) 出土遺物については、中期までの弥生土器を松本岩雄1992「出雲・隠岐」(『弥生土器の様式と編年山陽・山陰編』木耳社)、弥生後期～古墳時代前期の弥生土器・土師器を赤澤秀則1992「出土遺物・時期」(『南講武草田遺跡』鹿島町教育委員会)、古墳時代前期・中期の土師器を松山智宏1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相」(『島根考古学会誌』8)、池淵俊一2008「古墳時代中期前半の遺構・遺物に関する諸問題」「九景川遺跡」(島根県教育委員会)、古墳時代須恵器を大谷晃二1993「出雲地域の須恵器編年と地域色」(『島根考古学会誌』11)、奈良平安時代須恵器を足立克己・丹羽野裕1984「まとめ」(『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会)の編年により記述している。

## 目 次

第1章 調査に至る経緯.....	1頁
第2章 遺跡の位置と環境.....	2頁
第1節 遺跡の位置と地理的環境.....	2頁
第2節 歴史的環境.....	3頁
第3章 尾崎遺跡の調査.....	4頁
第1節 遺跡と調査の概要.....	4頁
第2節 A・B区の調査 .....	7頁
第3節 C区の調査 .....	24頁
第4章 総 括 .....	33頁

## 挿図目次

第1図 尾崎遺跡	周辺の遺跡 (S = 1/20,000)	2頁
第2図 尾崎遺跡	調査区位置図 (S = 1/1,000)	4頁
第3図 尾崎遺跡	調査区全体図 (S = 1/150)	5頁
第4図 尾崎遺跡	A・B区調査区全体図 (S = 1/150)	6頁
第5図 尾崎遺跡	A・B区調査区土層図 (S = 1/80)	7頁
第6図 尾崎遺跡	A区 SD01実測図 (S = 1/60)	8頁
第7図 尾崎遺跡	A区 SD01出土遺物実測図 (S = 1/3)	8頁
第8図 尾崎遺跡	A区 SD02実測図 (S = 1/60)	9頁
第9図 尾崎遺跡	A区 SD02出土遺物実測図 (S = 1/3)	9頁
第10図 尾崎遺跡	A区土器溜り1出土状況 (S = 1/60)	10頁
第11図 尾崎遺跡	A区土器溜り1出土遺物実測図 (1) (S = 1/3)	10頁
第12図 尾崎遺跡	A区土器溜り1出土遺物実測図 (2) (S = 1/3)	11頁
第13図 尾崎遺跡	A区遺構外出土遺物実測図 (1) (S=1/3)	13頁
第14図 尾崎遺跡	A区遺構外出土遺物実測図 (2) (S=1/3)	15頁
第15図 尾崎遺跡	A区遺構外出土遺物実測図 (3) (S=1/3)	16頁
第16図 尾崎遺跡	A区遺構外出土遺物実測図 (4) (S=1/3)	17頁
第17図 尾崎遺跡	A区遺構外出土遺物実測図 (5) (S=1/3)	18頁
第18図 尾崎遺跡	A区遺構外出土遺物実測図 (6) (S=1/3, 160:S = 2/3, 161:S=1/1)	19頁
第19図 尾崎遺跡	A区拡張区出土遺物実測図 (S=1/3)	21頁
第20図 尾崎遺跡	その他遺構外出土遺物実測図 (S=1/3)	21頁
第21図 尾崎遺跡	B区遺構外出土遺物実測図 (S=1/3)	22頁
第22図 尾崎遺跡	C区調査区全体図 (S=1/150)	24頁
第23図 尾崎遺跡	C区調査区土層図 (S=1/80)	25頁
第24図 尾崎遺跡	C区 SD04実測図 (S=1/60)	26頁
第25図 尾崎遺跡	C区柱穴1実測図 (S=1/30)	26頁
第26図 尾崎遺跡	C区大石1実測図 (S=1/60)	26頁
第27図 尾崎遺跡	C区加工段1実測図・出土遺物実測図 (S=1/60, 遺物: S=1/3)	27頁
第28図 尾崎遺跡	C区加工段2実測図 (S=1/60)	28頁
第29図 尾崎遺跡	C区加工段2遺物出土状況図 (S=1/30)	28頁
第30図 尾崎遺跡	C区加工段2出土遺物実測図 (S = 1/3)	28頁
第31図 尾崎遺跡	C区加工段3実測図 (S = 1/60)	29頁
第32図 尾崎遺跡	C区土器溜り2実測図 (S = 1/30)	30頁
第33図 尾崎遺跡	C区土器溜り2出土遺物実測図 (S = 1/3)	30頁
第34図 尾崎遺跡	C区遺構外出土遺物実測図 (1) (S = 1/3)	31頁
第35図 尾崎遺跡	C区遺構外出土遺物実測図 (2) (S = 1/3 32S=1/6)	32頁
第36図 尾崎遺跡と古代の島根郡	(S=1/50,000)	35頁

## 表 目 次

表1 尾崎遺跡周辺の仏教関係遺物ほかの出土遺跡	34 頁
表2 尾崎遺跡出土墨書き器一覧	36 頁
表3 尾崎遺跡出土遺物観察表	39 頁

## 写真図版目次

- |       |   |       |   |
|-------|---|-------|---|
| 図版 1  | 1. 調査前風景（南から）<br>2. 調査前風景（北から）<br>3. A区全景（南より）                | 図版 15 | 1. A区遺構外出土遺物（2）                                     |
| 図版 2  | 1. A区全景（北から）<br>2. A区西壁土層（南側）<br>3. A区西壁土層（北側）                | 図版 16 | 1. A区遺構外出土遺物（3）                                     |
| 図版 3  | 1. A区SD01検出（西から）<br>2. A区SD01（西から）<br>3. A区SD02（西から）          | 図版 17 | 1. A区遺構外出土遺物（4）                                     |
| 図版 4  | 1. A区土器溜り（南から）<br>2. A区拡張区（東から）<br>3. A区拡張区調査終了（北から）          | 図版 18 | 1. A区遺構外出土遺物（5）                                     |
| 図版 5  | 1. B区全景（南から）<br>2. B区全景（東から）<br>3. C区全景（北から）                  | 図版 19 | 1. A区遺構外出土遺物（6）                                     |
| 図版 6  | 1. C区全景（西から）<br>2. C区東壁土層（北部分）<br>3. C区東壁土層（中部分）              | 図版 20 | 1. A区遺構外出土遺物（7）                                     |
| 図版 7  | 1. C区東壁土層（南部分）<br>2. C区SD03検出（東から）<br>3. C区SD03（東から）          | 図版 21 | 1. A区遺構外出土遺物（8）                                     |
| 図版 8  | 1. C区柱穴1（西から）<br>2. C区大石1（東から）<br>3. C区加工段1（東部分）              | 図版 22 | 1. A区遺構外出土遺物（9）                                     |
| 図版 9  | 1. C区加工段1西部分検出（東から）<br>2. C区加工段1東部分（東から）<br>3. C区加工段1西部分（東から） | 図版 23 | 1. A区遺構外出土遺物（10）                                    |
| 図版 10 | 1. C区加工段西壁土層<br>2. C区加工段2遺物出土状況<br>3. C区加工段2床面検出              | 図版 24 | 1. A区拡張区出土遺物（1）                                     |
| 図版 11 | 1. C区加工段2・3完掘<br>2. C区土器溜り1（南西から）<br>3. C区遠景（南から）             | 図版 25 | 1. A区拡張区出土遺物（2）<br>2. その他遺構外出土遺物<br>3. B区遺構外出土遺物（1） |
| 図版 12 | 1. A区SD02・SD03 出土遺物<br>2. A区土器溜り（1）                           | 図版 26 | 1. B区遺構外出土遺物（2）<br>2. C区加工段1出土遺物<br>3. C区加工段2出土遺物   |
| 図版 13 | 1. A区土器溜り（2）  | 図版 27 | 1. C区土器溜り1出土遺物<br>2. C区遺構外出土遺物（1）                   |
| 図版 14 | 1. A区土器溜り（3）<br>2. A区遺構外出土遺物（1）                               | 図版 28 | 1. C区遺構外出土遺物（2）                                     |
|       |   | 図版 29 | 1. C区遺構外出土遺物（3）                                     |
|       |   | 図版 30 | 1. 灰釉陶器<br>2. 墨書き器<br>3. 須恵器蓋の頂部沈線                  |

## 第1章 調査に至る経緯

中国電力では、平成18年に改訂された「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」に基づき、耐震安全性評価を行うため、地質調査等を行うことになった。そのなかで、遺跡が所在する松江市美保関町下宇部尾地区において、島根原子力発電所耐震設計審査指針の改訂に伴う地質調査として、トレンチ調査を実施することが計画された。

これにより、平成19年9月、中国電力は、松江市教育委員会とトレンチ調査に係る埋蔵文化財に關し協議を行い、松江市教育委員会は埋蔵文化財についての分布調査が必要であるとの回答をした。同年10月、中国電力は、松江市教育委員会に調査地内の分布調査を依頼した。同年11月、松江市教育委員会では申請地内に周知の遺跡として、下宇部尾条里遺跡（県遺跡番号I34）が所在することから、調査を実施したところ、トレンチ調査予定地の一部から奈良平安時代・古墳時代前期の遺物が発見された。

これを受け、県教育委員会と市教育委員会で協議を実施、発見された遺跡については、下宇部尾条里遺跡と別な遺跡（尾崎遺跡）として新たに遺跡の発見届けを松江市教育委員会から提出することとし、本調査体制については、同年12月に県文化財課・埋蔵文化財調査センター・松江市教育委員会文化財課・中国電力の四者で協議した結果、島根県教育委員会が本調査を実施することに決定した。

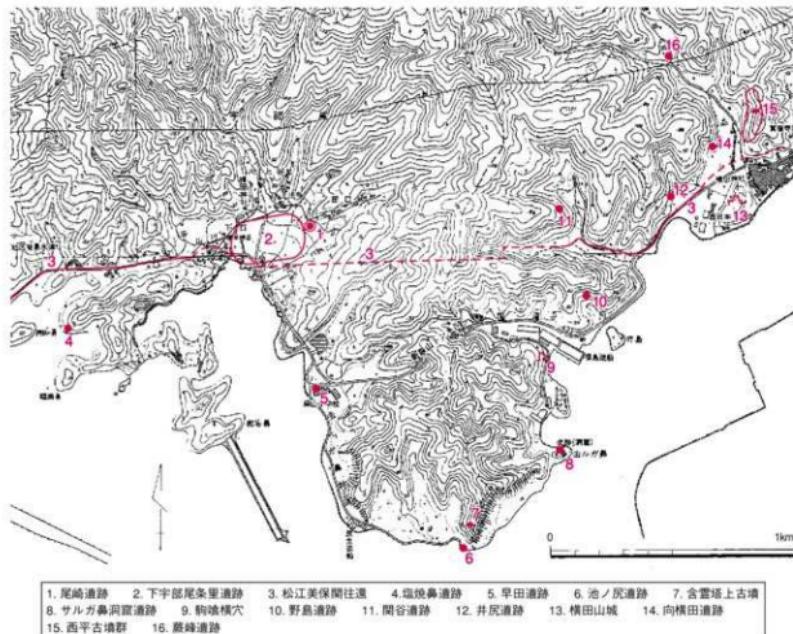
島根県教育委員会では、ただちに発掘調査を開始し、翌平成20年2月に現地の発掘調査を終了し、その後、発掘調査報告書（本書）を作成した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

島根半島の北側沿岸部は、日本海に山地が迫り深い入り江になったアラス式海岸と呼ばれる独特の自然美を見せており、半島の西端東端の部分は、昭和38年に大山隠岐国立公園に指定されているほど景観が美しい。一方、半島の（美保関町）南岸部は山地が急斜面で落ち込み、中海に面し、単調な海岸線を形成している。人々の生活の舞台となった集落や古墳は、そうした内湾に注ぐ小河川沿いに形成された平地や周辺の小丘陵地に点在する。尾崎遺跡は、このような島根半島の南岸部に形成された遺跡である。尾崎遺跡は松江市美保関町大字下宇部尾213-1に所在する。

尾崎遺跡が所在する下宇部尾地区は、美保関町の南岸中央部で中海に面し、東は森山地区、西は手角地区に接している。近世の絵図に下宇部尾村の地名が見られる。明治22（1889）年の町村制施行時から大字名として現在に至っている。尾崎遺跡は、下宇部尾地区的南岸沿いを走る国道431号線の中央あたりの北東側300mに位置している。調査前は水田であった。また近くには、「出雲風土記」の島根郡に所在している横田社とする説もある横田神社がある。



第1図 尾崎遺跡 周辺の遺跡 (S = 1/20000)

## 第2節 歴史的環境

調査地の周辺地域における遺跡の初見は、サルガ鼻洞窟遺跡、早田遺跡、池の尻遺跡、井尻遺跡と縄文時代前期に遡る。縄文時代前期から弥生時代と統いての遺跡が多くあることからも、この周辺で生活が営まれ続けていることが伺える。特にサルガ鼻洞窟遺跡は、山陰の縄文土器の後期後半の編年を論じられた基準的な遺跡で、国指定の遺跡である。主に縄文土器・石器・骨格器・装身具が見つかっており、特に石錘は200個以上と数が多い。近くにある池の尻遺跡は、縄文土器片、石器類など、主に前期のものが多く出土している。早田遺跡は、同じく前期と考えられる爪型文土器が採集されている。井尻遺跡は、晩期後半の石器が見つかっている。

弥生時代になると、単独で見つかっている遺跡もなく、先ほどあげた3遺跡が含まれる。早田遺跡では、中期のものと考えられる甕片、井尻遺跡では、中期後半のころの3条の凹線文の土器片、サルガ鼻洞窟遺跡では、複合口縁を有し、頸部に刺突列点文が施された後期の甕片が見つかっている。

古墳時代になると駒喰横穴や西平古墳群、含靈塔下遺跡（池の尻遺跡）があげられる。しかし、駒喰横穴や含靈塔下遺跡はその形や大きさがわかるのみで、遺物も未確認のことから時期も特定できない。西平古墳群は、四基の古墳が分布し、いずれも方墳であることがわかっている。

奈良・平安時代の遺跡では、向横田遺跡、野島遺跡、井尻遺跡、蕨峰遺跡があげられる。いずれも須恵器片が出土している。向横田遺跡付近は、かつて前述した横田神社があった場所とも言われている。遺物は、須恵器の壺、甕、蓋などがある。出雲須恵器編年で七世紀後半ごろのものと考えられている。井尻遺跡、野島遺跡でもほぼ同年代の須恵器が見つかっている。井尻遺跡では、内面にかえりを有する蓋が、野島遺跡では、高坏、蓋、大甕、土師器甕が出土している。蕨峰遺跡からは、須恵器甕片が見つかっており、古墳時代末から奈良時代のごろだと言われている。中世や近世になると、蕨峰遺跡や閑谷遺跡などの製鉄遺跡も上げられるが、少量の鉄滓の採集のため年代など不明な点が多いと言わざる得ない。

また、近世において美保関往還も整備された。特に下宇部尾から森山にかけての辻山堂越えは難所であったとされている。

(参考文献)

松本岩雄 1986 ぎょうせい『美保関町誌』

内藤正中編集 1979 角川書店『角川日本地名大辞典 32 島根県』

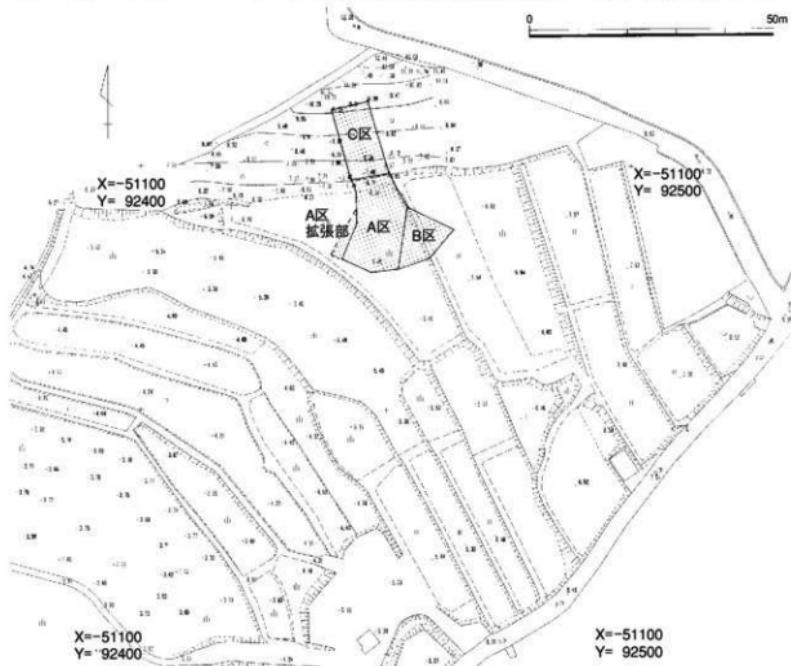
池橋達雄 2006 樹林舎『定本島根県の歴史街道』

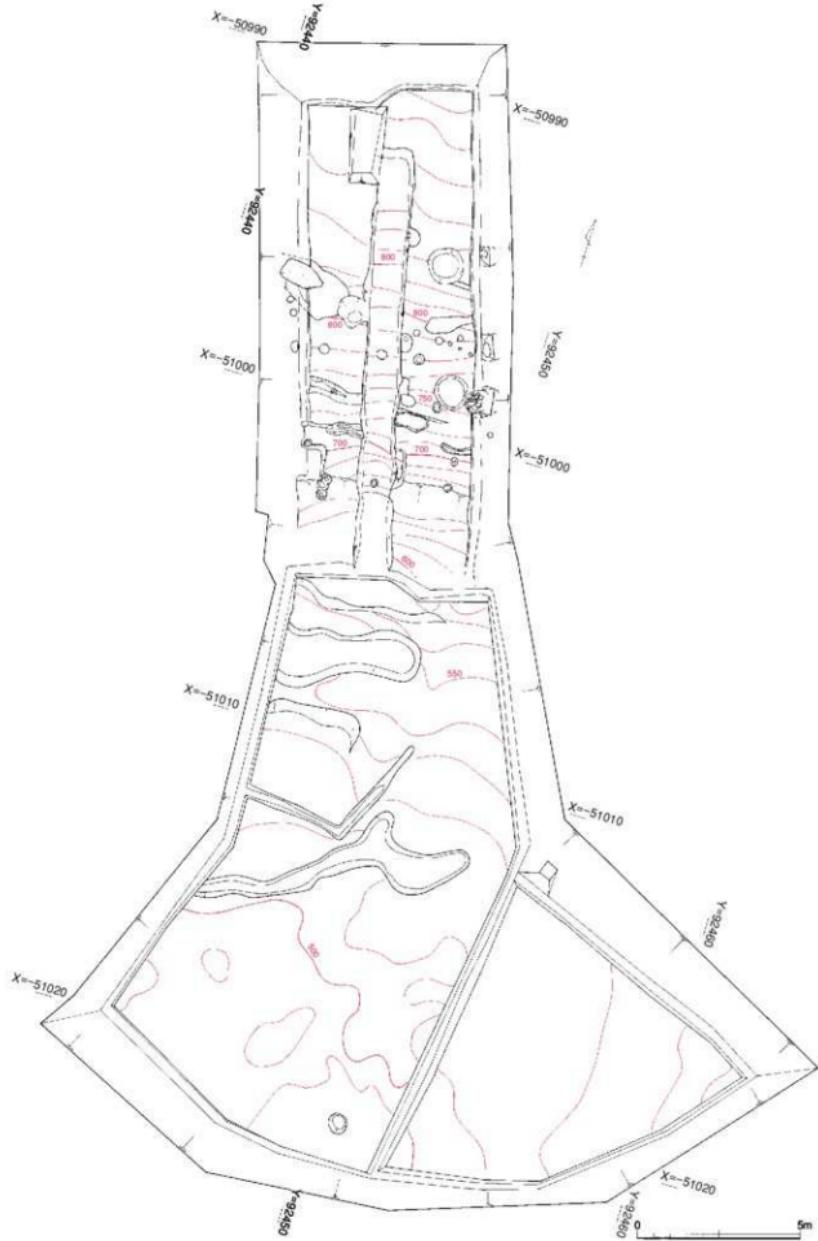
## 第3章 尾崎遺跡の調査

### 第1節 遺跡と調査の概要

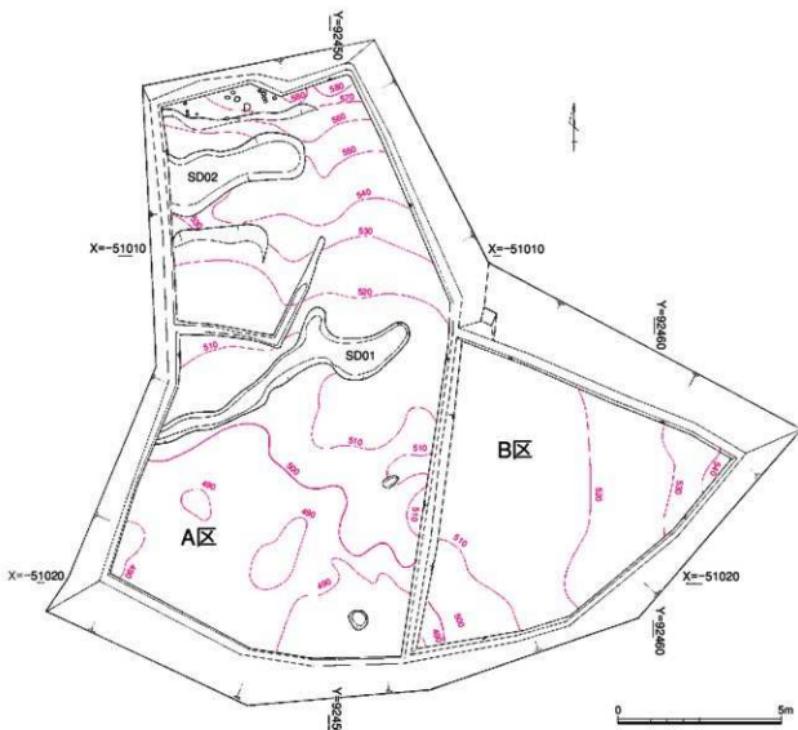
尾崎遺跡は松江市美保関町下宇部尾 213-1、224 に所在する弥生～中世にかけて複合遺跡である。遺跡は中海北岸の複雑に入り組んだ渕の北側に位置する谷ならびに丘陵斜面に位置する。調査対象地は約 400 m<sup>2</sup>で中国電力による地質調査開始以前は谷部が水田・丘陵部が果樹園であった。遺跡の周囲は下宇部尾条里遺跡とされているが発掘調査の事例はなく、今回改めて調査地点を尾崎遺跡と命名し発掘調査を実施することとなった。

さて、発掘調査対象範囲は中国電力による島根原子力発電所の耐震設計審査指針の改定に伴う地質調査予定地にあたり、平成 19 年 11 月 16・19・28 日に松江市教育委員会による埋蔵文化財分布調査が実施され、トレントにより本調査において A 区となる部分のトレントから多くの遺物が出土した。これを受けて同年 12 月 5 日に松江市教育委員会文化財課・島根県教育委員会文化財課・同埋蔵文化財調査センターの 3 者による協議が行われ、県の埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することとなった。発掘調査は 12 月 10 日に現地を視察、翌 11 日より開始、翌平成 20 年 1 月 8 日にかけて A 区の調査を実施し、続いて 9・10 日に B 区を調査した。この段階で奈良平安時代を中心とした多量の遺物が出土したため、1 月 9 日に島根大学法文学部大橋康夫教授による調査指導を実施、丘陵





第3図 尾崎遺跡 調査区全体図 ( $S = 1/150$ )



第4図 尾崎遺跡 A・B区調査区全体図 (S = 1/150)

部分について再度トレンチを行い遺跡の有無を確認する必要があるとの指摘を受けた。そして、丘陵部にトレンチを入れたところ、遺物・構造が確認されたため丘陵部を新たにC区とし、同11～31日にかけて調査した。2月1日には現場を撤収いったん調査は終了したが、2月25日に中国電力より地質調査工事中にA区の東壁が崩落したとの連絡を受け、25日・26日に崩落部分ならびに地質調査の工事範囲に変更に伴って新たに発掘の必要となった部分の調査を実施した（この部分をA区拡張部とする）。

調査の成果としては、谷部のA・B区の調査で、古墳時代中期の溝状遺構（SD01）、奈良平安時代の溝状遺構（SD02）、須恵器を中心とする土器溜まり（土器溜まり1）を検出した。土器溜まりからは水瓶・墨書き土器が発見されている。一方、丘陵部のC区は調査区上幅で7.5m程度と幅が狭く、建物などの全体像検出は困難であったが、礎石建物の柱穴と思われる柱穴1、大型の石が据えられた土坑1や調査区東壁面に石を礎盤にした柱穴2箇所を確認した。またこれら建物の整地層から8世紀後半頃の土器溜まり2を検出し、さらに加工段埋土中からは7世紀後半の須恵器が出土している。

これらの調査結果を総合すれば、奈良平安時代の遺物が多くみられること、礎石・礎盤建物の存在、水瓶・托・墨書き土器などが出土することから、調査区の周辺にいわゆる末端官衙や首長宅、それらに付随する仏教施設などの存在が推定される。

## 第2節 A・B区の調査

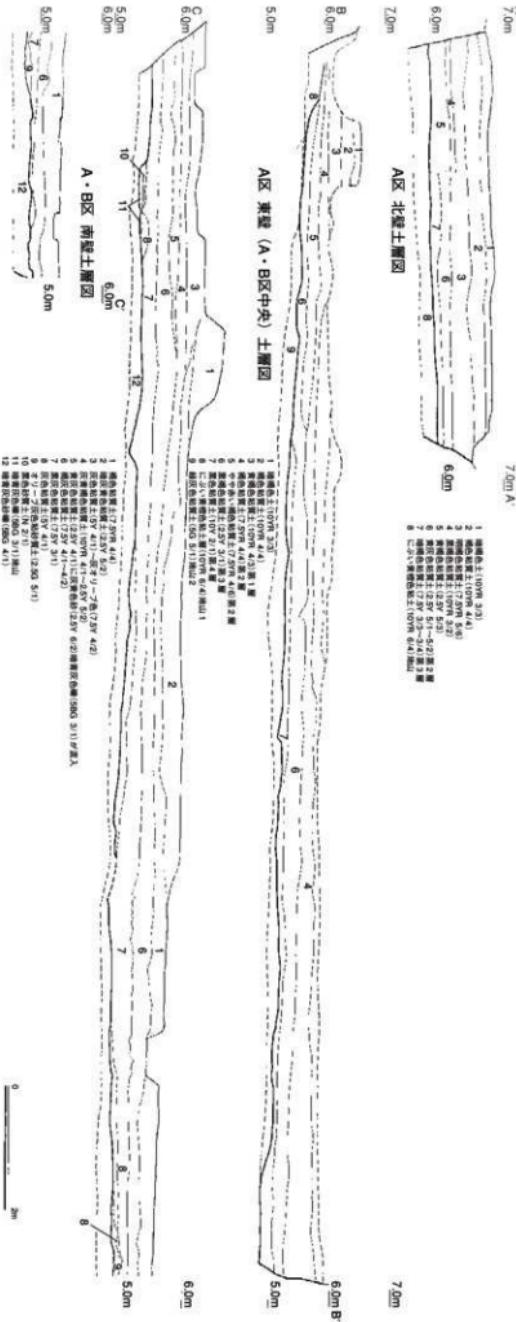
### (1) 調査の概要

ほぼ同じ谷状地形に位置するA区・B区をまとめて記述する。

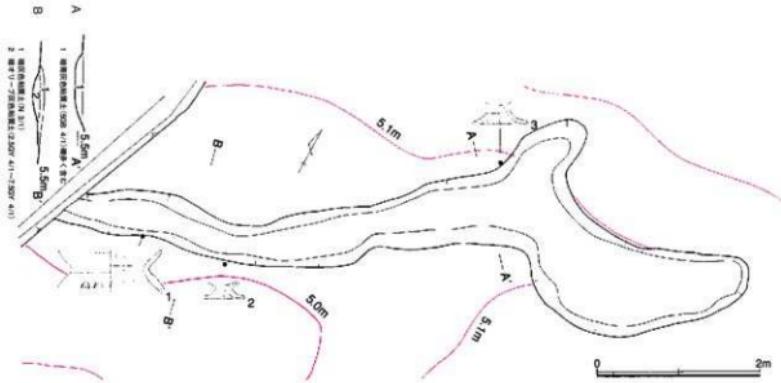
A区は最初に調査を開始した調査区で、調査前の地形は高低差のある2枚の水田であった。基盤層でみると、北側に向かって徐々に急になる南向き斜面であったことがわかる。

B区はA区の東側で、A区調査時点では東側に行くに従い遺物が少なくなることから遺跡はない可能性もあると判断し、全面的に調査する前にトレンチ調査を実施した。その結果一定量の遺物が確認されたため、全面的に調査を行ったが、遺物の量はA区と比較すると少ない。また、遺構も確認されなかった。

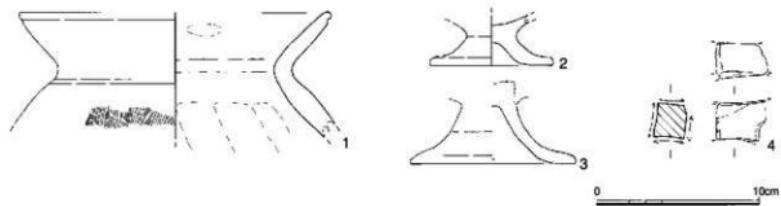
調査区の層序はA・B区とも共通で現表土（第5図中央土層図1層）・水田床土（同2・3層）の下に、褐色粘質土（同4層）・黒褐色粘質土（同6層）・黒色粘質土（同7層）からなる遺物包含層が存在した。これら、主として3層からなる遺物包含層については上層より、第1層・第2層・第3層と略称し、出土遺物に注記している。いずれの土層も粘土と言ってよいほどの粘性に富み、遺物を粘土中から取り出すのに大変苦労した。なお、3層に分けた遺物包含層であるが、遺物は上層ほど新しいわけではなく、弥生～中世の遺物が混在し、全体に別な地点からの流れ込みの資料と考えら



第5図 尾崎遺跡 A・B区調査区土層図 (S = 1/80)



第6図 尾崎遺跡 A区 SD01 実測図 ( $S = 1/60$ )



第7図 尾崎遺跡 A区 SD01 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

れる。遺構はA区で第4層の下で基盤層に埋込まれた溝状遺構2条を検出している。

これら遺物包含層の下の基盤層は、北側丘陵よりではにぶい黄橙色土であり、半分より南の谷中央方向では緑灰色の砂礫土であった。調査は遺物包含層の第1層から第4層まで人力による掘削を行った。

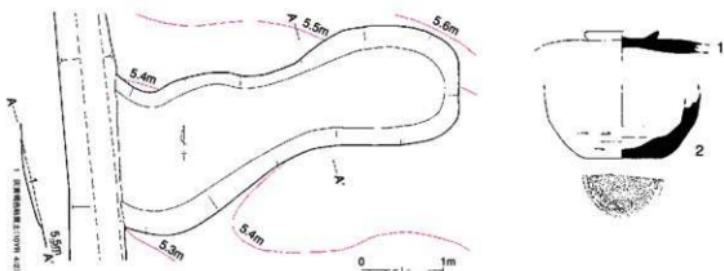
## (2) 溝

### SD01 (第6図)

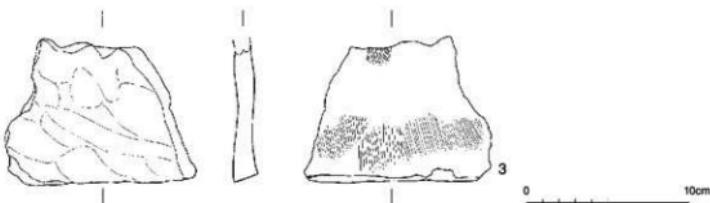
規模と形態 A区中央西よりで検出した溝状遺構である。幅は1.2m前後で深さは10~15cmと大変浅く、検出したものが人為的な溝の底部付近であるのか、あるいは一時的な流水痕跡など自然のくぼみであるのか不明である。調査時点ではSD02としており、出土遺物には「SD02」と注記されているが、調査の進展に伴いSD01が遺構でないことが判明したので、繰り上げてSD01とした。

出土遺物 (第7図) 1~3は土器器である。1は単純口縁の土器器である。口縁部は直線的に外反し体部には縱方向のハケが施される。端部外面に若干段を設けて薄く引き出すような形状を呈している。古墳時代中期の資料であろう。2は土器器低脚環の脚部と考えられる。1mm大の石英・長石を含みにぶい黄橙色を呈する胎土で、古墳時代前期の資料とみられる。3は内面ケズリで環部の外れた脚である。大型の低脚環ないし全高の低い高环の脚部とみられるが、胎土は2に類似して古墳時代前期の土器によく見られるものであり、低脚環の可能性が高い。古墳時代前期の資料である。4は棒状で4面に研磨痕のある砥石である。流絞岩製である<sup>1)</sup>。

時期と性格 出土遺物中の最も新しい1から古墳時代中期と考えられる。性格は規模と形態にも記したように人為的な溝ではなく自然地形で、そこに土器が堆積したものである可能性が高い。



第8図 尾崎遺跡 A区 SD02 実測図 ( $S = 1/60$ )



第9図 尾崎遺跡 A区 SD02 出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

**規模と形態** A区北西よりで検出した溝状構造である。幅は1.2～1.7m前後で深さは5～10cmと大変浅い。よく締まった灰黄褐色粘質土が堆積しており、埋土からみるとSD01よりは溝らしいが、SD01同様に検出したものが人為的な溝の底部付近であるのか、あるいは自然のくぼみであるのか不明である。調査時点ではSD03としており、出土遺物には「SD03」と注記されているが、構造名稱の繰り上げに伴いSD02とした。

**出土遺物(第9図)** 1・2は須恵器である。1は輪状つまみを持つ須恵器蓋で外面はナデされている。高広IV A期の資料である。2は須恵器底の底部で、外周にケズリが施される。3は移動式窓の袖の部分と考えられる。外面にハケが施される。

**時期と性格** 出土遺物中の最も新しい1から奈良時代8世紀前半の構造と考えられる。性格は不明である。

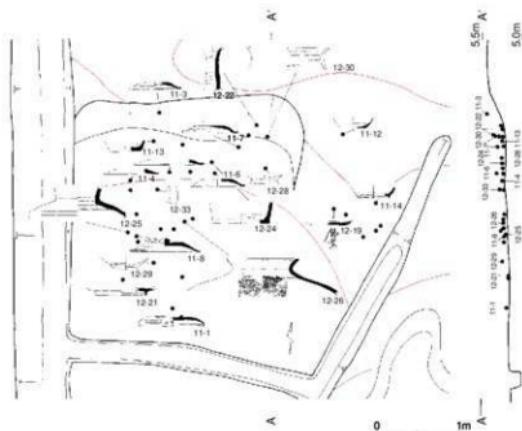
### (3) 土器溜まり

#### 土器溜まり1(第10図)

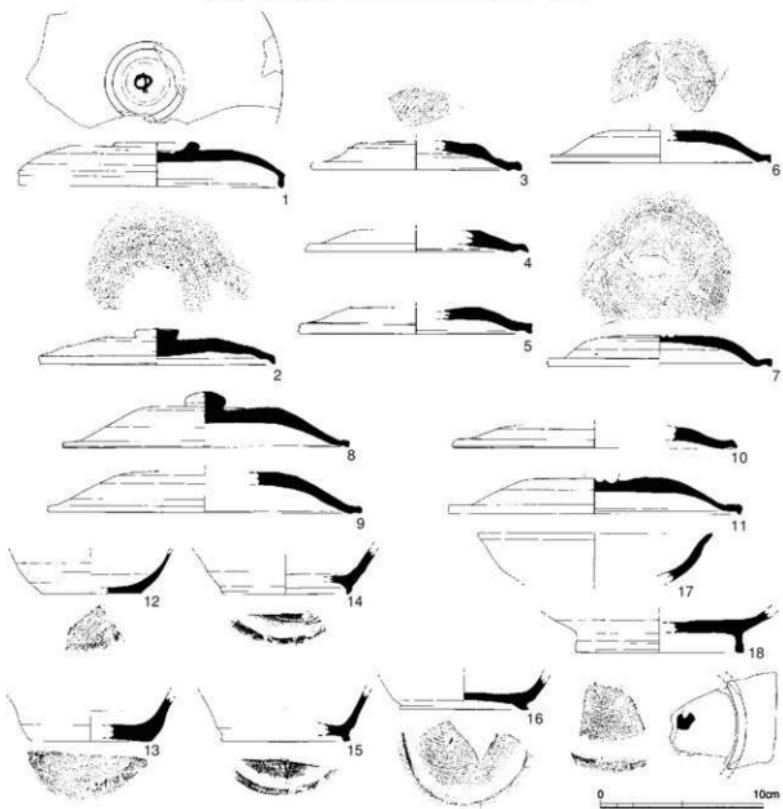
**規模と形態** A区中央やや北寄りで検出した土器溜まりで、基盤層が若干加工段階に掘り下げられ、やや平坦になった部分の東西約4m、南北約3mから土器類がまとまって出土した。出土遺物の層位は調査区全体の包含層で言うところの第4層黒色粘質土(第5図中央土層図7層)に当たり、遺物は後述のように奈良平安時代須恵器を中心とする。

**層位と出土状況** 出土層位は黒色粘質土であるが、多くの資料は基盤層である緑灰色の砂礫直上に溜まる様に出土している。なお出土遺物には完形品はみられず破片資料が多いが、1・6・7・16・19・26など土器溜まり中で小片が接合できた資料が多い。

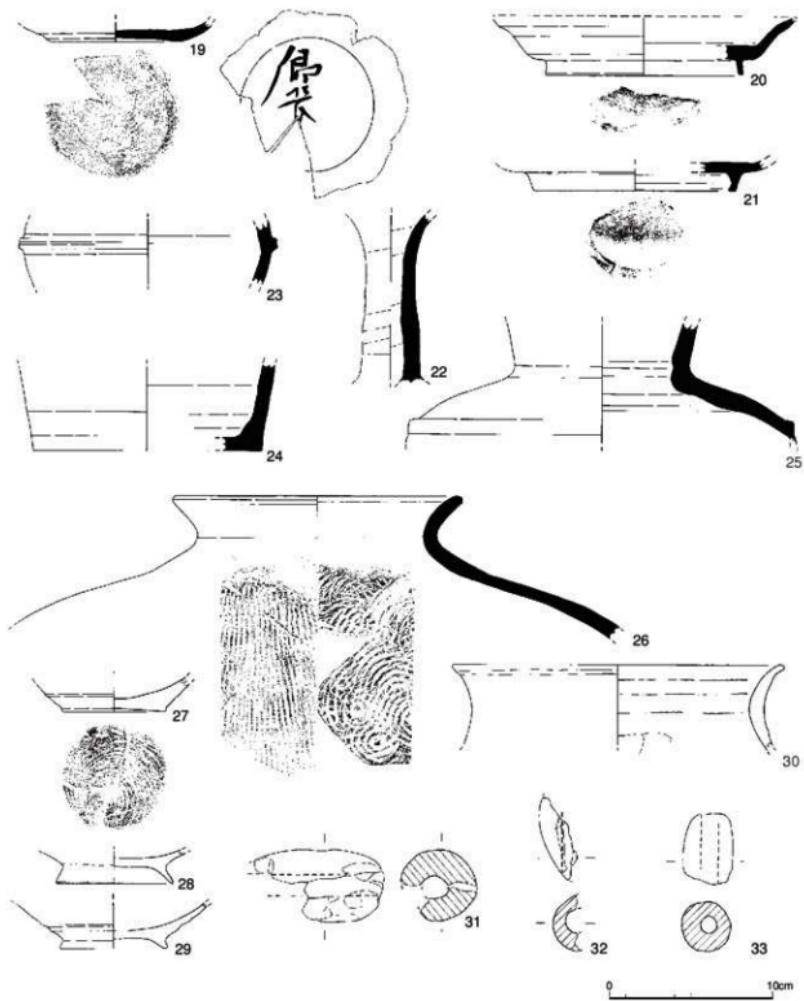
**出土遺物(第11・12図)** 出土遺物は奈良平安時代の須恵器・土師器であり、中心は高広IV B期、8世紀後半の資料である。1は輪状つまみを持ち、端部が下端に折り曲げられている須恵器蓋である。



第10図 尾崎遺跡 A区土器窯り1出土状況 (S = 1/60)



第11図 尾崎遺跡 A区土器窯り1出土遺物実測図(1) (S = 1/3)



第12図 尾崎遺跡 A区土器窯り1出土遺物実測図(2) (S = 1/3)

出土した蓋の中で最も古い形態を示すもので、頂部にナデの下に静止糸切り痕を残す。高広Ⅲ B～Ⅳ Aの資料で<sup>7</sup>、8世紀初頭のものである。頂部内面は手で触ると平滑になっていることがわかる、明瞭な使用痕跡がある（ただし、転用硯としての使用を示す墨の付着はない）。また、頂部外側つまみ内側に「の」「虫」の字状の墨書が施される。天地逆とすると一般的な底部外側の墨書となるわけで、本資料が皿として利用された可能性を示すものである。2～11は須恵器の蓋で、端部を屈曲させ下方につまみ出す一群である。全体の形状が判明する資料ではボタン状のつまみ・やや丸みを帯び

た宝珠状のつまみが確認でき、つまみのとれた資料からも同様のつまみが想定され、輪状つまみは確認できない。このうち 6・7 の頂部外縁の屈曲部際には、ケズリ調整によるものではない 2 条の沈線が確認できる。2 の資料の外縁にも、ケズリ調整によって生じた可能性もあるが、沈線状のものが 2 条がみられる。3・7・10・11 には頂部外面に回転糸切り痕が残る。12 は体部が丸みを帯びる無高台の壺である。底部回転糸切り。13 体部が直立する無高台の壺で、底部は回転糸切りである。14～16 は須恵器高台付壺である。いずれも小片であるが高台の位置が底部外周になり外面には回転糸切り痕を残す。高広 IV B 期の資料である。17 は無蓋高壺片であろうか。18 は比較的高い高台を外周より内側に有する壺ないし皿の底部で、外面に未判読の墨書がある。19 は壺ないし皿で底部外面に「郷長」の墨書が施される。20・21 は須恵器皿である。底部回転糸切りで直立する比較的高い高台を持つ。高広 IV A・B 期の資料である。22 は頸部が細く、口縁部が外反する長頸壺いわゆる水瓶の頸部である。粘土紐巻き上げ痕跡が残る。県内の類例は少なく、松江市堤平遺跡・山津遺跡・出雲市大井谷 II 遺跡<sup>3</sup>での出土が知られているにすぎず、生産地近傍である山津遺跡を除くといずれも丘陵中に所在する仏堂・寺院の遺跡である。23 は突帯を巡らす壺類の肩部である。突帯を巡らす須恵器は淡山池窯跡・古曾志平廻田窯跡など高広 V 期以降、9 世紀代と推定されている窯跡からの出土が知られており、本資料も 9 世紀代のものであろう。24 は壺類の底部である。25 は短頸壺の頸部である。26 は体部最大径に比べて小さい口径で、単純口縁を持つ壺である。27～29 は土師器である。いずれも底部外面に回転糸切り痕を残す。27 は無高台で体部が直線的に大きく外反する資料。28・29 は高台を持つもので、全体的に摩滅が著しい。27・28 は大坪 3 号墳出土資料に類似し、10 世紀代と考えられる<sup>4</sup>。

30 は土師器壺である。31～33 は管状土錘である。31 は孔径 1.4～1.8 cm で長さも 8 cm 近くなる大型の資料、2 は孔径が同じく 1.4 cm 程度の資料である。33 は孔径 1.0 cm、長さ 4.3 cm とやや短い。いずれも孔径 0.7 cm 以上であり、袋網に使用された可能性のある土錘である<sup>5</sup>。

**遺構の時期と性格** 出土遺物の時期から、土器溜まりは主に 8 世紀後半に形成されたものであろう。また完形品ではなく、かつ破片資料の接合するものが多いことから、破損した土器を廃棄した場所であろうか。

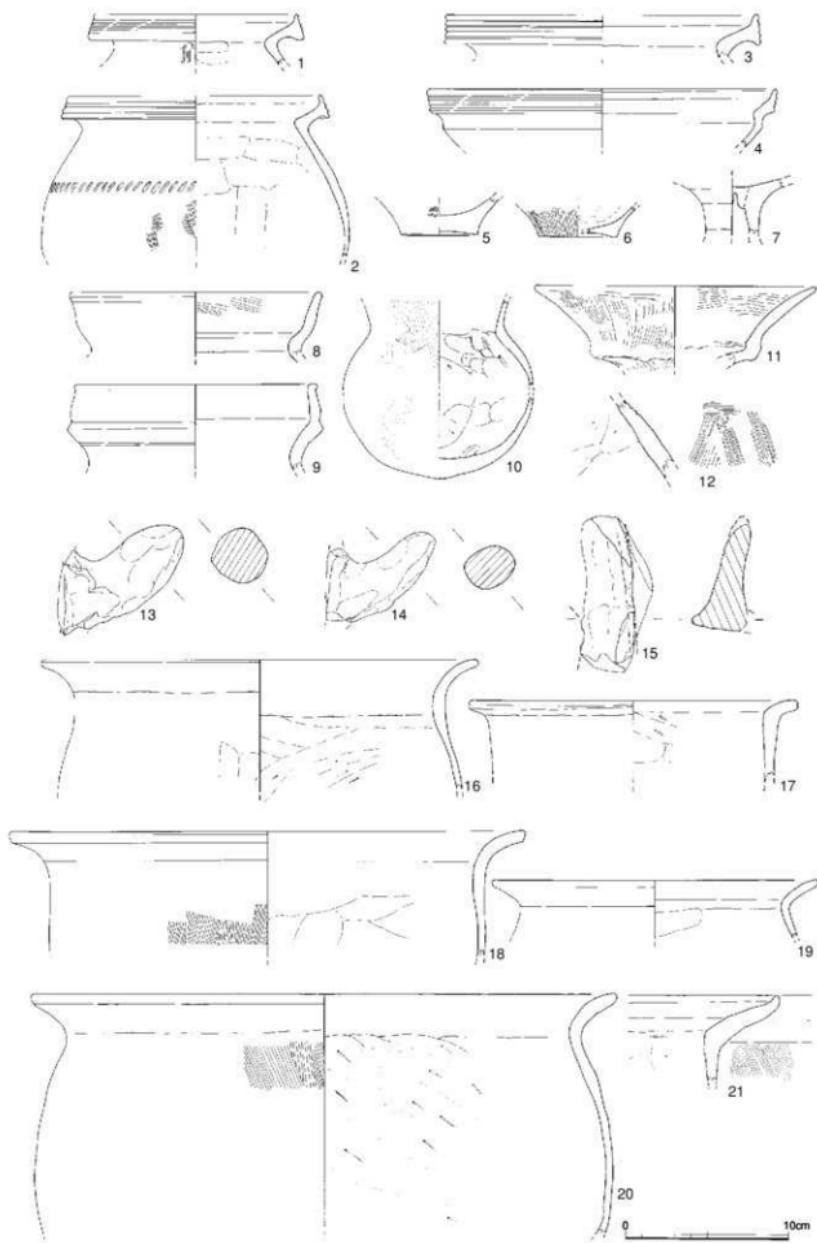
#### (4) 遺構外出土遺物

##### A 区遺構外出土遺物（第 13～18 図）

遺構外とした遺物で、第 2～4 層からまんべんなく出土している。位置的には先述土器溜まり 1 に含まれるものとの取り上げ時に遺構外との扱いになってしまった資料もある。

1～6 は弥生土器である。1～3 は口縁を主として上端側に拡幅、内傾させ複合口縁部に擬凹線文を施す壺である。1・2 はともに内面にケズリ調整が確認され、2 は体部上半に連続刺突文（おそらくヘラ状工具によると思われる）がある。4 は口縁部を複合口縁に作る鉢ないし高環壺部である。いずれも松本出雲 V-1 様式・草田 1 期の資料と考えられる。5・6 は平底の弥生土器壺の底部である。外面ハケ・内面ケズリを施す。

7～12 は土師器である。7 は円盤充填松山 β 技法で中心部に刺突を残す高壺である。8 は複合口縁が痕跡的に残る土師器壺で、口縁部内側若干のハケを残す。9 は同じく内傾する複合口縁が痕跡的に残る壺口縁部である。10 は小型丸底壺で、頸部・体部の間のくびれが少なく不明瞭な資料である。いずれも松山 II 期・九景川様相 2～3 の時期の資料となる。11 は口縁部が広く外反する壺の口縁



第13図 尾崎遺跡 A区遺構外出土遺物実測図 (1) ( $S = 1/3$ )

部で内面には横方向のハケ・外面には縦方向のハケが認められる。類例が少なく時期は不明であるが古墳時代前期頃と考えられる。12は弥生土器の壺等の肩部と推測される資料である。内面ケズリ・外面に櫛書き沈線による山形文他が施されるものと推測される。内面ケズリが施される点からみて弥生後期頃の資料であろうか。13・14は瓶取手である。15は移動式壺の底部分である。

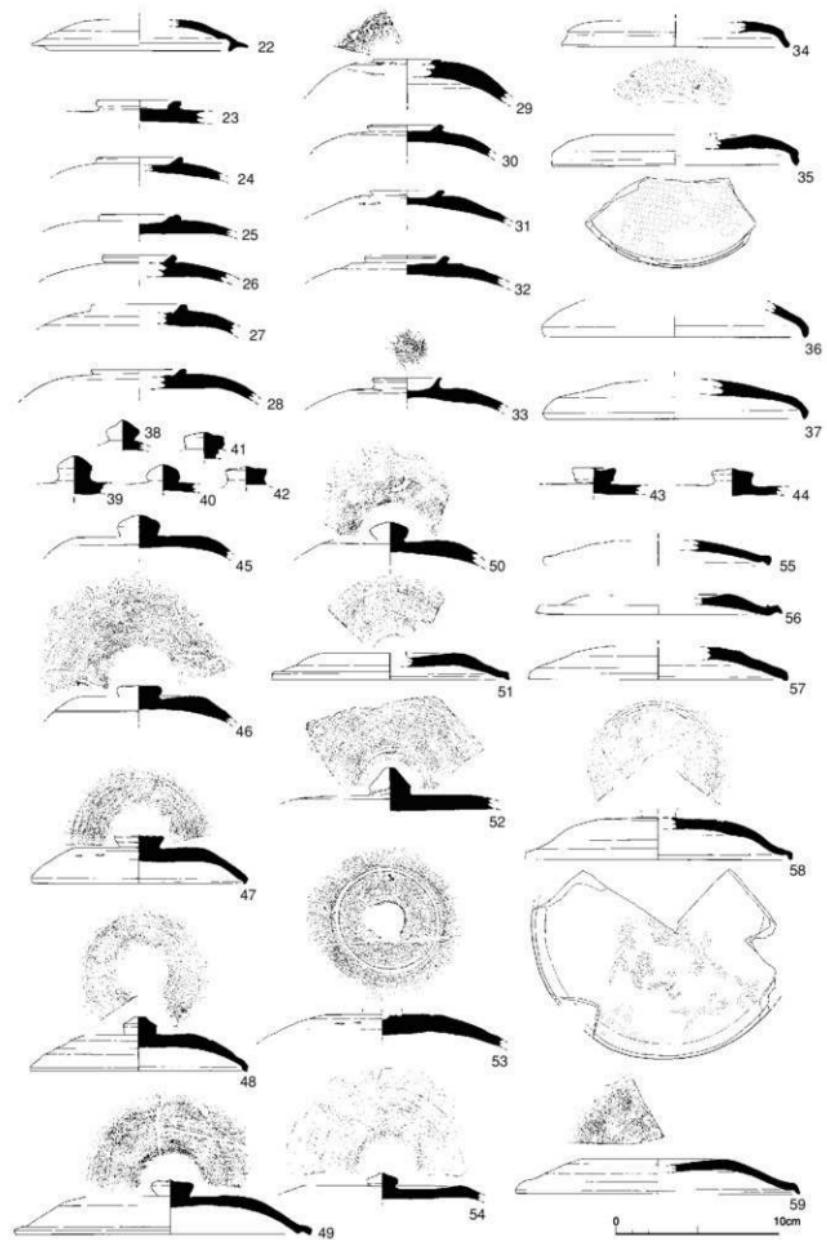
16～21は土師器壺である。いずれも体部内面をケズリ調整とし18・19・21は外面にハケを施す。古墳時代後期以降の資料とみられる。

22～122は須恵器である。22は端部のかえりの反転した蓋である。復元底径は13.4cmとやや大型化している。高広ⅢA期の資料で、7世紀後半の資料であろう。23～33は輪状つまみを持つ蓋である。29は頂部外面に竹管状工具（口径は、0.6cm程度）による刺突文を持つ。いずれも低平な輪状つまみであるが、33のみはやや高く端部が外反する。34～37は頂部付近を欠く須恵器蓋である。34・35は端部を下側に折り曲げるものの、36・37は折り曲げの弱いものである。以上の資料は高広ⅣA期から同B期との中間的要素を持つ資料である。38～44は蓋のつまみ部分のみがされた資料である。広い意味で宝珠つまみの一群であるが、高く径の小さい一群（39～40）と低く径が大きいボタン状を呈する一群（41～44）がある。

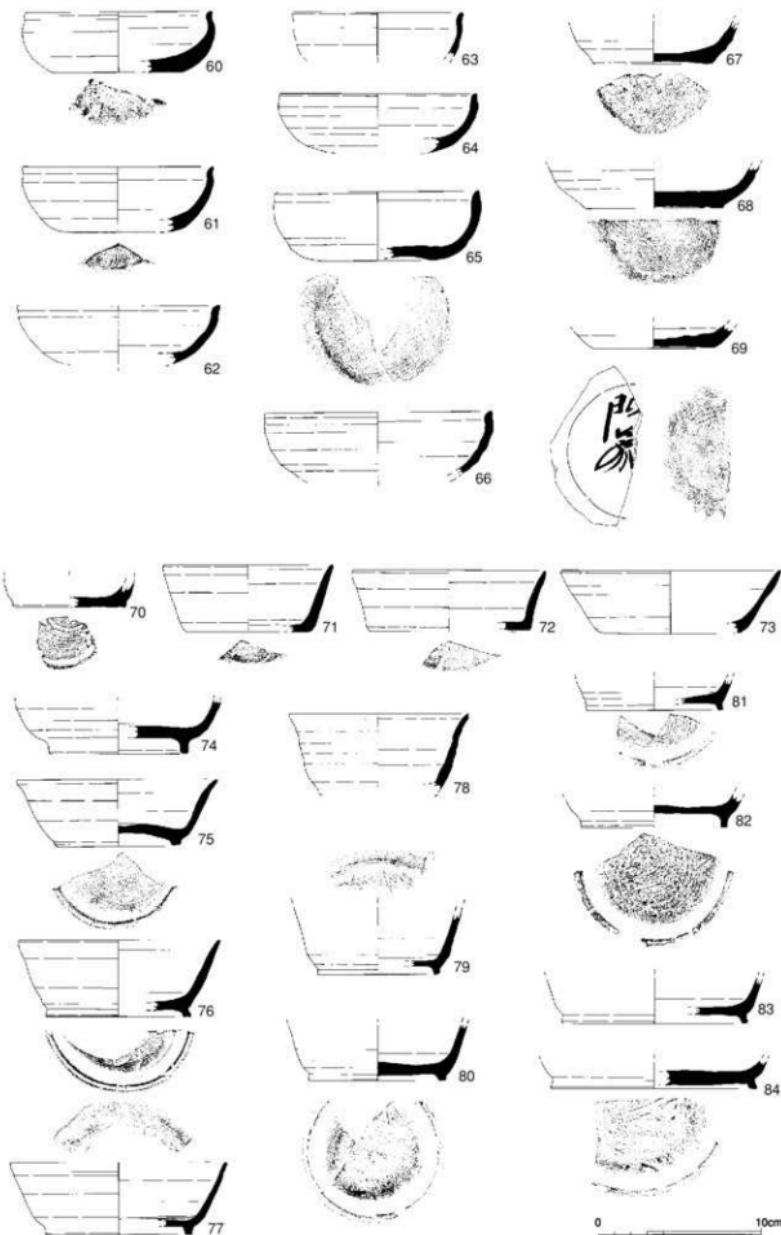
45～59は上述宝珠状のつまみを持つ須恵器蓋である。つまみは径の小さく高いものと、径が大きく低いものに大別できる。頂部外面は回転糸切り痕を残すもの（47・48・51・54・56）、ナデによって確認できないもの（46・52・53・57・58・59）、ヘラケズリが頂部全面にわたっている、ケズリによって頂部中央のつまみ部分が凹むものなどヘラ切りを想起させるものも存在する（49・50）。また、肩部外面に沈線を施す資料（52・53・58）はいずれも外面の肩に相当する部分が丁寧なケズリにより緩やかなカーブをえがく断面で肩で、ケズリ・底部切り離し痕がそのまま残り肩が張る一般的な蓋より丁寧に作られている。また58頂部内面に油ないし墨のような茶褐色の物質が付着している。

60～69は無高台で体部が丸みを帯びる壺である。60・61は口縁端部を明確にS字に屈曲させ、最大径が屈曲下の体部に来るもので高広ⅣA期。残りは端部を、外面を押し込んでアクセントをつけるもの（63・64）、外反させるもの（62）、押しつぶすもの（66）などで、高広ⅣB期に相当する資料であると思われる。いずれも底部には回転糸切り痕が残る。69は底部外面に「門家」が墨書きされる。70～73は直線的な体部を持つ資料で71・72は急角度で立ち上がるのに対し、73は器形も大きくやや外反する。71・72がより古い要素を持っており高広ⅣB期、73はV期に近い側の新様相であろう。いずれも判明するものはすべて底部回転糸切りである。74～84は高台付壺である。74は体部が丸みを帯びる資料であるが高台は直立し、同種の壺では最も新しい様相を持つものである。高広ⅣA期。77～84は高台が底部外周に寄り、高さも低いもので体部の形状は不明なものが多いが、多くが直線的に立ち上がる壺であろう。77には底部内面に沈線状の部分がある。高広ⅣB期の資料である。85～87は底部の状況が不明の壺類である。体部に突帯を巡らす資料もある（86・87）。9世紀代とされる須恵器窯跡からの出土が知られており（渋山池窯跡・古曾志平廻田窯跡）、高広Ⅳ期以降の資料であろう。

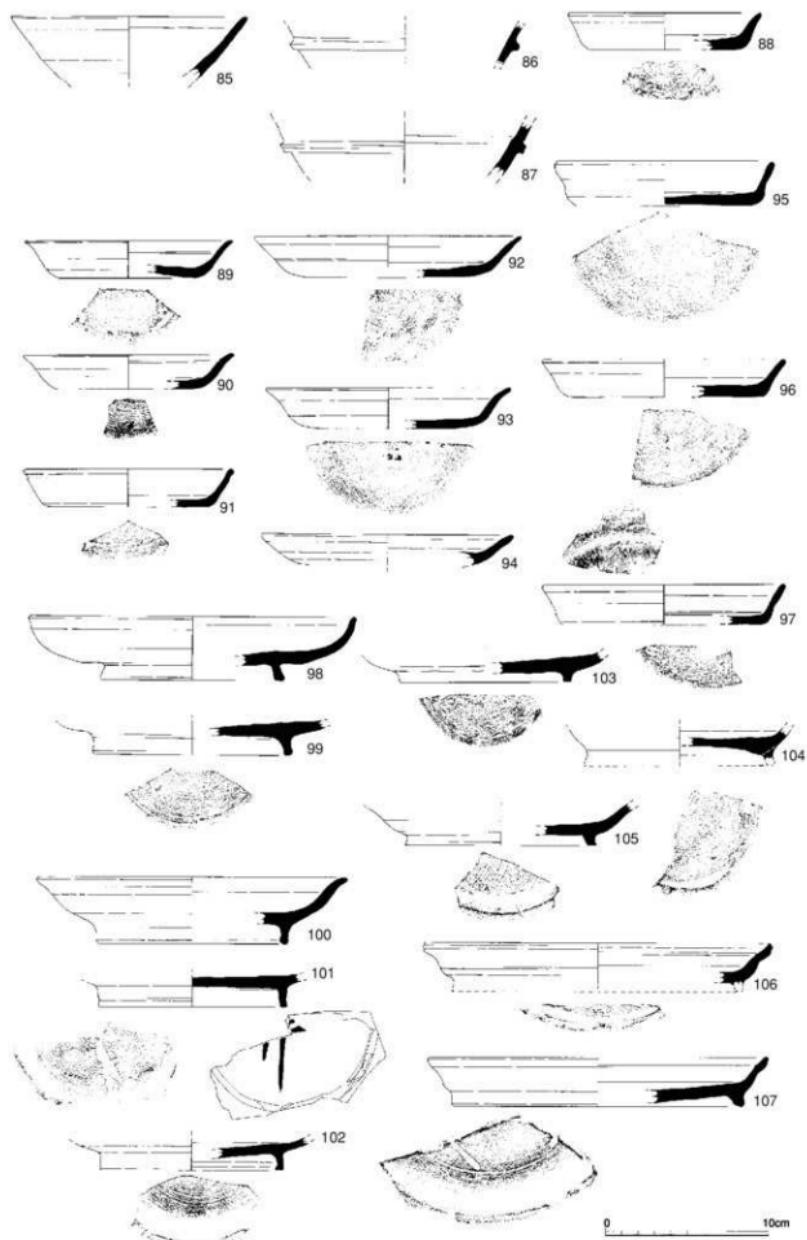
88～97は無高台の皿である。立ち上がりは75°に近い急角度のものと（88・95～97）、45°前後のもの（89～94）に分別可能である。極端に低平になるものはなく、いずれも高広ⅣB期の中で理解できるものである。底部は回転糸切り。なお、97の底部内面外周付近には沈線2条が施されている。98～107は高台付の皿である。98は体部が丸みを持ち端部も外反せず、高台の位置が中央寄



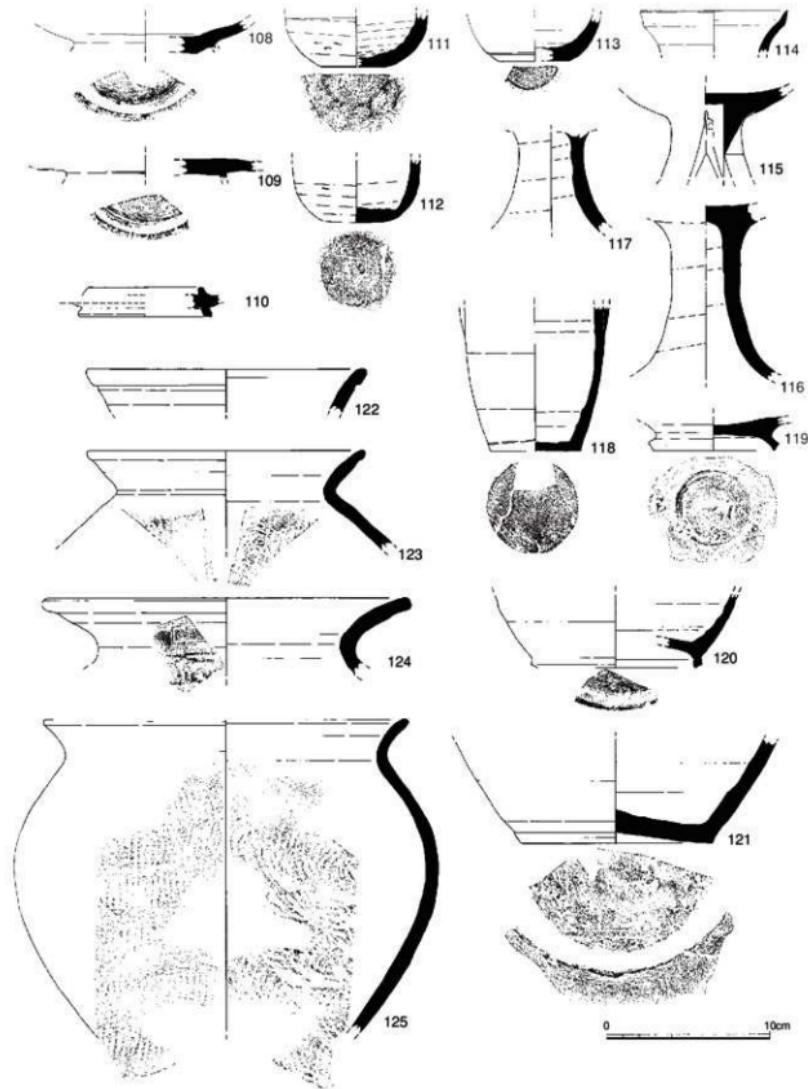
第14図 尾崎遺跡 A区遺構外出土遺物実測図 (2) ( $S = 1/3$ )



第15図 尾崎遺跡 A区遺構外出土遺物実測図(3) (S = 1/3)

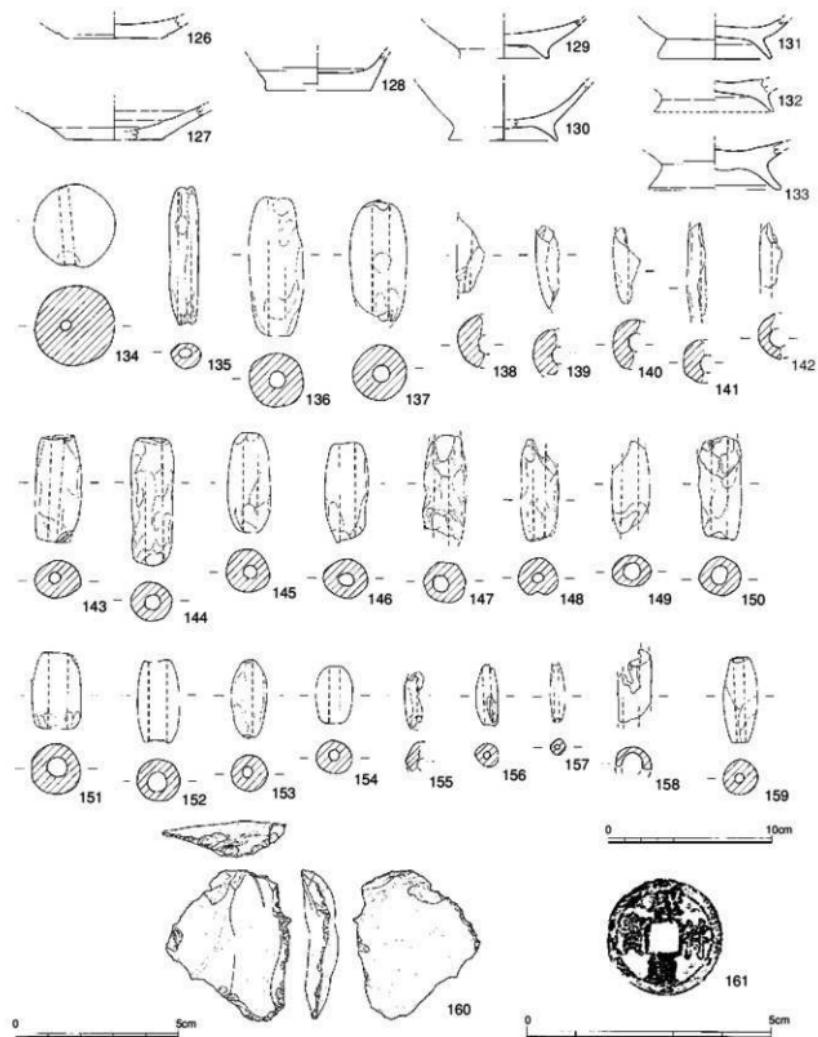


第16図 尾崎遺跡 A区遺構外出土遺物実測図(4) (S = 1/3)



第17図 尾崎遺跡 A区造構外出土遺物実測図(5) (S = 1/3)

りでややハの字に外反する資料である。体部・高台の形状の類似性から、高台を持つ体部の丸い环同様に古相を読み取ることができる。体部は不明であるが99も同様のものであろう。高広IV A期。100～102は高い高台を持つ皿で、体部が残存していれば、100のように端部が外反するものを典型的とする資料である。103～107は高台が低い皿で、底部外周に高台の着く資料もあり、形状故しばしば焼きひずみによって底部中央が垂れ下がる。102以降の皿は高広IV B期内の変異で理解でき



第18図 尾崎遺跡 A区造構外出土遺物実測図 (6) (S = 1/3, 160 : S = 2/3, 161 : S = 1/1)

る。なお、101には底部外面に「井」と推定される墨書がある。

108・109は皿の可能性が高いが、底部を回転糸切りしたのち、糸切り痕の外周に高台状のものを取り付けている資料で、底部が肥厚する点もやや一般的ではない資料である。110は小片であるが内外面に輪状の突帯が添付されており、托と考えられる資料である。

111～114は甌と考えられる資料である。111～113はいずれも底部ヘラ切りの資料である。115～117は高坏である。111は1段透かしを持つ低脚無蓋高坏と考えられ出雲大谷編年のA4ないし5類、出雲4期の資料である。本調査区出土須恵器の中では古い資料となる。116・117は粘土巻き上げ痕跡の残るもので8世紀後半に現れる高坏の脚部とみられる。118～121は壺類の底部である。118は薄手の長径壺であり、肩の部分に粘土貼り付けによるつまみ状の張り出し（おそらく二カ所）を持つ。上半は欠損するが、底部内面の袖の付着状況から細めの頸部であったと推測される。底部回転糸切りでいわゆる平城宮・長岡宮出土の壺Gに類似する。しかし一般的な壺Gには肩のつまみではなく、器壁の薄さなどは出雲国府出土の例とも異なる。

119は長頸壺の底部と思われる。四つ葉のクローバー状のスタンプが底部外面に押印される。同様のスタンプは出雲市鹿島山遺跡、文様は異なるが長径壺底部にスタンプを押したものとして西ノ島町物井横穴墓群7号穴に出土例がある。大谷出雲7期の長径壺にしばしばみられるものである。120・121は壺類の底部、122～125は甌である。いずれも単純な口縁を持つもので、体部外面に平行のタタキ・内面に同心円のタタキがみられる。

126～133は土師器の坏である。126・127は広く外反する資料。129～133は高台の付く資料である。後者のうち131～133が10世紀代頃のものであろう。

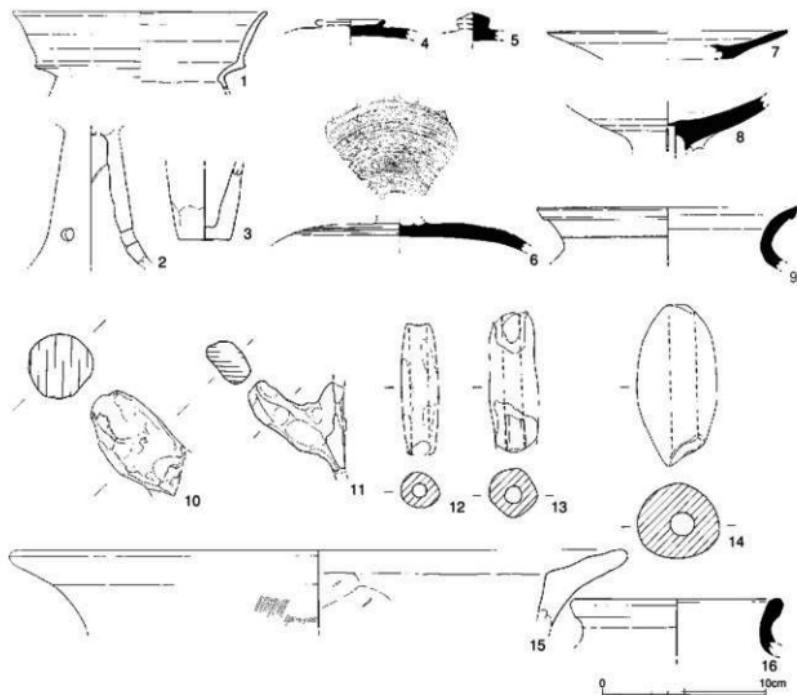
134～159は球状・管状土錘である。なお観察表の孔径の記載は、他の部位の数値と異なり網の糸の太さを考える上で必要な最小値を記載している。134は球状の土錘である。直径5.0cmの真球状を呈し、0.7cm程度の縫穴が穿孔される。肩側の孔部分のみ指押さえがある。135以降と明瞭に異なっており、時代・用途等が異なる可能性が高い。重量121g。135以降は管状土錘である。概ね直径3.5cm長さ8cm、孔径1.0cm、重さ100g前後の大型の資料（136・137）、孔径は同様であるが、厚さが薄く直径3.0cm、長さが6cm、重量40g程度と推定される資料（138～150、152・153）、孔径0.3長さ4cm、重量5g以下程度（155～157）の3種に分類できる。このほか、太く長さの短いもの（151）他が少量含まれる。端部の調整については不明なものが多いが、145・146・151など指による確認ができる資料もある。

160は黒曜石の剥片である。重さ129g。161は祥符通宝である。

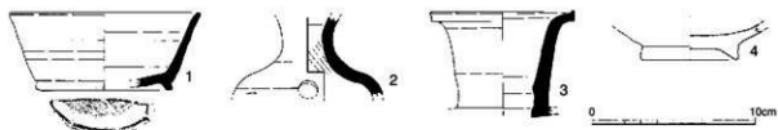
#### A区拡張部出土遺物（第19図）

第1節で述べたように、A区の調査が終了し中国電力側にいったん引き渡したのち地質調査工事中に西壁が崩落、この崩落部分と新たに法面をつけ直すために拡張した部分がA区拡張部である。第2図に示したようにA区の西側に位置する。調査区の状況はA区同様であり、緑灰色の砂礫土状に遺物が散布していた。なおSD01の西側部分については既に崩落しており確認できなかった。

1は弥生土器甌の口縁部である。複合口縁部が外反し、薄く上方に引き出される特徴から、草田5期の資料であろう。2は土師器高坏脚部である。松山a技法、中心に刺突痕跡を残すもので、3方向の円形透かしが確認される。古墳時代前期の資料である。3は弥生土器ないし土師器のミニチュア土器と推測されるものである。4～6は須恵器蓋である。4は輪状つまみ（高広産Ⅲ～Ⅳ期）、5・6は宝珠つまみを持つ（高広ⅣB期）。6は肩部に2条の沈線を持つ資料である。7は体部が



第19図 尾崎遺跡 A区拡張区出土遺物実測図 (S = 1/3)



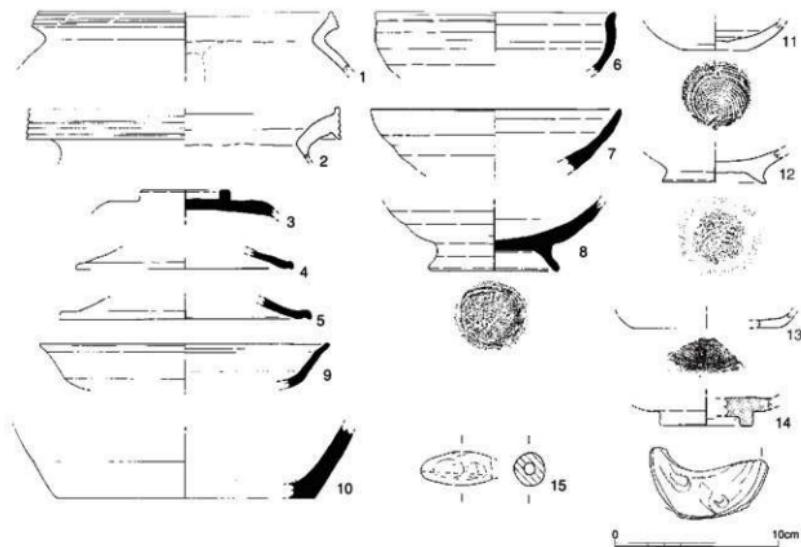
第20図 尾崎遺跡 その他遺構外出土遺物実測図 (S = 1/3)

広く外反する須恵器皿で、高広V期9世紀代の資料である。8は須恵器低脚高坏で、透かしが切り込み状に退化している（ただし内面まで貫通する）。大谷出雲6期の資料である。9は須恵器壺口縁部である。端部が若干肥厚する。10・11は瓶把手である。12～14は土錐である。12・13はA区出土のものの中型に該当し、14は大型に該当する。19は土師器壺の壺口縁部である。ほぼ直線的に外反する口縁部を持つ。16は焼成不良の須恵器の壺口縁部である。

#### その他の遺構外出土遺物（第20図）

取り上げ時に調査区が不明となってしまった資料である。多くがA区の出土と想定される。

1は須恵器高台付坏である。直線的に立ち上がる体部・口縁部を持つ。高広IVB期の資料である。2



第21図 尾崎遺跡 B区遺構外出土遺物実測図 (S = 1/3)

は須恵器類である。3は須恵器直口壺の頸部である。4は土師器高台付壺である。

#### B区遺構外出土遺物 (第21図)

本節はじめ述べたように、B区では遺構を確認できなかった。遺物包含層中の出土遺物のみ記述する。1は弥生土器甕である。口縁部が上方に拡張され凹線が施される。屈曲も少なく松本IV-2様式の資料である。2は弥生土器甕である。頸部内面以下はケズリが施され、口縁部は上下に拡張され擬凹線II類が施される資料である<sup>7</sup>。松本出雲V-1様式、草田1段階。3～8は須恵器である。3は輪状つまみを持つ蓋としたが、ややつまみの形状が高く高さを有しており一般的でない。4・5は端部内面にアクセントをつける程度の資料で、蓋としては端部を丸く收め、アクセントが消失する直前の資料、高広IV-B期でも終末に近い資料である。6は口縁端部にアクセントを持ち、体部は丸みを帯びて無高台と考えられる壺である。7・8は浅い皿状を呈する高台付壺で8は底部へラ切りである。高広III-A期の資料であろう。9は口縁端部が外反する皿である。10は須恵器壺類の底部。11～13は土師器壺の底部である。11・12には底部外面に回転糸切り痕が残り、12は特に体部外面に黒色物質が付着、黒色を呈する。13は内面のみを赤彩する土師器で内面回転ナデの痕跡が残る。14は底部内面周辺に区画線、割花文が施される。高台内は露胎である。龍泉窯系青磁碗I類、12世紀後半台の資料であろう。

<sup>7</sup> 三瓶自然館中村唯史氏に鑑定を受けた。

<sup>8</sup> 高広III-B期・IV-A期は前者を制止糸切り技法、後者を回転糸切り技法で分別する。当資料は切り離し技法ではIII-B期となるが、端部の下端より曲げを含む器形全体ではIV-A期に近い。

<sup>9</sup> 島根県教育委員会 2002『堤平遺跡』、松江市教育委員会『大井窯跡群・山津窯跡・山津遺跡発掘

調査報告書』、出雲市教育委員会 2001『大井谷Ⅰ遺跡・大井谷Ⅱ』。

\*4 広江耕史 1992「島根県における中世土器について」「松江考古」8、島根県教育委員会 1976「大坪古墳群」「国道9号バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」。

\*5 川上稔 1996『上長浜貝塚』出雲市教育委員会。同書引用の真鍋篤行氏の指摘による。

\*6 大社町教育委員会 2005『鹿藏山遺跡』、西ノ島町教育委員会 1995『物井横穴墓群発掘調査報告書』。

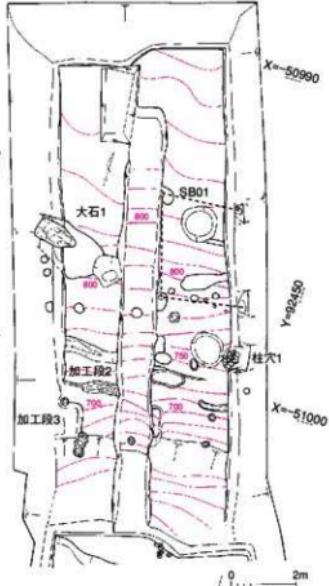
\*7 池淵俊一 1998「弥生時代後期集落を巡る諸問題」「門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡」島根県教育委員会。

### 第3節 C区の調査

#### (1) 調査の経緯

C区はA・B区北側の丘陵南斜面に当たる調査区である。調査前の状況は標高6~10mの果樹園で、南ほど不自然に急傾斜となっている。これは丘陵下の水田面(A・B区)を広げるために裾部をカットしたためと推測され、実際に調査を実施すると、南側約5mの部分にカットの断面が確認されている(第22・23図)。一方丘陵頂部側は緩傾斜であり、さらに中世頃にいたん平坦に削平された痕跡が認められた。

松江市教育委員会によるトレンチ調査はこの削平された部分で実施されていたため、古代の遺構遺物が確認できず当初遺跡はないものとされていた。しかし、平成20年1月9日の島根大学法文学部大橋康夫教授の調査指導において、A区を中心に8世紀後半台の須恵器が多数出土したことからA区に遺物を供給した遺構などがある可能性が指摘され、再度トレンチ調査を実施することになった。第21図中央にくぼみとして残る部分がこのトレンチ調査跡で、ここにおいて7世紀後半~8世紀後半の資料が出土したため、急遽遺跡があるものとして発掘調査を実施することとなり、1月11~31日にかけて本調査を実施した。なお、調査区の国土



第22図 尾崎遺跡 C区調査区全体図  
(S = 1/150)

座標X = -51000より北側については、中国電力と協議の結果、地質調査の工事の設計を変更することで遺跡に影響が及ばないこととなった。このため、第22図に見える状況で調査を終了し、大石の堀方・ピットなどを含め平面的に検出するにとどめ、遺構埋土を完掘していない。

#### 調査区の層序(第23図)

東壁 表土の下に、南側には水田造成に関わるカットが2層として確認できる(東壁面にはカット面が残るが、調査区内ではカットされてしまっているので西壁側を含め2層に相当する土層の堆積はない)。この下に3層赤みを帯びた褐色粘質土が堆積するが、この土層は北側丘陵頂部にいくほど厚みを増しており、この層を剥ぐと頂部側は平坦となる。少量の底部位回転糸切りの土器小片が出土していることから、中世以前に削平されている模様である。北側はこの下はただちに基盤層黄褐色粘土層となっており、遺構も確認できなかった。一方、中央部には7・8・9・10層の土壤化した茶褐色~黒褐色土層が存在していた。遺構との関係を考慮しながら説明すれば、最下層の第10層が加工段埋没後に堆積した旧表土で、その上に地山ブロックを少量含む暗褐色粘質土8層がおそらく盛り土として盛られていると考えられる。さらに北寄りには8・7層が見えるがいずれも炭化物を含んでおり、8は整地土層と考えられる。この8層上面から礎盤建物の柱穴が堀込まれており、9層上面から礎盤建物の柱穴が堀込まれている、7層の炭化物を多く含む土層は礎盤建物の柱穴を覆う5層の下に所在することから、礎盤建物が機能していたときの床面に近い(すなわち炭化物が溜まる状況)可能性がある。なお、9層中から後述する高宮IV B期前半の土器つまり2が検出され

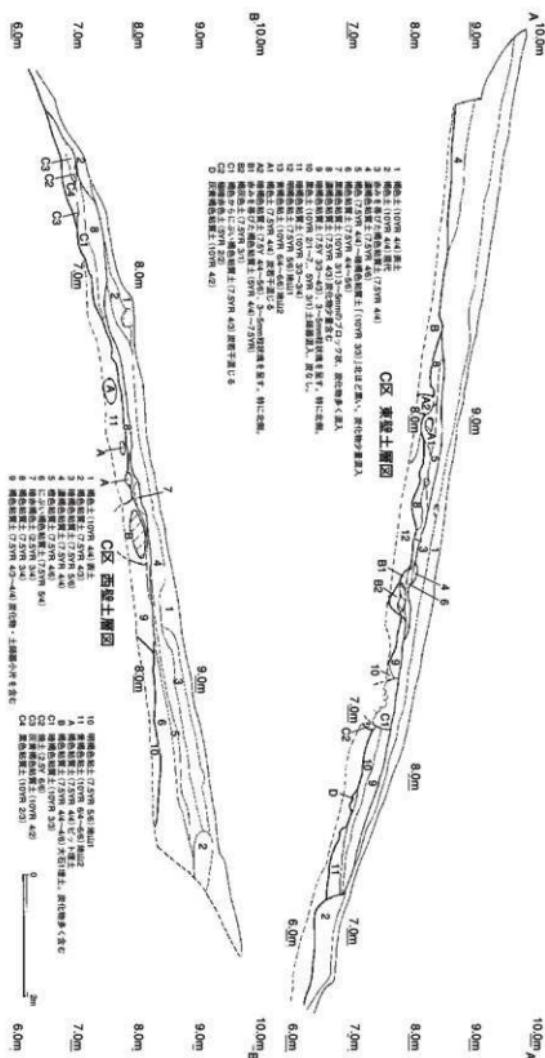
ていることから、礎石柱穴・礎盤建物は8世紀中葉以降にいったん整地されたのち構築されたものと考えている。

**西壁** 東壁同様、丘陵頂部側は平坦で、中世以降の土層が堆積している(4~6層)。その下に8層褐色粘質土があり、この層が古代の遺構を直接被覆する土層になる。東壁土層とは土色が異なるが、この西壁8層も東壁9・8層同様造成土である可能性がある(むしろ東壁8層より基盤層の粘土層に近い)。その下に南側の加工段1~3の埋土(C1~C3)があり、また中央付近の大石1とその堀方もこの8層の下になる。南側は谷水田の造成によりカットされ、表土(2層)のみの堆積となっている。

## (2) 建物跡

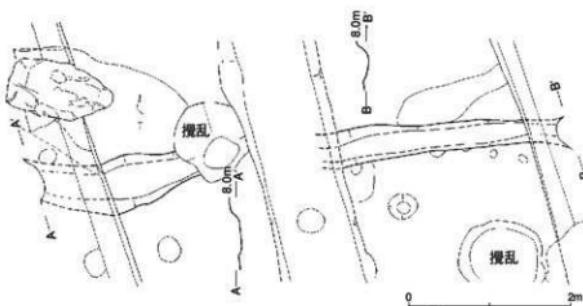
### SB01(第22・23図)

**規模と形態** C区東壁で石製の礎盤を持つ柱穴2カ所、柱穴と推定されるものの2カ所合計4カ所のみを確認している。同一建物の柱穴の可能性があることから記述するが、

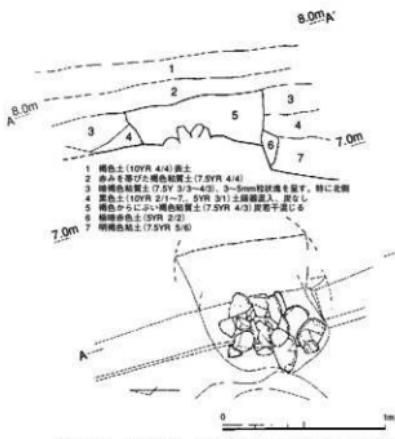


第23図 尾崎遺跡 C区土層図 (S = 1/80)

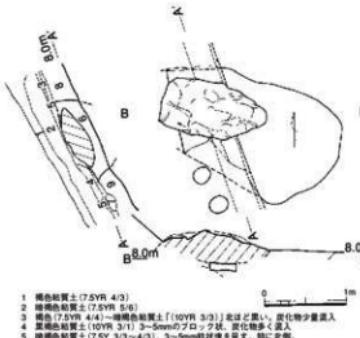
まず東壁礎盤のある柱穴4カ所については、柱穴間の距離は礎盤中央間で約2.95mと柱間1間分と考えると広すぎであり、礎盤上面のレベル高も南の柱穴が標高7.9m、北側が同8.4mと約50cm異なる。調査区内ではこのほかに中央のトレンチ付近で2つの柱穴を確認しているが、これを梁方向と考えるとやはり柱穴間距離が2.4~2.5m、平行四辺形状を呈してしまう。同一の掘立建物跡



第24図 尾崎遺跡 C区SD04実測図 (S = 1/60)



第25図 尾崎遺跡 C区柱穴1実測図 (S = 1/30)



第26図 尾崎遺跡 C区大石1実測図 (S = 1/60)

として組めない可能性もある。

**時期と性格** いずれの柱穴も調査の概要で述べたように側面・平面で検出したのみで、完掘していないため、出土遺物はない。時期については調査区の土層堆積状況で述べたように、造成土と考えられる東壁8・9層の上から堀込まれ、7層が床面であったと考えられる。7層は炭化物を多く含むので建物使用時には屋内で炭化物が溜まる状況であったのであろう。整地土とみられる9層から8世紀中葉～後半の土器が出土していることから、8世紀中～後葉以降と考えられる。

### (3) 溝

#### SD03 (第24図)

**規模と形態** C区中央付近、中世以降の堆積土(東壁3層・西壁4層)が埋土となる。東西には等高線と平行に走っており、大石の堀方埋土や礎盤建物の柱穴を切り、果樹を植えた跡と考えられる現代の擾乱によって切られている。幅は0.3～0.7m、検出面での深さ0.2mであるが西側ほど広く浅くなり不明瞭である。

**時期と性格** 直接の出土遺物ではなく時期は不明であるが、東壁では8世紀中葉の土層の上層に位置し、被覆する土層に中世のものと推定される底部回転糸切り土師器小片があることから、中世以降のものと考えられる。性格は不明であるが、丘陵側平坦面の端部近くに位置することになるので、何らかの区画溝であろうか。

#### (4) 柱穴

##### 柱穴1 (第25図)

規模と形態 調査区中央東端で、調査区排水溝掘削時に検出した。排水溝掘削時に検出面を飛ばしてしまっており、正確な規模は不明であるが、堀方底部近くで幅70cm、長さ50cm以上（約1/2程度を検出と想定される）の規模を確認している。底部付近には礎石根石とみられる拳～人頭大の石が残る。断面図をみるとさらに下層に6層とした柱穴状の堀込みがみられこちらが本来の堀方で、5層は礎石の抜き取り痕跡の可能性もある。なお、工事設計の変更により保存されることとなったので調査は図面状況でとどめ完掘していない。

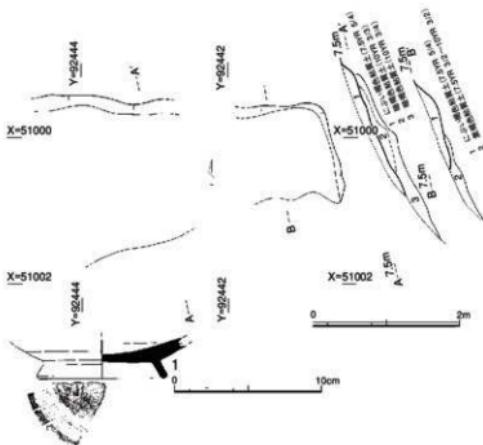
時期と性格 断面図5層は整地土と暗褐色土層で東壁土層（第23図）9層に当たる。高広IV B前半期の土器溜まり2がこの中にあることから5層（第23回の9層）は8世紀中葉～後半に形成されている。ここで4層を当初の堀込み、3層を礎石抜き取り痕とみて、4層が6層の堆積以前に堀込まれたとみると、当初の堀込みから廃施設までに6・5層が堆積あるいは盛り土されたことになりやや不自然である。3層は当初の柱堀方と礎石抜き取りを兼ねている、あるいは4層は5層上面から堀込まれたものであると考えておく。この場合、8世紀中葉以降に整地され、建設されたことになる。

#### (5) 大石

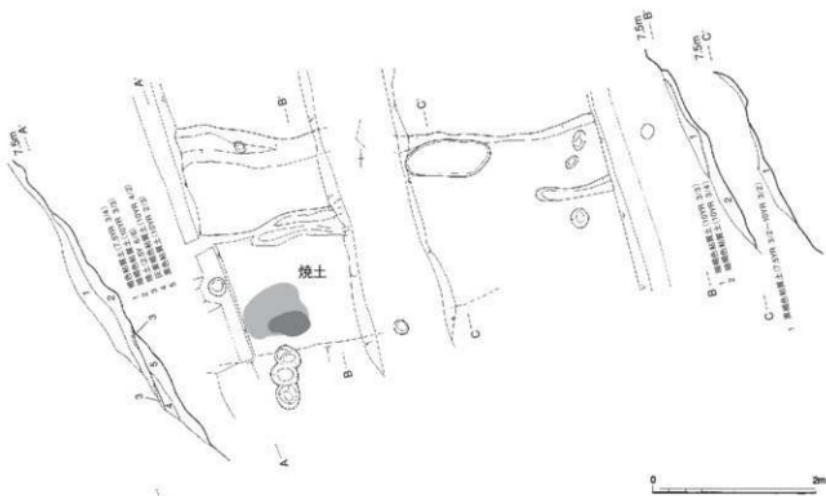
##### 大石1 (第26図)

規模と形態 調査区西端中央で調査区排水溝掘削時に検出した。長さ1.4m以上（西端は未検出）、幅0.9m、厚さ0.3mを測る大石が長方形の堀方に埋められていた。堀方は長さ2.3m幅1.2m以上で、炭化物を多く含む褐色粘土質で、北側にはさらに大きな窪地状の部分があり（断面8層）この堆積のうちに堀込まれている。大型の礎石堀方のようにも見えるが、大石の下に根石などではなく、建物に関わるものかは不明である。なお、工事設計の変更により保存されることとなったので調査は図面状況でとどめ完掘していない。

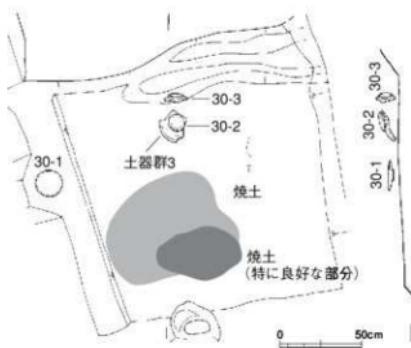
時期と性格 出土遺物はなく時期は不明であるが、炭化物の多い堆積土は東側のSB01床面付近の堆積土と類似しており、時期が近い可能性はある。なお、排水溝掘削時に検出したため、検出時には堀方を飛ばしてしまっていたが、作業員からの聞き取りによると底面でなく側面に人頭大の石若干があったとされる。堀方の大きさも検出面のものであり、断面を確認した箇所では石との隙間は小さい。前述のように建物の礎石とは考えづらいところがあり、不要な大石その他の石を穴を掘って片付けた遺構であろうか。



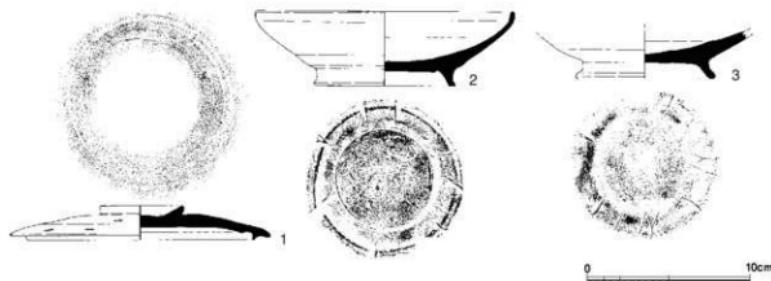
第27図 尾崎遺跡 C区加工段1実測図・出土遺物実測図  
(S=1/60, 遺物: S=1/3)



第28図 尾崎遺跡 C区加工段2実測図 ( $S = 1/60$ )



第29図 尾崎遺跡 C区加工段2実測図・遺物出土状況図 ( $S = 1/30$ )



第30図 尾崎遺跡 C区加工段2出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )

## (6) 加工段

加工段は調査区南側、現状では急傾斜となる部分に加工段1～3が重複して存在する。このうち加工段1は加工段2・3の埋土に新たに堀込まれているが、2・3は下層・上層の完形に過ぎず同一の加工段の時期の異なる生活面に過ぎない可能性もある。

### 加工段1（第27図）

規模と形態 最上層で検出した加工段で、後述加工段2・3の埋土を堀込んで等高線と平行に東西に長く斜面をカットした造構である。奥行き1～2m、幅約4mに渡って検出した。検出

面からの深さは0.2m程度であり、底部も傾斜をなしていることから、平坦になる加工段の主体部ではなく山側の端の部分であり、加工段の中心は流失しているものと考えられる。

出土遺物（第27図） 覆土から須恵器壺1点が出土した。ハの字に聞く高台を持つ体部の丸い壺である。底部切り離し痕跡はナデによって不明になっているが、高広ⅢB期の資料であると思われる。

時期と性格 出土遺物から、加工段の時期は7世紀末頃と考えられる。性格は大部分が失われており不明である。

### 加工段2（第28図）

規模と形態 加工段1の下に位置する。奥行きは西壁付近で約3m、調査区の東西いっぱいに検出した。西側南端は水田造成時のカットにより切られており、東側はなだらかな斜面となり段が不明瞭になって終わっている。遺存状況の良好な調査区西側では中に段と溝を持ち、ここから南側が加工段の中心となる平坦部分、北側が法面となっていた模様である。小柱穴が5基ほど確認される他、南側の水田造成時の法面にも3基の連続した柱穴が確認できる。後者については構築面が・覆土を消失しているため、加工段2・3のいずれに伴うのか不明であるが、加工段3では端部となってしまうので、おそらくこの加工段2に伴うのである。また、南片西寄りに焼土と周間に炭化物が広がる部分が存在するが、厚さは1～2cm程度ときわめて薄く炉跡等の可能性は低い。

出土遺物（第29・30図） 第29図に示したように加工段平坦部奥の溝か周辺から遺存状況良好な須恵器蓋・壺のセットが出土している。1は完形品の蓋である。輪状つまみ・端部にかえりを有し、頂部外面はつまみ内にヘラ切り痕跡を残す。2・3は須恵器高台付壺である。ともに丸く浅い体部を持ち高台はハの字に聞く。同時期の資料である。2は完形品ではないが復元するとほぼ1と組み合う。全体として同時期の資料みてよく、高広ⅢA段階、7世紀第3～4四半期の資料であろう。

時期と性格 時期は出土した須恵器から7世紀第3～4四半期頃と推定される。性格は消失した部分が多いことから不明であるが、火處があり、生活空間であった可能性がある。

### 加工段3（第31図）

規模と形態 加工段2の下層、南西隅で確認した。上層にはそのまま加工段2が営まれているため、加工段3は加工段2の下層に過ぎない可能性もある。堀込みはしっかりとしており、加工段2底部より約30センチの深さを有しているが、底部は平坦でなく斜面であり、やはり加工段本体の平坦部ではなく山側法面端部であろう。きわめて黒い土が堆積していた。検出部分は奥行き1m、幅0.5m程



第31図 尾崎遺跡 C区加工段3実測図 (S = 1/60)

度である。

#### (7) 土器溜まり

##### 土器溜まり 2 (第32図)

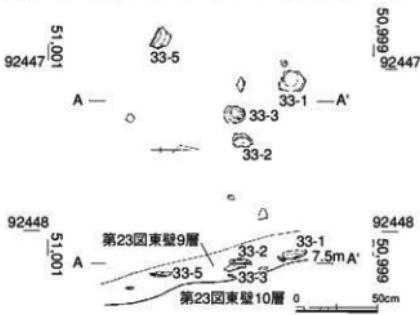
規模と形態 柱穴1南西の暗褐色土中(第23図9層)の約2mの範囲から検出した。完形品はなく、いずれも破片資料である。

出土遺物(第33図) 1は須恵器蓋である。輪状つまみを持ち、端部は明瞭に下方に折り曲げられた部分を持つ。頂部外面には回転糸切り痕が残る。2は高台付きの壺である。体部は失われているがやや丸みを持つ。底部は回転糸切り痕を残し「×」字状のヘラ記号がある。3は無高台の壺である。体部は直線的に立ち上がる。4・5は高台付きの壺である。底部外面は回転糸切り、体部は直線的に立ち上がる。高台は高広IV B期の資料の中でも短小化が進まない時期のものである。

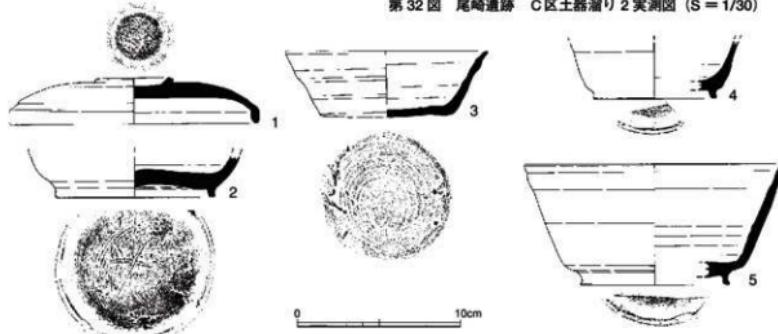
時期と性格 出土遺物は全体としてみると、1は高広IV A期、2もその可能性があり、3~5が高広IV B期に属すとみられ、8世紀中葉から後半にかけてのものと考えられる。性格は不明であるが、出土した暗褐色土には若干の地山ブロックが含まれており、先述の柱穴1の最上層が埋込まれていることから整地土層と考えている。

#### (8) 遷構外出土遺物(第34・35図)

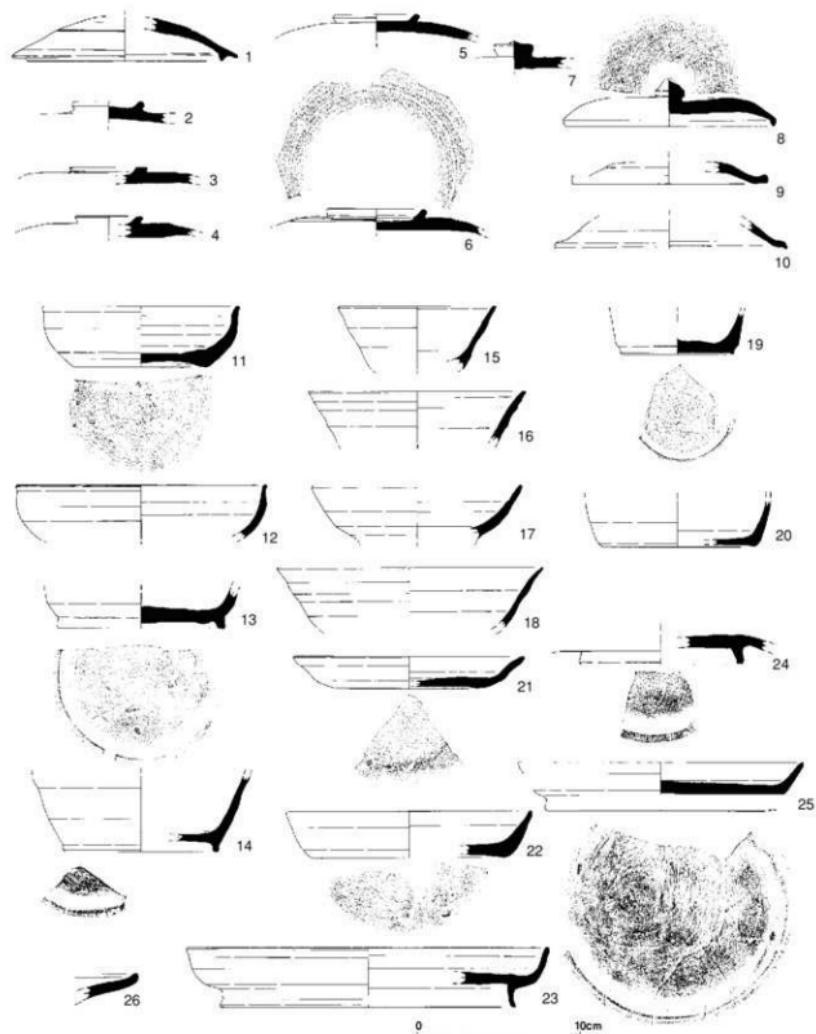
1~10は須恵器蓋である。1は端部にかえりを持つ資料で、頂部の状況は不明ながら輪状つまみではない模様である。高広III A期。2~6は輪状つまみを持つ蓋である。6はつまみ外周に2条の沈線状のものが見えるが、ヘラケズリによる周辺の差粒の動きも多く確認でき、單なるヘラケズリ痕跡の可能性がある。高広IV A期。8は宝珠状のつまみを持つ資料である。頂部外面には回転糸切り痕が残る。端部は下方に引き出しており高広IV AとBの中間的存在で、出雲市青木遺跡のII期ないしIII期のはじめに当たる<sup>1)</sup>。9・10は端部が屈曲し下側に飛び出す若干のアクセントを持たせた資料である。高広IV B



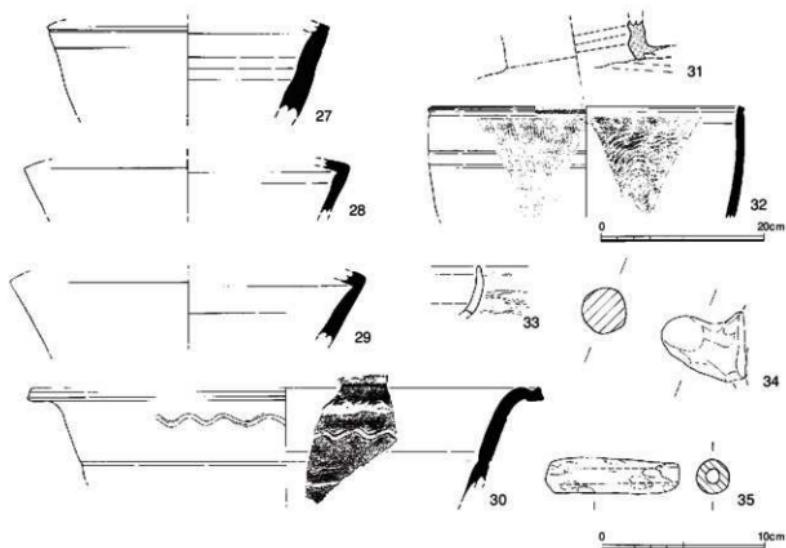
第32図 尾崎遺跡 C区土器溜まり2実測図 (S = 1/30)



第33図 尾崎遺跡 C区土器溜まり2出土遺物実測図 (S = 1/3)



第34図 尾崎遺跡 C区遺構外出土遺物実測図(1) (S = 1/3)



第35図 尾崎遺跡 C区構造外出土遺物実測図(2) (S = 1/3 32・S = 1/6)

期。11・12は無高台の体部に丸みを持つ壺である。いずれも口縁端部の折り曲げは不明瞭で高広IVB期以降の資料であろう。13・14は体部が直線的に外反する高台付壺で高台の位置は最外周にある。高広IVB期。15～18は壺の口縁部～体部である。17をのぞき直線的で外反する体部を持つ。17はやや丸みを帯びる資料である。19は体部が直立する小型の壺で、底部外面は削り出しによって高台状を呈している。20は体部が直立する無高台の壺である。21・22は無高台の皿である。21は大きく外反、22は直立気味である。23～25は高台付きの皿で比較的高い高台を持つ。これらの皿は高広IVB期に相当すると考えられる。26は口縁部が大きく開く器種不明の須恵器である。口径は大きいと推定され、高壺の壺部の可能性が高い。27～29は須恵器壺類の肩部である。30は須恵器壺の口縁部である。口縁端部屈曲部の頸下・頸部にそれぞれヘラ書きの波状文を有する。31は灰釉陶器平瓶の小片である。32は須恵器鉢である。頭部外面にタタキののち沈線状に二条ナデた痕跡がある。内面は同心円タタキが施される。33は外面に横方向のミガキが施される土師器壺である。34は瓶把手である。35は中型の管状土錐である。

\*1 島根県教育委員 2006『青木遺跡II』。

## 第4章 総括

今回の発掘調査によって、尾崎遺跡は弥生時代後期～中世にかけて営まれた複合遺跡であることが判明した。調査区は約400mと決して広くはなく、遺跡の全体像が把握されたとは必ずしもいえないが、以下時代を追って遺跡の状況についてまとめてみたい。

**調査区の概要** まず、あらためて調査区の状況について概略を述べてみたい。調査区は下宇部尾の平野を望む基盤層の標高5～6mの平地部（A・B区）と、その北に隣接する同標高6～8.5mの丘陵部南斜面（C区）からなる。基盤層は平地部で緑灰色の砂礫土であり、丘陵部近くから黄褐色の粘土となる。また、丘陵端部すなわちA区とC区の堀周辺はA区を谷水田にするとき、平坦面の拡張が行われ斜面がカットされている。このため平地部A区と斜面C区にある古代の遺構は連続しない。

### 弥生時代～古墳時代

この時代の遺物は、少量が平地部のA・B区から出土している。その内容としては、弥生時代後期初頭、松本出雲V-1様式ないし草田1期の資料が中心であり（第13・21図）、そのちは若干草田5期の資料が見られる程度である（第20図）。また弥生時代終末～古墳時代に入ると、やはりA区で低脚壺か壺類が出土、さらに小型丸底壺、内外面にハケを施し口縁端部が大きく外反する壺と考えられる土器片（以上第13図）が出土しているが、特に後者については類例がみられない。

なお、古墳時代前期の遺物を含むA区SD01は、遺構としてみた場合、浅く不整形である。実態としては自然に形成された小流路であり、遺物も移動してきた資料と考えられる。このほか丘陵部側では弥生～古墳時代中期の遺物はなく、遺構も確認されていない。当該期にあっては、調査区は遺跡の中心ではなかったと考えられる。

次に古墳時代後期については、大谷出雲4期ころの須恵器が若干みられるのみで（第17図）、遺跡の様相はほとんどわからない。

### 飛鳥・奈良・平安時代以降

7世紀後半以降になると、遺構も確認されるようになる。C区の南端よりでは、重複する加工段1～3が認められる。このうち最下層の加工段3の時期は不明であるが、加工段2からは高広ⅢA期、端部にかえりを持つ輪状つまみの蓋・浅く丸みを持つ高台付壺が一括的に出土している（第30図）。さらにこの加工段2が埋まった後、再度掘削された加工段1でもほぼ同様の時期の遺物が出土しており（第27図）、立て続けに加工段が営まれたものと推測される。ただし、調査区で出土する遺物量としては当該期の資料は少なく、当然C区から遺物が流入したと考えられるA区土器溜まり1、A・B区の包含層にもほとんど確認できず、遺物をあまり残さぬ性格の遺構群であった可能性もある。

このC区の加工段が埋没した後はいったん土壤化した黒褐色土が形成される。さらにこの黒褐色土の上に整地土が盛られ、C区東壁際で確認されているSB01礎盤建物、礎石建物の柱穴1などはともにこの整地土の上から埋込まれていることが確認される（第23図）。整地土には高広ⅣB期の前半に位置づけられる土器溜まり2があることから、建物群が営まれたのは高広ⅣB期以降とみられる。建物の年代は直接的には不明であるが、C区出土の須恵器は若干の高広ⅣA期を含み、高広ⅣB期に急激に増加し中心をなしていること、A区の土器溜まり1、およびA・B区の遺構外出

土遺物も同様に高広IV B期を中心としており、この時期（8世紀後半）に調査区周辺で遺跡が充実していることは間違いないものと思われる。続いて高広V期の資料は数量が減り、その後高台を持つ土師器坏類が若干残り、12世紀頃の青磁碗をもって造構の遺物はみられなくなる。また、このうち丘陵部の頂上付近は全体的に削平された模様で、奈良平安時代の土層が完全に失われ、平坦面端に溝（SD04）が掘られる程度となる（第23・24図）。

#### 8世紀後半の尾崎遺跡について

以上述べたように、尾崎遺跡の調査対象地では7世紀後半に斜面端部に加工段が形成され、そのうち谷側に盛り土がなされ、その上に礎石・礎盤建物が造営された模様である。その時期は厳密には不明であるが概ね8世紀後半としてよいだろう。以下、当該期の遺跡の性格についてその特徴をまとめておきたい。

1. 造構 造構については、礎石建物柱穴・礎盤建物の存在が確認される。両者ともに規模は不明であるが、8世紀後半でも一般的な建物とは想定できず、やや大型で、社会的な階層上位の建物が存在したとみられる。

2. 須恵器：土師器の比率 出土遺物は図化できるものをみると須恵器が多いが、破片をみると須恵器と土師器の比率は概ね1:1であり、また、必ずしも供膳具が中心とはいえない。これは特にA区に流れ込んだ土師器が量は少くないもののほとんど実測不能であることによるもので、必ずしも土師器が少ないわけではない（破片の量は1:1）。

3. 特殊な遺物について 出土須恵器は全般的にみると一般的といえるが、水瓶（第12図22）・托の破片（第17図110）、底径が小さく薄手の壺G類（同118）、灰釉陶器と思われる平瓶（第35図31）、須恵器鉢（第35図32）、そして管状土錘多数（合計32個出土）の出土（後述）を挙げるとができる。これらのうち前4者は一般的に仏教関係の遺物とみられるが、その数は少なく、出雲地域の「村落内寺院」に多くみられる灯明皿形土器の出土もない<sup>7</sup>。また、朝酌・大井地区・福

表1 尾崎遺跡周辺の佛教関係遺物ほかの出土遺跡

番号	遺跡名	佛教関係遺物（復元基）				その他の遺物			文字資料	備考	文献	
		水瓶	鉢形柱 土器	灯明皿 托	多用途 鉢	菅の葉 紋	鉢	圓筒形 鉢	壺	土瓶	礎盤土 器	木簡
大井 園田 近傍	1 山津御跡・山津遺跡	●	●	●			●		●	●		須恵器鉢 須恵器壺
	2 池の奥遺跡								●			2
	3 池の奥・山津遺跡	8										2
	4 イガラシ遺跡			1					1	16		3
	5 イガラビ古墳群						1			6		3
宮跡周辺	6 久日田遺跡											4
	7 稲町院谷古道跡								1			3
	8 黒沢古道跡						3	14		37		5
	9 別所遺跡	2					3	2		13		5
	10 三才寺遺跡	1							1			集落
島根郡中央部	11 東前田遺跡		8	1						4		6
	12 中根遺跡			1	1			1				7
	13 大根口遺跡						1			1		7
	14 道行遺跡						1					8
	15 芝原遺跡						1			13		9
鳥取郡東部	16 寺の脇遺跡								1			10
	17 尾崎遺跡	1			1	1	1			5		本著

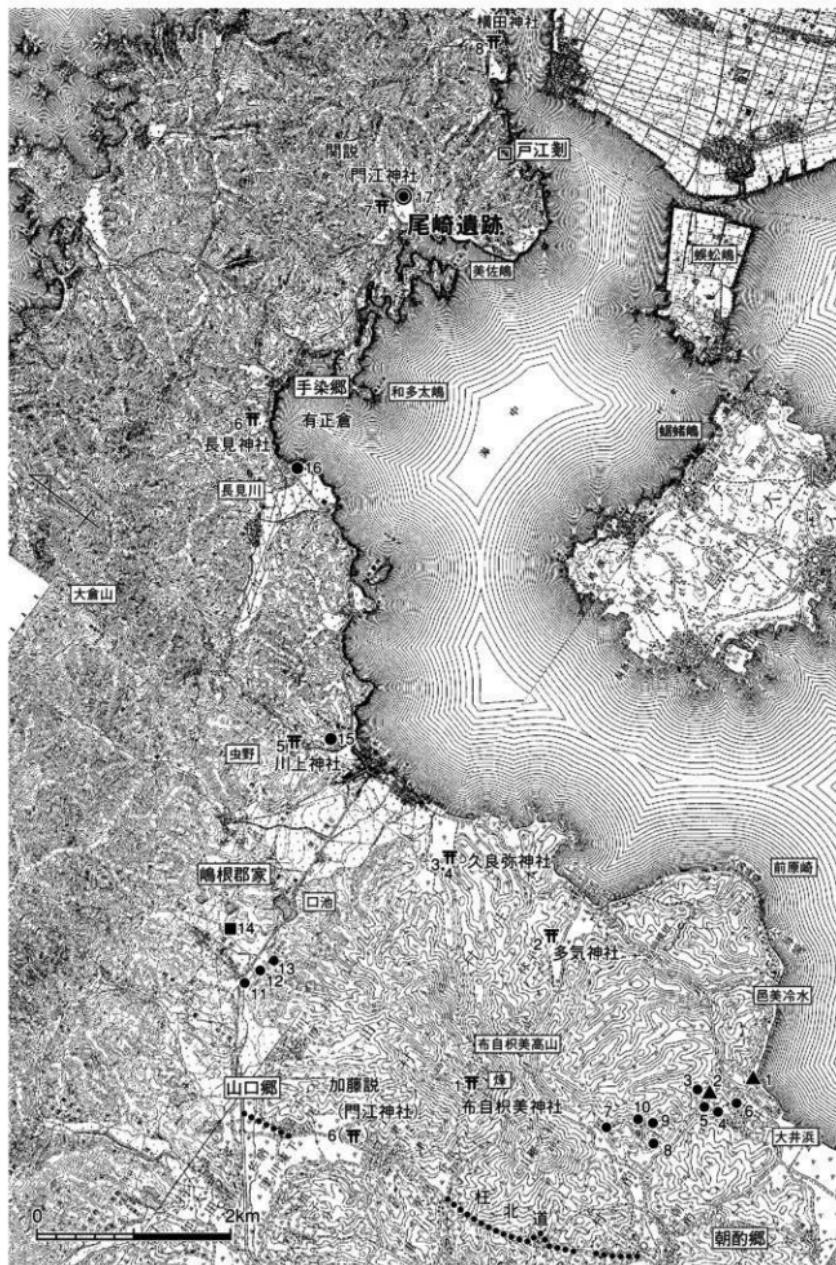
凡例 数字は出土点数。

●は実跡での生産の可能性のある遺物

番号は第36図の遺跡番号に対応

文献

- 松江市教育委員会2006「大井古跡群 山津遺跡・山津御跡発掘調査報告書」
- 松江市教育委員会1990「池ノ奥古跡・池ノ奥里窯跡群」
- 松江市教育委員会1980「伊賀御跡・朝野院神谷遺跡・イガラビ古墳群・池ノ奥古墳群・池ノ奥C,D遺跡」
- 松江市教育委員会2000「久日田遺跡」
- 松江市教育委員会1988「難波A遺跡・難波B遺跡・別所遺跡」
- 島根県教育委員会2007「東前田遺跡・中根遺跡・大根口遺跡・道行遺跡」
- 島根県教育委員会2002「別所遺跡・芝原遺跡」
- 鳥取県教育委員会2002「馬場遺跡・サトツ根遺跡・客山根墓群・道行遺跡」
- 松江市教育委員会1989「芝原遺跡」
- 島根県教育委員会1967「寺の脇遺跡」



第36図 尾崎遺跡と古代の島根郡 (S=1/50000)

00) 凡例□は「出雲国風土記」記載地  
神社は延喜式による(番号は島根郡での記載順)

原にかけての島根郡の東側では、仏教的な要素のある遺物その他分布の中心が朝駒大井地域にあると推定される資料がしばしば少量遺跡から出土する事例が散見される（表2）。もちろん、これらの遺物の背景に8世紀後半からの在地社会への仏教の浸透をみて、それぞれの遺跡が仏教関係遺跡である可能性もある（出土量の多い東前田遺跡は墓地と考えられる）。しかし、いずれも須恵器で、多くが大井窯跡での生産が知られている点は留意する必要がある（大井での生産が確認されていない壺G類・多嘴瓶除く）。周辺遺跡での悉皆的な遺物構成要素の調査などが必要であるとは考えるが、島根郡東部地域が、同郡朝駒・大井地域の須恵器生産活動に対して人や物資を提供したいわゆるピターラントであり、人・ものの交流の中で、仏教信仰に必要な道具のセットとしてではなく、単品少量が伝播している可能性も検討すべきであろう（表2参照）。

4.管状土錘について 本遺跡からは合計32点が出土している。土錘について近現代の製作・使用状況を含めて考察を加えた内田律雄氏の検討によると、土錘は基本的に網の浮力に対応して大きさが決定され、網・土錘自体を目立たせなくする目的もあり（特に刺網用）、常に細い糸を使用する軽量な土錘が指向された<sup>7</sup>。この指摘に従えば、32点のうちの過半を占める中型とした管状土錘、直徑3.0cm、長さが6cm、重量40g程度と推定される資料群がまとまつたある時期の漁網に関わる土錘の形態を示していると考えられる。その時期は厳密には不明であるが、土錘の多くが出土したA区の出土遺物総体の時期と比較すれば、高広IV B期8世紀後半代になろうか。遺跡の所在地はまさに中海を見下ろす南斜面にあり、その点からみれば、現在よりも湾に近い状況であったと想定される古代の中海（『出雲国風土記』の「入海」）の漁業を考えるうえで参考となる資料になるだろう。

5.墨書き土器について 本遺跡からは墨書き土器が合計5点出土している。墨書き土器の出土と遺跡の性格付けを巡っては、かつては官衙遺跡を判断する上での指標とされた側面があつたが、その中の関東地方を中心に集落からの墨書き土器の大量出土が広く確認されるようになり、單純に墨書き土器の出土を識字層の居住・官衙施設の存在と結びつけることは難しくなっている<sup>8</sup>。墨書きの内容その他墨書き土器の役割を検討したうえで、出土遺跡の性格付けが必要になっているといえよう。

出雲地域における墨書き土器の出土の動向全体について、本書で述べる状況ではないが、関東地方で知られるような同一文字ないし記号を多量に墨書きする事例はあまり確認されていないものの、奈良・平安時代の遺物が一定程度出土している遺跡では、墨書き土器が数点は出土している事例は多い<sup>9</sup>。本遺跡も基本的には同様の事例である可能性があるが、「郷長」「門家」などの墨書きは、官衙の所在を示すものではないものの、いわゆる郷長の居宅や後述する「ヤケ」など、一定の拠点的施設を想起させる墨書き土器である。ただし、墨書き土器の時期についても表3に挙げたように、遺物全体が高広IV B期であるのに対し、年代の推定できるものではやや古いIV A期8世紀前半の資料からなる点は留意される。

表2 尾崎遺跡の墨書き土器一覧

	種別	器種	文字種	記名部位	訳文	時期	出土地点	図版番号
1	須恵器	壺	墨書き	頂部外面	「□」	高広IV A期	A区土器溜まり1	11-1
2	須恵器	壺	墨書き	底部外面	□	高広IV A期	A区土器溜まり1	11-18
3	須恵器	壺	墨書き	底部外面	「郷長」		A区土器溜まり1	12-19
4	須恵器	壺	墨書き	底部外面	「門家」		A区遺構外出土	15-69
5	須恵器	皿	墨書き	底部外面	□〔井カ〕		A区遺構外出土	16-102

このうち、特に墨書き土器「門家」が問題となる。「家」の文字は8世紀にあってはしばしば宅と通用し、ヤケと読まれており、ヤケは拠点的施設を指すからである<sup>6</sup>。

また、「延喜式」卷十神名下の出雲国のいわゆる式内社の記載は、一続きのルートに添って神社名が記載されていることが指摘されているが（一般的には国司の神社参拝経路とされる）<sup>7</sup>、ここでは門江神社は「長見神社、門江神社、横田神社」の順で記載されている。このうち、長見神社は現松江市長海町に比定して大過なく、横田神社も通説通り美保関町森山の横田山周辺とすると、すでに閑和彦氏が指摘するように門江神社の所在地は現在の手角あるいは遺跡の所在する下字部尾周辺が最も適当であると言うことになろう<sup>8</sup>。さらに「門」についても神門（カムト）=神戸（カムト）の事例のように古代では「ト」ないし「ド」の読みが存在した<sup>9</sup>。そこで周辺の古代地名をみれば『出雲国風土記』島根郡条に見える戸江<sup>10</sup>が想起される。この戸江<sup>11</sup>は、対岸の境港市外江町などから、現在の美保関町森山字古間の福島造船所付近とする説が最も説得力があるといえる<sup>12</sup>。この戸江<sup>13</sup>推定地はまさに遺跡から小さな峠を一つ越えて境水道間にでた場所であることを念頭に置けば、下字部尾～森山にかけての地域が古代にあっては戸江=門江であり、その地域の拠点的施設が平野のある下字部尾地域に所在した可能性は低くないと思われ、墨書き土器「門家」（門江の家の略）はその施設に所属した土器であることを明記したものであると推定される（第36図参照）。

まとめ 以上のような8世紀代の本遺跡の状況を勘案すれば、郡家本体レベルの官衙施設、あるいは村落の仏堂そのものなどの仏教を中心的性格とする施設を想定することは困難である。しかし、1や5から在地社会における何らかの拠点施設（これに仏教関係施設が付随している可能性はある）の存在を想定することが許されよう。『出雲国風土記』の記載を参考とすれば、戸江<sup>14</sup>に関わる何らかの施設、島根郡手染郷条に「有正倉」として見える島根郡家の正倉別院など、いわゆる末端官衙（しばしばその存在形態は在地有力者の居宅と未分化であると想定される）が該当しようか。いずれにせよ、本庄村以北の中海沿岸にあって、遺跡の所在する下字部尾地区は長海町と並んで最も平野部の広い地域であり、今後の本遺跡周辺の調査が期待される。

\*1 林健亮 2000 「灯明皿形土器からみた仏教関係遺跡」『出雲古代史研究』10。

\*2 内田律雄 2009 「内水面漁業における土製漁網鍼」『古代日本海の漁撈民』（同成社）。

\*3 代表的な研究として平川南『墨書き土器の研究』（吉川弘文館）など。

\*4 松江市下り松遺跡・田中谷遺跡（島根県教育委員会 2002『田中谷遺跡・下り松遺跡・塚山古墳・角谷遺跡』）、出雲市九景川遺跡（島根県教育委員会 2008『九景川遺跡』）、大田市仁摩町ナメラ追遺跡（島根県教育委員会 2008『中祖遺跡・ナメラ追遺跡』）など他多数。特にここに挙げた遺跡では墨書き土器以外の遺構などで官衙の要素は確認されていない。

\*5 吉田孝 1983 「イヘとヤケ」『律令国家と古代の社会』岩波書店。

\*6 朝山晴 1999 「出雲の国の式内社」「出雲国風土記とその周辺」（島根県教育委員会、初出 1952）。

\*7 閑和彦 2006 『出雲国風土記註論』（明石書店）。なお、加藤義成氏の『出雲国風土記参究』（1957 松江今井書店）では風土記抄の東川津町国石大明神説を探るが、前述のような延喜式記載から誤りとみられる。

\*8 内田律雄 2005 「出雲国風土記に見える社について（二）」『出雲古代史研究』15

\*9 森山公民館 1986 『もりやま（創刊号）』、閑前掲註7論文。ただし、近世・美保関往還ルート（第1図参照）が示すように、陸上交通路は閑谷を通っていた可能性があり、加藤義成氏の戸江<sup>15</sup> = 閑谷所在説も捨てがたいものがある（註7文献）。いずれの場合も行論上は問題ない。



表1 尾崎遺跡出土遺物観察表

調査年	区	出土地点	種別	器種	量存	長(m)	幅(m)	厚(m)	鉢土	色調	状況	調整・手法の特徴	備考
7	1	A	SD01	土器器	甕	小片	(2.0)	(19.2)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：10YR2/3 外面：10YR7/3	良好 内面：体部ケズリ/縁部ナデ 外面：体部ケズリ/縁部ナデ	
7	2	A	SD01	土器器	低脚甕	小片	(2.7)	—	(7.6)	1mm程度の白色 砂粒含む	内面：10YR2/3 外面：10YR7/3	良好 内面：ナデ 外面：ナデ	
7	3	A	SD01	土器器	高環	1/2 未溝	(4.1)	—	10.4	1mm以下の白色 黒色砂粒含む	内面：10YR2/3 外面：10YR7/3	良好 内面：ナデ 外面：ナデ	
7	4	A	SD01	鍋石		小片	長：(3.1) 厚：(2.0)	幅：(2.5) 重：(19.8g)	—	—	—	—	
9	1	A	SD02	須恵器	蓋	1/2 未溝	(1.3)	—	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：7.5Y6/1 外面：7.5Y5/1	良好 内面：頂部回転ナデ 外面：頂部回転ナデ	
9	2	A	SD02	須恵器	縦	小片	(4.0)	—	(5.0)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：不明 外面：10Y7/1	良好 内面：体部回転ナデ縁部斜材へ ケズリ底部へラöz切	内面：縁部漆付着部 にヘラöz記号
9	3	A	SD02	土製品	移動式竈	小片	—	—	—	2mm程度の白色 砂粒含む	内面：10YR2/3 外面：10YR7/3	良好 内面：ナデ 外面：ナデ ハケ	
11	1	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 以上	2.7	(16.4)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：N7/0 外面：10Y7/1	良好 内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部止巻切口のナデ縁 部へケズリ体部回転ナデ	頭部外縫状つまみ内 側に墨書「□」
11	2	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 未溝	2.2	(14.0)	—	2mmの大白色砂 粒含む	内面：N4/0 外面：N5/0	良好 内面：ナデ 外面：縫部ナデ体部へラöz切 リ体部回転ナデ	頭部外縫に沈れ2条か
11	3	A	土器破り 1	須恵器	蓋	小片	(1.8)	(13.0)	—	1mmの大白色砂 粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好 内面：頂部止巻切口縁部へラöz リ体部回転ナデ	
11	4	A	土器破り 1	須恵器	蓋	小片	(1.3)	(13.8)	—	2mmの大白色砂 粒含む	内面：N4/0 外面：N3/0	良好 内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ	
11	5	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 未溝	(1.6)	(14.3)	—	0.5mm以下の白 色砂粒含む	内面：N6/0 外面：N5/0	良好 内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：体部回転ナデ	
11	6	A 及 び伝 張區	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 未溝	(2.0)	(13.6)	—	1mmの白色砂 粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y6/1	良好 内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部止巻切口後ナデ体部	内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部止巻切口後ナデ体部 頭部外縫に沈れ2条
11	7	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 以上	(1.9)	(14.0)	—	3mm程度の砂粒 粒含む	内面：N7/0 外面：N7/0	良好 内面：頂部止巻切口後ナデ体部	頭部外縫に沈れ2条 回転ナデ
11	8	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 未溝	3.4	(17.6)	—	1mmの大白色砂 粒含む	内面：10Y5/1 外面：7.5Y5/1	良好 内面：頂部止巻切口縫部へラöz リ体部回転ナデ	
11	9	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 未溝	(2.5)	(19.4)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：7.5Y4/1 外面：10Y5/1	良好 内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：回転ナデ	
11	10	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 未溝	(1.5)	(17.6)	—	2mmの大白色砂 粒含む	内面：10Y4/1 外面：10Y5/1	良好 内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部止巻切口後ナデ体部	
11	11	A	土器破り 1	須恵器	蓋	1/2 以上	(2.3)	(18.1)	—	2mmの大白色砂 粒含む	内面：5YR5/1 外面：5YR5/1	良好 内面：頂部ナデ体部回転ナデ 外面：頂部止巻切口後ナデ体部	
11	12	A	土器破り 1	須恵器	环	小片	(2.5)	—	(6.2)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：10BG5/1 外面：10BG5/1	良好 内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部止巻切	
11	13	A	土器破り 1	須恵器	环	1/2 未溝	(3.0)	—	(7.4)	1mm以下の黒色 砂粒含む	内面：7.5Y7/1 外面：7.5Y7/1	不良 内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部止巻切	
11	14	A	土器破り 1	須恵器	环	小片	(2.8)	—	(8.0)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：N6/0 外面：N6/0	良好 内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ	
11	15	A	土器破り 1	須恵器	环	1/2 未溝	(3.0)	—	8.0	0.5mm以下白色 砂粒含む	内面：10BG6/2 外面：7.5Y5/2	良好 内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部止巻切	
11	16	A	土器破り 1	須恵器	环	1/2 未溝	(2.2)	—	(8.0)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：10Y6/1 外面：10Y5/1	良好 内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部止巻切	
11	17	A	土器破り 1	須恵器	环	小片	(3.0)	(14.4)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：2.5GY5/1 外面：3GY5/1	良好 内面：回転ナデ 外面：回転ナデ	
11	18	A	土器破り 1	須恵器	环か環	小片	(2.6)	—	(10.4)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：5GY5/1 外面：3GY5/1	良好 内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部止巻切	底部外面に墨書□
12	19	A	土器破り 1	須恵器	环	1/2 未溝	(0.9)	—	(8.4)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：2.5GY5/1 外面：3GY5/1	良好 内面：体部回転ナデ底部ナデ 外面：体部回転ナデ底部止巻切	底部外面に墨書△ 底部外面に墨書△

測定番号	出土点	種別	器種	裏存	高さ(cm)	口径(cm)	底径(cm)	胎土	色調	構成	調整・手法の特徴	備考
12 20 A	土器破り 1	須恵器	黑	小片	(3.3)	(12.2)	—	1mm以下の黒色 砂粒含む	内面：N7/0 外面：N7/0	不良 内面：体部斜削ナダ底部削除余切 りか?		
12 21 A	土器破り 1	須恵器	黒か	小片	(1.7)	—	(12.4)	精緻	内面：NS/1 外面：NS/1	良好 内面：ナダ 外面：体部斜削ナダ底部削除余切		
12 22 A	土器破り 1	須恵器	水漬痕	1/2 未満	(9.0)	—	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：N4/4 外面：N4/4	良好 内面：	内面：回転ナダ 外面：回転ナダ	
12 23 A	土器破り 1	須恵器	亞鉛	小片	(3.8)	(16.0)	—	0.5mm以下の白 色砂粒含む	内面：NS/0 外面：NS/0	良好 内面：	内面：回転ナダ 外面：回転ナダ	
12 24 A	土器破り 1	須恵器	亞鉛	小片	(5.2)	—	(14.2)	1mm以下の黒色 砂粒含む	内面：N7/0 外面：N7/0	良好 内面：	内面：回転ナダ 外面：体部斜削ナダ	
12 25 A	土器破り 1	須恵器	短頭縫	小片	(7.3)	—	—	1mm以下の黒色 砂粒含む	内面：NS/1 外面：SGY3/1	良好 内面：	内面：回転ナダ 外面：回転ナダ	
12 26 A	土器破り 1	須恵器	黒	小片	(8.0)	(17.6)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：NS/0 外面：SGY7/1	良好 内面：	内面：体部斜心円タキ口縫部削除ナダ 外面：体部平行タキ口縫部削除ナダ	
12 27 A	土器破り 1	土師器	环	1/2 以上	(2.2)	—	(6.4)	1mm以下の砂粒 含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好 内面：	内面：回転ナダ 外面：体部斜削ナダ底部削除余切	
12 28 A	土器破り 1	土師器	环	小片	(1.9)	—	(7.2)	精緻	内面：10YR7/3 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	不良 内面：	内面：回転ナダ 外面：体部斜削ナダ底部削除余切
12 29 A	土器破り 1	土師器	环	1/2 未満	(2.4)	—	(6.6)	精緻	内面：10YR2/1 外面：5YR6/2	不良 内面：	内面：回転ナダ 外面：体部斜削ナダ底部削除余切	
12 30 A	土器破り 1	土師器	黒	小片	(4.9)	(20.6)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好 内面：	内面：回転ナダ体部ケズリ 外面：回転ナダ	
12 31 A	土器破り 1	土製品	土鍋	1/2 以上	長(7.9) 幅(4.7) 孔径(1.8 × 1.4) 重さ(80.0g)	—	—	1mmの大砂粒含 む	10YR7/3	良好		
12 32 A	土器破り 1	土製品	土鍋	1/2 未満	長(5.3) 幅(3.4) 孔径(1.4) 重さ(21.4g)	—	—	1mm以下の白色 砂粒含む	10YR7/3	良好		
12 33 A	土器破り 1	土製品	土鍋	1/2 以上	長(4.3) 幅(3.0) 孔径 1.1 × 1.0 重さ 39.4g	—	—	1mm以下の白色 砂粒含む	10YR7/3	良好		
13 1 A	PNO18	弥生 土器	黒	小片	(2.7)	(12.4)	—	精緻	内面：10YR2/3 外面：10YR2/3	良好 内面：	内面：体部ケズリ回転ナダ 外面：体部トキ口縫部削除凹文	
13 2 A	東南4層 PNO13	弥生 土器	黒	1/2 未満	(10.0)	(15.6)	—	1mm程度の白色 砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好 内面：	内面：体部ケズリ口縫部ナダ 外面：体部トキ・例点式口縫部板 凹文	
13 3 A	東中4層 -2層	弥生 土器	黒	小片	(2.4)	(19.2)	—	1mm程度の白色 砂粒含む	内面：10YR2/3 外面：10YR2/3	良好 内面：	内面：口縫部ナダケズリか? 外面：口縫部削除凹文	
13 4 A	南東4層 東中4層 -2層	弥生 土器	跡少 高環	小片	(3.1)	(21.6)	—	1mm程度の白色 黒色砂粒含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好 内面：	内面：ナダ 外面：体部ナダ口縫部削除凹文	
13 5 A	南東4層 -2層	弥生 土器	黒	小片	(2.1)	—	(4.6)	細かく砂粒多く 含む	内面：不明(幾色の ため) 外面：7.5Y6/4	良好 内面：	内面：不明 外面：体部ナダハケメ	
13 6 A	排水溝	弥生 土器	黒	小片	(1.7)	—	(1.7)	精緻	内面：10YR2/3 外面：10YR7/3	良好 内面：	内面：体部ケズリ底部ナダ 外面：体部トキ	
13 7 A	南東4層 -2層	土師器	高環	小片	(3.1)	—	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：5YR6/4 外面：7.5YR6/4	良好 内面：	内面：ナダ 外面：ナダ	
13 8 A	南西4層	土師器	黒	小片	(4.2)	(15.6)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：10YR2/3 外面：10YR7/3	良好 内面：	内面：口縫部ナダ一部ハケメ 外面：ナダ	
13 9 A	南西4層	土師器	黒	小片	(5.3)	(14.9)	—	1mm以下の砂粒 含む	内面：10YR7/3 外面：10YR7/3	良好 内面：	内面：ナダ 外面：ナダ	
13 10 A	PNO19	土師器	小型 丸底窓	1/2 未満	(11.0)	—	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面：2.5GY6/2 外面：2.5GY6/2	良好 内面：	内面：体部ケズリ底部ケズリ口縫部ナダ 外面：体部ハケメ底部ナダ一部ハケ メ	
13 11 A	4-1層 東北4層 東南4層	土師器	亞	小片	(4.7)	(17.4)	—	0.5mm以下の砂 粒含む	内面：2.5Y8/3 外面：2.5Y8/3	良好 内面：	内面：ハケ後ナダ 外面：ハケ後ナダ	
13 12 A	南東4層追加	弥生 土器	黒か?	小片	(5.0)	—	—	1mmの大白色砂 粒含む	内面：2.5GY7/3 外面：7.5Y3/1	良好 内面：	内面：ケズリか? 外面：ナダ	

調査年	区	出土地点	種別	器種	量存	深さ(cm)	日付(cm)	鉛筆(cm)	鉛土	色調	性状	調整・手法の特徴	備考
13	13	A 南東 42層	土師器	瓶	小片				1mm以下の黒色 砂粒含む	内面: 10YR2/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: ナチュラル 外面: ナチュラル	
13	14	A 北跡水溝	土師器	瓶	小片				1mm程度の白色 砂粒含む	内面: 10YR2/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: ナチュラル 外面: ナチュラル	
13	15	A 黒褐色上 PN04. 5 北東3層	土製品	移動式壺	小片	—	—	—	精緻	内面: 10YR2/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: ナチュラル 外面: ナチュラル	
13	16	A PN04. 5 北東3層	土師器	壺	小片 (7.7) (27.0)	—			細かく黒色砂粒 含む	内面: 3YR6/2 外面: 10YR2/1	良好	内面: 体部ケズリ口縁部ナチュラル 外面: 体部ヘタケ口縁部ナチュラル	
13	17	A 南東4- 2層	土師器	壺	小片 (5.0) (20.4)	—			2mm以下の白色 砂粒含む	内面: 10YR2/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 体部ケズリ口縁部ナチュラル 外面: 体部ヘタケ口縁部ナチュラル	
13	18	A 北西3層 南東3層	土師器	壺	1/2 未満 (7.7) (31.8)	—			1~3mmの大白 色砂粒含む	内面: 10YR2/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 体部ケズリ口縁部ナチュラル 外面: 体部ヘタケ口縁部ナチュラル	
13	19	A 北西3層 南東3層	土師器	壺	小片 (3.5) (20.2)	—			2mm程度の白色 透明砂粒含む	内面: 2.5YR6/8 外面: 2.5YR6/8	良好	内面: 体部ケズリ口縁部ナチュラル 外面: 口縁部ナチュラル	
13	20	A PN05. 10 北西3層	土師器	壺	小片 (14.0) (36.0)	—			3mm程度の白色 砂粒含む	内面: 10YR2/3 外面: 10YR2/3	良好	内面: 体部ケズリ口縁部ナチュラル 外面: 口縁部ナチュラル	
13	21	A 4-2層	土師器	壺	小片 (5.2)	—			1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 10YR2/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 体部ケズリ口縁部ナチュラル 外面: 体部ヘタケ口縁部ナチュラル	
14	22	A 北西2層 須恵器	壺	小片 (2.9) (13.4)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 10YR2/3 外面: 7.5Y6/2	良好	内面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	
14	23	A 北西3層 須恵器	壺	小片 (1.4)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y5/2 外面: 7.5Y5/2	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	
14	24	A 北跡水溝 須恵器	壺	小片 (2.5)	—				精緻	内面: 7.5Y6/2 外面: 7.5Y6/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル	
14	25	A 北東3層 須恵器	壺	1/2 未満 (1.2)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 10Y6/1 外面: 7.5Y5/1	良好	内面: 回転ナチュラル 外面: 頭部ナチュラルヘタケズリ	
14	26	A 西跡水溝 須恵器	壺	1/2 未満 (16.0)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y8/1 外面: 7.5Y8/2	不良	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	
14	27	A 北西2層 須恵器	壺	小片 (1.8)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y6/2	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	
14	28	A 北西4層 南東2層	須恵器	壺	小片 (2.0)	—			1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 10Y7/1 外面: 7.5Y7/1	良好	内面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル 外面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル	
14	29	A 南西2層 須恵器	壺	小片 (2.6)	—				0.5mm以下の黒 色砂粒含む	内面: 5Y7/1 外面: 5Y6/2	良好	内面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル 外面: 頭部ヘタケズリ回転ナチュラル 頭部外面に管骨文	
14	30	A 南西2層 北跡水溝 須恵器	壺	1/2 未満 (1.9)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y7/1 外面: 7.5Y6/3	良好	内面: ナチュラル 外面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル	
14	31	A 北西4層 須恵器	壺	1/2 未満 (1.7)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 10GY4/1 外面: 9G5/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 頭部静止糸切り後ナチュラル 回転ヘタケズリ体部ナチュラル	
14	32	A 北西4層 須恵器	壺	1/2 未満 1.9	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y7/1 外面: 7.5Y7/2	やや不良	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	
14	33	A 北西4層 須恵器	壺	1/2 以上 (2.0)	—				1mm程度の白色 砂粒含む	内面: N6/0 外面: N6/0	良好	内面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル 外面: 頭部ナチュラル回転ナチュラル	
14	34	A 北西4層 須恵器	壺	小片 (1.6) (14.0)	—				微細の白色砂粒 含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 10Y5/1	良好	内面: 回転ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	
14	35	A 北東3層 須恵器	壺	1/2 未満 (1.9) (15.2)	—				3mm程度の白色 砂粒含む	内面: 2.5GY6/1 外面: 2.5GY6/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 体部回転ナチュラル	
14	36	A PN06 須恵器	壺	小片 (2.1) (16.4)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: N6/0 外面: 2.5GY3/1	良好	内面: 回転ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	
14	37	A 北西2層 須恵器	壺	小片 (2.9) (16.0)	—				1mmの大白色 砂粒含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y5/2	良好	内面: 回転ナチュラル 外面: 尖部ヘタケズリ体部回転ナチュラル	
14	38	A 北西 須恵器	壺	小片 (1.8)	—				1mm以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y6/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	

箇	年	月	区	出土地点	種別	器種	量存	5cm	10cm	15cm	鉢土	色調	状況	調整・手法の特徴	備考
14	39	A	北京	頤忠器	蓋	小片	(2.3)	-	-	-	Imm 以下の白色 内面: 7.5Y6/2 砂粒含む 外面: 10Y6/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
14	40	A	南西2層	頤忠器	蓋	小片	(1.5)	-	-	-	Imm 以下の白色 内面: N6/0 砂粒含む 外面: N6/3	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
14	41	A	西清	頤忠器	蓋	小片	(1.6)	-	-	-	Imm 以下の砂粒 内面: 7.5Y5/1 含む 外面: 7.5Y5/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
14	42	A	4層	頤忠器	蓋	小片	(1.0)	-	-	-	Imm 以下の黒色 内面: 砂粒含む 外面: 10GY6/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
14	43	A	南西2層	頤忠器	蓋	小片	(1.6)	-	-	-	Imm 以下の白色 内面: 7.5YR7/4 砂粒含む 外面: 7.5YR7/4	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
14	44	A	北京3層	頤忠器	蓋	小片	(1.6)	-	-	-	Q5mm 以下の色 内面: 10Y6/1 砂粒含む 外面: 7.5Y6/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
14	45	A	北京3層	頤忠器	蓋	小片	(2.6)	-	-	-	Imm 以下の白色 内面: 7.5Y7/1 砂粒含む 外面: 10Y7/1	不良	内面: 摂氏のため不明 外面: 摂氏のため不明		
14	46	A	北排水溝	頤忠器	蓋	小片	(2.9)	-	-	-	Imm 以下の白色 内面: 7.5Y5/1 砂粒含む 外面: 10GY5/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 斜面ヘタケヅリ	沈縫状のもの見える。	
14	47	A	PNO2 北西3層	頤忠器	蓋	1/2 未満	2.9	(13.5)	-	-	Imm 程度の白色 内面: 10R4/2 砂粒含む 外面: 10R4/2	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 頭部斜面赤切りナチュラル 回転ヘタケヅリ体回転ナチュラル		
14	48	A	北西4層 PSO26号	頤忠器	蓋	1/2 以上	3.3	13.4	-	-	Imm 以下の白色 内面: 10R4/2 砂粒含む 外面: 10R4/2	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 頭部斜面赤切り後ナチュラル 回転ナチュラル		
14	49	A	北西3層	頤忠器	蓋	1/2 未満	3.3	(18.4)	-	-	Imm 以下の白色 内面: 7.5Y7/1 砂粒含む 外面: 10Y7/1	不良	内面: 頭部ナチュラル 外面: 頭部斜面赤切りナチュラル 回転ナチュラル		
14	50	A	西清	頤忠器	蓋	1/2 未満	(2.6)	-	-	-	Imm 以下の白色 内面: 10Y5/1 砂粒含む 外面: 7.5YS/1	良好	内面: 斜面ヘタケヅリ体回転ナチュラル 外面: 斜面ヘタケヅリ体回転ナチュラル		
14	51	A	北京3層	頤忠器	蓋	小片	(1.6)	(14.8)	-	-	細かい 内面: 10R4/2 外面: 10R4/2	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 頭部斜面赤切り後ナチュラル 回転ナチュラル		
14	52	A	北西2層	頤忠器	蓋	小片	(2.7)	-	-	-	Imm 程度の白色 内面: 10GY6/1 砂粒含む 外面: N4/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	頭部外面に沈縫1条を持つ	
14	53	A	PNO16	頤忠器	蓋	1/2 以上	(2.1)	-	-	-	Imm 以下の白色 内面: 10R7/1 砂粒含む 外面: 7.5Y6/1	良好	内面: ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	肩部外面に沈縫1条を持つ	
14	54	A	南東4層 南東4層 上面	頤忠器	蓋	1/2 未満	(1.7)	-	-	-	2mm 大の白色砂 内面: 10Y6/1 砂粒含む 外面: 10Y5/1	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 頭部斜面赤切り斜面ヘタケヅリ		
14	55	A	PNO7	頤忠器	蓋	小片	(3.0)	(14.0)	-	-	Imm 以下の白色 内面: 10Y7/1 砂粒含む 外面: N7/0	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 斜面ヘタケヅリ端面回転ナチュラル		
14	56	A	2層南東	頤忠器	蓋	小片	(1.2)	(15.2)	-	-	2mm 大の白色砂 内面: 7.5Y3/2 砂粒含む 外面: 10Y4/1	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 体回転ナチュラル	頭部外面に沈縫1条を持つ	
14	57	A	南西2層	頤忠器	蓋	小片	(2.0)	(16.0)	-	-	Imm 程度の白色 内面: 10R4/2 砂粒含む 外面: 10R3/1	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 体回転ナチュラル	肩部外面に沈縫2条を持つ	
14	58	A	PNO26 北西2層 上面 北西3層	頤忠器	蓋	1/2 以上	(2.6)	(16.6)	-	-	Imm 以下の白色 内面: N4/0 砂粒含む 外面: N3/0	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 回転ナチュラル	頭部外面に沈縫2条を持つ	
14	59	A	北西3層	頤忠器	蓋	小片	(2.1)	(17.6)	-	-	Imm 以下の白色 内面: N6/0 砂粒含む 外面: N5/0	良好	内面: 頭部ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
15	60	A	北西3層	頤忠器	环	1/2 未満	3.7	(11.4)	(8.0)	Imm 程度の白色 内面: 10YR7/1 砂粒含む 外面: 5GY6/1	良好	内面: 体回転ナチュラル 外面: 体回転ナチュラル斜面静止赤切			
15	61	A	北排水溝	頤忠器	环	小片	(4.0)	(11.8)	(7.8)	Imm 程度の白色 内面: 2.5GY6/1 砂粒含む 外面: 7.5Y5/1	良好	内面: 体回転ナチュラル 外面: 体回転ナチュラル斜面静止赤切			
15	62	A	北西4層 上面3層	頤忠器	环	小片	(3.6)	(12.4)	-	-	Imm の白色砂粒 内面: NS/0 含む 外面: N4/0	良好	内面: 回転ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
15	63	A	北西4層	頤忠器	环	小片	(2.7)	(14.0)	-	-	Imm 以下の白色 内面: 7.5Y6/1 砂粒含む 外面: 10Y6/1	良好	内面: 回転ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		
15	64	A	北西3層	頤忠器	环	小片	(3.6)	(12.2)	-	-	Imm 以下の白色 内面: 7.5Y6/1 砂粒含む 外面: 10Y6/1	良好	内面: 回転ナチュラル 外面: 回転ナチュラル		

調査番号	日付	出土地点	種別	器種	直存 深さ(cm)	横幅(cm)	高さ(cm)	給土	色調	状況	調整・手法の特徴	備考
15 65 A	南東4-2 層北東南 東4層	須恵器	环	1/2 未満	4.2 (12.6)	9.0	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 2.5Y6/1 外面: 2.5Y6/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切		
15 66 A	北西4層	須恵器	环	小片	(4.0) (14.0)	—	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y7/1	やや 不良	内面: 回転ナメ 外面: 回転ナメ		
15 67 A	ベント	須恵器	环	1/2 未満	(2.6)	—	(7.4)	Imrn程度の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y7/1 外面: 10Y7/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切	
15 68 A	南西2層	須恵器	环	1/2 未満	(2.6)	—	(8.7)	Imrnの大白色砂 砂粒含む	内面: 7.5Y6/2 外面: 7.5Y6/2	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切	
15 69 A	西清	須恵器	环	小片	(1.2)	—	(6.6)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y4/1 外面: 7.5Y4/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切 底部外面に墨書き 「門家」	
15 70 A	南排水渠 4層	須恵器	环	小片	(1.8)	—	(6.6)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y6/1	良好	内面: 底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切	
15 71 A	南東2層	須恵器	环	小片	4.1 (10.6)	(7.6)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 10Y6/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切		
15 72 A	北西4層	須恵器	环	1/2 未満	(3.8) (11.2)	(10.0)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 10Y6/1 外面: 10Y6/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部ナメ		
15 73 A	北西3層 南東3層 追加	須恵器	环	小片	(3.8) (13.6)	(8.6)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5GY6/1 外面: 2.5Y7/2	良好	内面: 回転ナメ 外面: 回転ナメ		
15 74 A	4層	須恵器	环	1/2未 満	(3.3)	—	8.6	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 10Y5/1 外面: 10Y4/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底品ナメ	
15 75 A	西清	須恵器	环	小片	4.0 (12.4)	(7.6)	Q5mm以下の白 色砂粒含む	内面: N6/0 外面: 3G5/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり		
15 76 A	北西4層 北西3層 追加	須恵器	环	1/2 未満	4.7 (12.4)	(9.0)	Imrnの大白色砂 砂粒含む	内面: 7.5Y7/1 外面: 10Y5/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切		
15 77 A	北西4層	須恵器	环	1/2 未満	4.4 (13.4)	(9.0)	2mmの大白色砂 砂粒含む	内面: 7.5Y5/1 外面: 7.5Y4/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 回転ナメ	底部内外両方に沈縫2条	
15 78 A	北東3層	須恵器	环	1/2 未満	(4.7) (10.6)	—	Q5mm以下の白 色砂粒含む	内面: 7.5Y7/1 外面: 7.5Y7/1	良好	内面: 回転ナメ 外面: 回転ナメ		
15 79 A	北西4層	須恵器	环	1/2 未満	(4.1)	—	(7.6)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 10Y6/1 外面: 10Y5/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切 りのナメナメ	
15 80 A	西清 南東4層 北4層	須恵器	环	小片	(3.4)	—	8.4	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 15Y6/4 外面: 10Y4/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部ナメ	
15 81 A	西清 南西3層	須恵器	环	小片	(1.9)	—	(8.4)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5YR7/4 外面: 5YR6/4	良好	内面: 体部削除ナメ底品ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切	
15 82 A	西清 北西2層	須恵器	环	1/2 未満	(2.0)	—	9.0	2mmの大白色砂 砂粒含む	内面: NS/0 外面: NS/0	良好	内面: 底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切	
15 83 A	西清	須恵器	环	小片	(2.8)	—	(11.4)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y7/1 外面: 7.5Y7/1	不良	内面: 不明 外面: 不明	
15 84 A	北排水渠	須恵器	环	小片	(1.7)	—	(14.0)	Imrn以下の白色 砂粒含む	内面: 10R6/1 外面: N6/0	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部不明底部削除あり切 りナメナメ	
16 85 A	南西2層 東4層	須恵器	环	小片	(3.9) (14.4)	—	—	Imrn程度の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y5/1 外面: 7.5YG4/1	良好	内面: 回転ナメ 外面: 回転ナメ	
16 86 A	SD01 東4層	須恵器	环	小片	(2.5)	—	—	Q5mm以下の黒 色砂粒含む	内面: 5Y6/2 外面: 5I6/2	良好	内面: 回転ナメ 外面: 回転ナメ	
16 87 A	3層	須恵器	环	小片	(3.2)	—	—	Imrnの大黒色砂 砂粒含む	内面: N8/0 外面: N8/0	良好	内面: 回転ナメ 外面: 回転ナメ	
16 88 A	4層	須恵器	環	小片	2.2 (12.8)	(8.8)	Imrnの大黒色砂 砂粒含む	内面: 2.5YR4/2 外面: 10Y4/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切 りナメナメ		
16 89 A	4層	須恵器	環	小片	2.1 (12.9)	(9.0)	Imrn程度の白色 砂粒含む	内面: 10Y4/1 外面: 10Y3/1	良好	内面: 体部削除ナメ底部ナメ 外面: 体部削除ナメ底部削除あり切		
16 90 A	北西3層	須恵器	環	小片	—	—	—	—	—	—	—	

箇	番	区	出土地点	種別	器種	文存	部/cm	寸/cm	幅/cm	高さ/cm	給土	色調	状況	調整・手法の特徴	備考
16	91	A	西溝	須恵器	黒	小片	2.3	(13.0)	(9.4)	Imm 大の白色砂 内面: 7.5GY4/1 粒含む 外面: N4/0	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
16	92	A	南西3層	須恵器	黒	小片	2.5	(16.6)	(10.0)	Imm の黒色砂粒 内面: 10GY6/1 含む 外面: 10GY5/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
16	93	A	PNO26	須恵器	黒	1/2 未満	2.5	(15.1)	—	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 7.5Y6/1 外面: 10Y4/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部削輪ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
16	94	A	南東2層	須恵器	黒	小片	(1.9)	(15.5)	—	Imm 程度の白色 砂粒含む 内面: 7.5Y5/1 外面: 10Y5/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ			
16	95	A	西排水溝	須恵器	黒	1/2 未満	2.7	(13.6)	(10.6)	0Imm 以下の白 内面: 7.5Y6/1 砂粒含む 外面: 2.5GY5/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
16	96	A	北東3層	須恵器	黒	1/2 未満	2.3	(14.8)	(12.0)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 7.5GY3/1 外面: 10GY5/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切 り後ナナ			
16	97	A	北西2層	須恵器	黒	1/2 未満	2.9	(15.0)	(12.6)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 7.5Y5/2 外面: 7.5Y5/2	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切	底部内外面に沈殿！ ナ		
16	98	A	北西3層 北西4層	須恵器	黒	小片	3.9	(20.2)	(11.2)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: N7/0 外面: N6/0	良好	内面: 体部ナナか? 外面: 回転ナナ			
16	99	A	北西3層	須恵器	黒	1/2 未満	(2.1)	—	(12.4)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y5/2	良好	内面: 底部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切 り後ナナ			
16	100	A	SD01 東4層	須恵器	黒	未満	4.1	(19.1)	11.8	Imm 大の白色砂 内面: 7.5Y5/2 砂粒含む 外面: 2.5GY5/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 回転ナナ			
16	101	A	SD01東4層 サブトト4層	須恵器	黒	1/2 未満	(2.0)	—	(11.6)	Imm 程度の白色 砂粒含む 内面: 7.5GY5/1 外面: 7.5GY5/1	良好	内面: 底部ナナ削減 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切	底部外表面□〔ヨリ〕		
16	102	A	抹上 3-4層	須恵器	黒	小片	(1.7)	—	(11.2)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 7.5GY6/1 外面: 7.5GY6/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
16	103	A	PNO15	須恵器	黒	1/2 未満	(1.7)	—	(10.6)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 7.5VG5/1 外面: 7.5VG5/1	良好	内面: 底部ナナ 外面: 回転ナナ	底部外表面にヘラの アタリあり		
16	104	A	北西3層	須恵器	黒	1/2 未満	(2.0)	—	(11.6)	Imm 程度の白色 砂粒含む 内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y6/2	不良	内面: 回転ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
16	105	A	PNO17	須恵器	黒	小片	(2.2)	—	(11.8)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 10Y6/1 外面: 10Y5/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
16	106	A	北西3層	須恵器	黒	小片	(2.6)	(21.4)	—	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: N5/0 外面: N4/0	良好	内面: 回転ナナ 外面: 回転ナナ	体部外面上に沈殿1条あ り		
16	107	A	北西3層	須恵器	黒	1/2 未満	3.0	21.0	(18.0)	0Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 7.5Y6/1 外面: 7.5Y7/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切 り後ナナ			
17	108	A	北西3層 第3層	須恵器	不明	小片	(2.0)	—	—	0Imm 以下の白 内面: 5G6/1 色砂粒含む 外面: 5G6/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪未切			
17	109	A	北西3層 ベルト	須恵器	不明	小片	(1.0)	—	—	0Imm 以下の白 内面: 5B6/1 色砂粒含む 外面: 5B6/1	良好	内面: 底部ナナ 外面: 底部削輪系切			
17	110	A	北西第4 層上面	須恵器	托	小片	2.0	(7.3)	(8.2)	Imm 大の白色砂 内面: 5B7/1 砂粒含む 外面: 5B7/1	良好	内面: 回転ナナ 外面: 回転ナナ			
17	111	A	東北東4 層上上面	須恵器	縦	小片	(3.2)	—	(4.0)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 10Y6/1 外面: 10Y5/1	良好	内面: 回転ナナ 外面: 体部削輪ナナケケズリ底部ヘラ 切り			
17	112	A	北西3層	須恵器	縦	小片	(3.8)	—	(6.3)	細かい 内面: N8/0 外面: N8/0	良好	内面: 回転ナナ 外面: 体部削輪ナナケケズリ底部ヘラ 切り	底部外面上にまのヘラ記 切り		
17	113	A	西北4層	須恵器	縦	小片	(2.9)	—	(4.4)	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: N6/0 外面: N5/0	良好	内面: 回転ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部ナナ			
17	114	A	南西3層	須恵器	長頭壺	小片	(2.6)	(9.2)	—	Imm 程度の黒色 砂粒含む 内面: N6/0 外面: N6/0	良好	内面: 回転ナナ 外面: 回転ナナ			
17	115	A	PNO25	須恵器	高環	小片	(5.1)	—	—	Imm 以下の白色 砂粒含む 内面: 10Y6/1 外面: 10Y5/1	良好	内面: 体部削輪ナナ底部削輪ナナ 外面: 体部削輪ナナ底部削輪ナナ			
17	116	A	北西	須恵器	高環	小片	(10.2)	—	—	細かい 内面: 7.5YR6/1 外面: 7.5YR6/1	良好	内面: 剥離削輪ナナ 外面: 体部ナナ削輪削輪ナナ			

調査年	日	出土点	種別	器種	量存	深さ(cm)	DP(cm)	幅(cm)	給土	色調	構成	調整・手法の特徴	備考	
17	117	A	4層	須恵器	高环	小片	(5.6)	—	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	内面: 10GY4/1 外面: 10GY5/1	良好	内面: 回転ナダ 外面: 回転ナダ	
17	118	A	北東 3 層 北西 3 層 南北 3 層	須恵器	長瓶底	1/2 以上	(8.8)	—	(5.6)	Imm 程度の黒色 砂粒含む	内面: NSK/0 外面: 7.5Y6/1	良好	内面: 回転ナダ 外面: 体部ナダ底部削除赤切り	平城宮東 G 墓に似る
17	119	A	南北 2 層	須恵器	長瓶底	小片	(2.1)	—	(7.4)	Imm 程度の白色	内面: 10Y7/1 外面: 10Y7/1	良好	内面: ナダ 外面: 体部回転ナダ底部へラ切り	底部外面に四つ葉のクローバー状のスタンプ
17	120	A	北排水溝	須恵器	壺	小片	(4.4)	(5.3)	—	裏に Imm 大の黒 色斑点 Imm 以下 の白色砂粒含む	内面: 7.5Y4/1 外面: 10Y4/1	良好	内面: 回転ナダ 外面: 体部回転ナダ底部削除赤切り	
17	121	A	南東 4 层	須恵器	壺	小片	(6.4)	—	(11.8)	精緻	内面: N6/1 外面: N6/1	良好	内面: 体部回転ナダ底部ナダ 外面: 体部回転ナダ	体部外面底部よりに沈 線 2 条あり
17	122	A	南東 2 层	須恵器	壺	小片	(2.7)	(17.0)	—	Imm 以下の 白色砂粒含む	内面: 5YR6/2 外面: 10R4/2	良好	内面: 回転ナダ 外面: 回転ナダ	
17	123	A	北西 3 层	須恵器	壺	小片	(5.7)	(18.8)	—	精緻	内面: N2/1 外面: N6/1	良好	内面: 体部円錐タキヨ回転削除ナダ 外面: 体部平行タキヨ回転削除ナダ	
17	124	A	北排水溝	須恵器	壺	小片	(4.0)	(22.2)	—	精緻	内面: 10R3/1 外面: 10R3/1	良好	内面: 口縁部ナダ体部平行タキヨ 外面: 口縁部ナダ	口縁部に # のハラ記 号あり
17	125	A	北西 3 层 PNC014 第 2 層	須恵器	壺	1/2 未満	(18.5)	(24.0)	—	Imm 程度の白色 砂粒含む	内面: 10R6/2 外面: 10R4/2	良好	内面: 体部円錐タキヨ回転削除ナダ 外面: 体部平行タキヨ回転削除ナダ	
18	126	A	PNC014	土師器	环小皿	小片	(1.3)	—	(5.8)	精緻	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 回転ナダ 外面: 体部回転ナダ底部削除赤切り	
18	127	A	南東 4 ~ 2 層	土師器	环小皿	1/2 未満	(2.4)	—	(6.6)	Imm 大の砂粒含 む	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	やや不良	内面: 回転ナダ 外面: 体部回転ナダ底部削除赤切り	
18	128	A	南東 4 层	土師器	环	未満	(2.3)	—	6.5	Imm 大の砂粒含 む	内面: 2.5Y7/4 外面: 2.5Y7/4	良好	内面: 回転ナダ 外面: 体部回転ナダ底部削除赤切り	
18	129	A	西溝	土師器	环	完形	(2.4)	—	(5.4)	Imm 以下の白色 砂粒	内面: 10YR7/3 外面: 7.5YR7/4	良好	内面: 回転ナダ 外面: 体部回転ナダ底部不明	
18	130	A	南西 3 层	土師器	环	1/2 未満	(3.6)	(6.7)	—	Imm 以下の黒色 砂粒含む	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 回転ナダ 外面: 体部回転ナダ底部不明	
18	131	A	西溝	土師器	环	1/2 未満	(2.4)	—	(7.0)	環砂粒わずかに 含む	内面: 10YR7/3 外面: 7.5YR7/4	不良	内面: 不明 外面: 不明	
18	132	A	北東 3 层	土師器	环	1/2 未満	(2.6)	—	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	やや不良	内面: 回転ナダ 外面: 回転ナダ	
18	133	A	北東 3 层	土師器	环	1/2 未満	(2.9)	—	(8.2)	精緻	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 回転ナダ 外面: 回転ナダ	
18	134	A	南東 3 层	土製品	土鍼	定形	径 5.0 孔径 0.7 重さ 12.1g	—	—	Imm 大の砂粒含 む	2.5YR7/1	良好		
18	135	A	北東南東 4 層上面	土製品	土鍼	定形	長 8.5 幅 1.7 孔径 0.8 重さ 5.279g	—	—	Imm 以下の砂粒 含む	10YR7/3	良好		
18	136	A	南東	土製品	土鍼	定形	長 8.5 幅 2.4 孔径 1.05 × 1.0 重さ 106.6g	—	—	Imm 以下の砂粒 含む	10YR7/3	良好		
18	137	A	北西 4 层	土製品	土鍼	1/2 以上	長 7.4 幅 3.5 孔径 1.0 × 1.0 重さ (75.4g)	—	—	1 ~ 2mm 大の白 色砂粒含む	10YR7/3	良好		
18	138	A	西北 4 层	土製品	土鍼	小片	長 (4.8) 幅 (3.3) 孔径 (1.2) 重さ (15.2g)	—	—	Imm の白色砂粒 含む	5YR6/6	良好		
18	139	A	北西 2 层	土製品	土鍼	1/2 未満	長 (4.9) 幅 (2.6) 孔径 (1.0) 重さ (19.9g)	—	—	Imm 大の白色砂 粒含む	7.5YR7/4	良好		
18	140	A	南西 3 层	土製品	土鍼	1/2 未満	長 (4.7) 幅 (2.6) 孔径 (1.2) 重さ (14.1g)	—	—	Imm 以下の砂粒 含む	10YR7/3	良好		
18	141	A	北東 3 层 追加	土製品	土鍼	1/2 未満	長 (5.8) 幅 (2.6) 孔径 (0.9) 重さ (14.0g)	—	—	Imm 以下の砂粒 含む	7.5YR7/4	良好		
18	142	A	北東 3 层	土製品	土鍼	1/2 未満	長 (3.9) 幅 (2.6) 孔径 (1.1) 重さ (14.9g)	—	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	7.5Y6/1	良好		

測定番号	区	出土点	種別	器種	直存	横存	高さ (mm)	幅 (mm)	鉢土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
18 143	A	東洋水溝 4層	土製品	土鍋	定形	長 6.5 厘 12.8 孔径 0.65 × 0.65 重さ 50.6g	1mm 以下の砂粒 含む	2.5YR7/2	良好				
18 144	A	北西 4 層	土製品	土鍋	定形	長 7.7 厘 2.5 孔径 1.0 × 0.9 重さ 57.5g	1mm 以下の白色 砂粒含む	10R5/3	良好				
18 145	A	3 - 1 層	土製品	土鍋	定形	長 6.1 厘 2.7 孔径 0.9 × 0.8 重さ 54.0g	1mm 以下の砂粒 含む	10YR7/3	良好				
18 146	A	ベント	土製品	土鍋	1/2 以上	長 6.0 厘 2.7 孔径 1.0 × 0.8 重さ 5 (30.9g)	1mm 以下の砂粒 含む	10R5/3	良好				
18 147	A	南西 2 層	土製品	土鍋	1/2 以上	長 (6.2) 厘 2.6 孔径 1.0 × 0.9 重さ (40.1g)	微細な白色砂粒 含む	N2/0	良好				
18 148	A	南東 3 层	土製品	土鍋	1/2 未満	長 (6.2) 厘 2.3 孔径 0.8 × 0.65 重さ (18.6g)	微砂粒	5YR6/4	良好				
18 149	A	3 層	土製品	土鍋	1/2 以上	長 5.6 厘 2.4 孔径 1.0 × 1.0 重さ (14.1g)	微砂粒微かに含 む	2.5Y8/2	良好				
18 150	A	北東 3 层	土製品	土鍋	1/2 以上	長 6.2 厘 2.6 孔径 1.1 × 1.0 重さ (28.3g)	1mm 程度の白色 砂粒わずかに含 む	10Y4/1	良好				
18 151	A	南西 2 层	土製品	土鍋	1/2 以上	長 4.6 厘 3.0 孔径 1.3 × 1.2 重さ (45.9g)	1mm 以下の白色 砂粒含む	10Y4/1	良好				
18 152	A	トレンチ 1	土製品	土鍋	定形	長 5.0 厘 2.6 孔径 1.1 × 1.15 重さ 30.6g	1mm 以下の砂粒 含む	10YR7/3	良好				
18 153	A	南西 4 层	土製品	土鍋	定形	長 3.5 厘 2.3 孔径 0.65 × 0.65 重さ 21.7g	1mm 以下の砂粒 含む	7.5YR7/4	良好				
18 154	A	南東 3 层 追加	土製品	土鍋	定形	長 3.5 厘 2.3 孔径 0.6 × 0.7 重さ 17.6g	1mm 以下の砂粒 含む	10YR7/3	良好				
18 155	A	南東 2 层	土製品	土鍋	小片	長 (3.6) 厘 (1.8) 孔径 0.8 重さ (6.5g)	0.5mm 以下の黒 色砂粒含む	10YR6/4	良好				
18 156	A	北西 3 层	土製品	土鍋	1/2 以上	長 3.7 厘 1.3 孔径 0.3 重さ (6.0g)	1mm 以下の砂粒 含む	7.5YR7/4	良好				
18 157	A	北西 3 层	土製品	土鍋	定形	長 3.5 厘 0.9 孔径 0.3 重さ 2.8g	1mm 以下の砂粒 含む	10YR7/3	良好				
18 158	A	北西 4 层 上面 3 层	土製品	土鍋	1/2 未満	長 4.3 厘 1.6 孔径 1.0 重さ (5.7g)	1mm 以下の砂粒 含む	5YR6/4	良好				
18 159	A	南西 2 层	土製品	土鍋	定形	長 5.2 厘 2.1 孔径 0.6 × 0.55 重さ 22.2g	1mm 以下の白色 砂粒含む	10YR7/3	良好				
18 160	A	南東 4 层	石器	刮削	定形	長 4.7 厘 3.8 厚さ 1.1 重さ 12.9g							
18 161	A	PNO8	古鉄	舟通宝	定形	長 2.4 厘 厚さ 0.1 重さ 2.89g							
19 1	A 区 拡張 部	耕土基壠 色土	陶生 土器	壺	小片	(4.8) (13.6) —	1mm 以下の白色 砂粒含む	2.5Y7/3 外観: 2.5Y7/3	良好 外観: ナデ	内面: ナデ 外観: ナデ			
19 2	A 区 拡張 部	耕土基壠 色土	土師器	高環	1/2 未満	(7.7) — —	1mm 以下の白色 透明砂粒含む	7.5YR7/4 外観: 7.5YR6/4	良好 外観: ナデ	内面: ナデ 外観: ナデ	透かし 3 方向にあり		
19 3	A 区 拡張 部	耕土基壠 色土	土製品	ミニユ チュア上 器	1/2 未満	(4.4) — (3.2)	1mm 程度の白色 砂粒含む	10YR7/2 外観: 10YR7/3	良好 外観:	内面: 外観:			
19 4	A 区 拡張 部	耕土基壠 色土	須恵器	壺	小片	(1.0) — —	1mm 以下の白色 砂粒含む	N6/0 外観: N6/0	良好 外観: 回転ナデ	内面: ナデ 外観: 回転ナデ			
19 5	A 区 拡張 部	耕土基壠 色土	須恵器	壺	小片	(1.7) — —	1mm 以下の白色 砂粒含む	10Y6/1 外観: 10Y6/1	良好 外観: 回転ナデ	内面: ナデ 外観: 回転ナデ			
19 6	A 区 拡張 部	耕土北山 直上	須恵器	壺	1/2 未満	(1.9) — —	1mm 以下の白色 砂粒含む	SG5/1 外観: N4/0	良好 外観: 頭部回転ナデ斜面ヘラケズ り後頭部ナデ体回転ナデ	内面: 回転ナデ体回転ナデ 外観: 頭部外周に沈縫 2 条あり			
19 7	A 区 拡張 部	地直上	須恵器	壺	小片	(1.7) (14.8) (9.4)	精緻	N8/0 外観: N8/0	不良 外観: 体回転ナデ底部不明	内面: 不明 外観: 体回転ナデ底部不明			

調査番号	区	出土地点	種別	器種	量存	深さ(m)	DP(m)	幅(m)	給土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
19 8	A 区	耕土茶褐色 部	土器	頸忠器	高环	小片	(3.2)	—	—	精緻	内面: 7.5YR6/1 外面: 7.5Y7/1	良好	内面: ナデ 外面: 回転ナデ
19 9	A 区	地山直上	土器	頸忠器	素	小片	(3.3)	(16.2)	—	精緻	内面: N7/1 外面: N7/1	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
19 10	A 区	耕土紗隠部	土器	頸忠器	瓶	小片	—	—	—	Imm の白色砂粒	内面: 7.5YR6/4 含む	良好	内面: ナデか 外面: ナデ指押さえ
19 11	A 区	耕土黒灰 色土	土器	頸忠器	瓶	小片	—	—	—	Imm 以下の白色 砂粒多量含む	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: ナデか 外面: ナデ指押さえ
19 12	A 区	耕土黒灰 色土	土製品	土鍋	完形	—	—	—	—	Imm 大の砂粒含 む	5YR6/4	良好	
19 13	A 区	耕土黒灰 色土	土製品	土鍋	1/2 以上	—	—	—	—	Imm 大の白色砂 粒含む	10YR7/3	良好	
19 14	A 区	耕土黒灰 色土	土製品	土鍋	完形	—	—	—	—	Imm 大の砂粒含 む	10YR7/3	良好	
19 15	A 区	地山直上	土製品	瓶	小片	(4.7)	(37.6)	—	—	Imm 程度の白色 砂粒含む	内面: 10YR7/3 外面: 7.5YR7/4	良好	内面: 体部ケズリ跡回転ナデ 外面: 体部ハケカラ跡回転ナデ
19 16	A 区	耕土茶褐色 色土	土器	頸忠器	壺	小片	(3.5)	(13.2)	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	内面: 10YR8/1 外面: 10YR8/1	不良	内面: 不明 外面: 不明
20 1	不明	頸忠器	壺	环	1/2 未満	4.8	(11.5)	(8.4)	—	QImm 以下の白 色砂粒含む	内面: 15YR6/4 外面: 7.5YR7/4	良好	内面: 体部ケズリ跡回転ナデ 外面: 体部ハケカラ跡回転ナデ 引後ナデ
20 2	不明	頸忠器	壺	小片	(4.8)	—	—	—	—	Imm 程度の白色 砂粒含む	内面: 7.5YR6/2 外面: 7.5Y6/1	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
20 3	不明	頸忠器	壺	小片	(5.9)	(8.8)	—	—	—	Imm 程度の白色 砂粒含む	内面: 5YR5/1 外面: 10R4/2	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
20 4	A	不明	土器	壺	1/2 未満	(2.2)	—	6.0	—	精緻	内面: 7.5YR8/1 外面: 7.5YR8/1	不良	内面: ナデ 外面: ナデ
21 1	B	表面	陶生土器	素	小片	(3.4)	(18.0)	—	—	精緻	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 体部ケズリ跡回転ナデ 外面: 体部ハケカラ跡回転ナデ
21 2	B	PNO68	陶生土器	素	小片	(3.1)	(19.2)	—	—	Imm 程度の白色 砂粒含む	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/1	良好	内面: 体部ケズリ跡回転ナデ 外面: 体部ハケカラ跡回転ナデ
21 3	B	調査区 B	頸忠器	壺	小片	(1.7)	—	—	—	Imm 以下の黒色 砂粒含む	内面: 7.5Y7/1 外面: 7.5Y7/1	不良	内面: ナデ 外面: 回転ナデ
21 4	B	4 刃	頸忠器	壺	小片	(1.2)	(13.0)	—	—	QImm 以下の白 色砂粒含む	内面: 7.5Y4/1 外面: N4/0	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
21 5	B	表土	頸忠器	壺	小片	(6.3)	(15.5)	—	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	内面: N6/0 外面: N6/0	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
21 6	B	溝	頸忠器	环	小片	(3.7)	(14.8)	—	—	精緻	内面: 10YR7/3 外面: 5GY6/1	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
21 7	B	調査区 B	頸忠器	高环	小片	(3.8)	(14.8)	—	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	内面: 7.5Y6/1 外面: 10Y6/1	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
21 8	B	PNO64	頸忠器	环	1/2 未満	(3.8)	(8.0)	—	—	Imm 程度の白色 砂粒含む	内面: 7.5GY6/1 外面: N5/0	良好	内面: ナデ 外面: 体部ナデ底回転ナデ
21 9	B	西北西	頸忠器	壺	小片	(2.8)	(17.8)	—	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	内面: 5GY5/1 外面: 5GY4/1	良好	内面: 回転ナデ 外面: 回転ナデ
21 10	B	3 - 1 層	不明	不明	小片	(4.0)	—	(15.8)	—	精緻	内面: N8/0 外面: N8/0	不良	内面: 不明 外面: 回転ナデ
21 11	B	3 層	土器	環	小片	(2.0)	—	(4.2)	—	Imm 以下の白色 砂粒含む	内面: 5YR6/2 外面: 5YR6/2	良好	内面: 回転ナデ 外面: 体部回転ナデ底回転ナデ
21 12	B	T1 黒褐色土	土器	環	1/2 未満	(2.1)	—	6.4	—	Imm 以下の黒色 砂粒含む	内面: 10YR7/3 外面: 10YR7/3	良好	内面: 回転ナデ 外面: 体部回転ナデ底回転ナデ
21 13	B	3 層	土器	環	小片	(0.7)	—	(9.0)	—	精緻	内面: 10YR7/1 外面: 10YR7/1	良好	内面のみ赤影 外面: 体部回転ナデ

箇	番	区	出土地点	種別	器種	量存	深さ(cm)	口径(cm)	底径(cm)	胎土	色調	焼成	調整・手法の特徴	備考
21	14	B	3-1層	吉備	碗	小片	(1.1)	-	(5.8)	精緻	内面:緑灰色 外面:緑灰色	良好	内面:施釉、絞文 外面:高台内露胎	能登吉系吉備工類
21	15	B	北東溝	土製品	土鍋	1/2 以上	長4.4幅2.1 孔径0.7×0.6 重さ(16.0g)	1mm以下	白色 砂粒含む	10YR7/3	良好			
27	1	C	加工段1	須恵器	环	小片	(2.2)	-	-	精緻	内面:7.5Y6/1 外面:7.5Y5/1	良好	内面:ナデ 外面:回転ナデ	
30	1	C	加工段2	須恵器	蓋	完形	2.0	16.2	-	1mm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y6/1 外面:7.5Y6/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 頂部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 肩部 <sup>⑤</sup> タケヌ リ面 <sup>⑥</sup> ヘラツリ	
30	2	C	加工段2	須恵器	环	1/2 以上	4.6 (15.8)	8.8	Imm以下	白色 内面:7.5GY6/1 砂粒含む 外面:7.5Y5/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ リ面 <sup>⑥</sup> ナデ		
30	3	C	加工段2	須恵器	环	1/2 未満	(3.0)	-	8.4	2mm程度の黒色 砂粒含む	内面:7.5Y6/1 外面:7.5Y6/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ	
33	1	C	土器遊び <sup>②</sup>	須恵器	蓋	1/2 以上	2.8 (15.4)	-	-	Imm程度の白砂 合む	内面:10Y5/1 外面:10Y5/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ リ面 <sup>⑥</sup> ナデ	
33	2	C	土器遊び <sup>②</sup>	須恵器	环	1/2 未満	(2.5)	-	9.8	Imm程度の白色 砂粒含む	内面:10Y6/1 外面:7.5Y6/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ	
33	3	C	土器遊び <sup>②</sup>	須恵器	环	1/2 以上	4.1	12.6	8.4	Imm以下の黒色 砂粒含む	内面:7.5Y7/1 外面:7.5Y6/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ	
33	4	C	土器遊び <sup>②</sup>	須恵器	环	小片	(3.4)	-	(7.6)	0mm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y7/1 外面:7.5Y7/2	良好	内面:回転ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ	
33	5	C	土器遊び <sup>②</sup>	須恵器	环	1/2 未満	7.4 (16.0)	9.2	Imm程度の白色 砂粒含む	内面:N4/1 外面:7.5GY5/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ		
34	1	C	西1層	須恵器	蓋	小片	(2.6)	(14.0)	-	精緻	内面:7.5Y4/2 外面:7.5Y7/1	良好	内面:頂部ナダ <sup>④</sup> 体調輪ナダ 外面:回転ナデ	
34	2	C	西2層	須恵器	蓋	小片	(1.2)	(4.4)	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y5/2 外面:7.5Y4/2	良好	内面:ナデ 外面:回転ナデ	
34	3	C	南3層	須恵器	蓋	小片	(1.0)	-	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:10R3/1 外面:10R3/1	良好	内面:ナデ 外面:回転ナデ	
34	4	C	不明	須恵器	蓋	1/2 未満	(1.3)	-	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y5/2 外面:7.5Y5/2	良好	内面:面部ナダ <sup>④</sup> 体調輪ナダ 外面:回転輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ	
34	5	C	段丘3 南東3層	須恵器	蓋	小片	(1.6)	-	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y6/1 外面:7.5YR7/4	良好	内面:ナデ 外面:回転輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ のナデ <sup>⑥</sup> 体調輪ナダ	
34	6	C	東1層 PN075	須恵器	蓋	小片	(1.6)	-	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y3/2 外面:7.5Y3/1	良好	内面:ナデ 外面:面部ナダ <sup>④</sup> 体調輪ナダ <sup>④</sup> 頂部外周に沈線2条?	
34	7	C	東1層	須恵器	蓋	小片	(1.7)	-	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y6/1 外面:7.5Y6/1	良好	内面:ナデ 外面:回転ナデ	
34	8	C	PN070	須恵器	蓋	1/2 以上	(19.0)	(12.8)	-	2mm大の白色砂 粒含む	内面:7.5Y7/2 外面:2.5GK3/1	良好	内面:面部ナダ <sup>④</sup> 体調輪ナダ 外面:回転輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ ハラズリ <sup>⑥</sup> 体調輪ナダ	
34	9	C	西排水溝	須恵器	蓋	小片	(1.0)	(12.2)	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y6/2 外面:7.5Y6/2	良好	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	
34	10	C	西壁	須恵器	蓋	小片	1.8	14.2	-	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y4/1 外面:7.5Y5/1	良好	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	
34	11	C	PN071	須恵器	环	1/2 以上	3.8 (12.2)	(8.4)	-	2mm程度の黒色 砂粒含む	内面:2.5GY5/1 外面:10GY1/1	良好	内面:回転ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ	
34	12	C	西1層	須恵器	环	小片	(3.3)	-	(15.4)	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:10Y6/1 外面:10Y4/1	良好	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	
34	13	C	PN073	須恵器	环	1/2 未満	(2.2)	-	(10.6)	Imm以下の白色 砂粒含む	内面:10R4/2 外面:2.5GY6/1	良好	内面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ	
34	14	C	2層西	須恵器	环	1/2 未満	(4.7)	-	(9.4)	精緻	内面:7.5Y7/1 外面:10Y7/1	良好	内面:回転ナデ 外面:体調輪ナダ <sup>④</sup> 底部 <sup>⑤</sup> ナデ リ面 <sup>⑥</sup> ナデ	
34	15	C	東1層 NO1 東2層	須恵器	环	小片	(3.8)	(9.8)	-	Imm程度の黒色 砂粒含む	内面:N7/1 外面:7.5GY4/1	良好	内面:回転ナデ 外面:回転ナデ	

調査番号	区	出土地点	種別	器種	遺存状況	目測寸法(cm)	測定寸法(cm)	鉢土	色調	性成	調整・手法の特徴	備考	
34 16 C	東2層	須恵器	环	小片	(3.2) (13.4)	—	1mm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5GY5/4 外面:7.5GY6/1	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ			
34 17 C	西3層	須恵器	环	小片	(3.7) (16.4)	—	精緻	内面:N7/1 外面:7.5GY8/1	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ			
34 18 C	東2層	須恵器	环	小片	(3.3) (13.0)	—	1mm以下の黒色 砂粒含む	内面:7.5YR6/4 外面:10YR7/3	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ			
34 19 C	T2北	須恵器	环	1/2 未満	(2.5)	—	(6.7)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面:7.5Y6/1 外面:7.5GY1/1	良好	外面:体部斜ナダ底部斜面切 り挫ナダ		
34 20 C	N02	須恵器	环	小片	(3.8)	—	(9.4)	1mm程度の白色 砂粒含む	内面:10YR7/3 外面:10YR7/3	不良	内面:不明 外面:体部斜ナダ		
34 21 C	PNO74	須恵器	環	1/2 未満	1.9	(14.2) (8.4)	1mm程度の白色 砂粒含む	内面:7.5GY4/1 外面:5GY4/1	良好	内面:体部斜ナダ底部ナダ 外面:体部斜ナダ底部斜面切			
34 22 C	T2北	須恵器	環	1/2 未満	2.9	(15.0) (12.0)	細かく2mmの 白	内面:10YR7/3 外面:10YR7/3	不良	内面:不明 外面:不明			
34 23 C	東2層	須恵器	環	小片	3.7	(22.0) (18.3)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面:5YR6/4 外面:5YR6/4	良好	内面:体部斜ナダ底部ナダ 外面:体部斜ナダ底部斜面切			
34 24 C	3層	須恵器	環	小片	(1.8)	—	(10.2)	1mm以下の白色 砂粒含む	内面:10GY5/1 外面:10GY4/1	良好	内面:不明 外面:体部斜ナダ底部斜面切		
34 25 C	N02	須恵器	環	1/2 以上	3.0	(17.7) (14.3)	1mmの黒色砂粒 含む	内面:10R4/2 外面:10R3/1	良好	内面:体部斜ナダ底部ナダ 外面:体部斜ナダ底部斜面切			
34 26 C	西2層	須恵器	高环火	小片	(1.6)	—	—	0.5mm以下の白 色砂粒含む	内面:5Y6/2 外面:5Y6/2	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ		
35 27 C	東1層	須恵器	瓶頸	小片	(5.2) (17.2)	—	1mm程度の白色 砂粒含む	内面:10YR7/1 外面:10YR7/3	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ	外縁外周沈縛2条あり		
35 28 C	T2北	須恵器	瓶頸	小片	(3.2) (20.0)	—	1mm以下の黒色砂 粒含む	内面:10YR7/1 外面:10YR7/3	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ			
35 29 C	西排水溝	須恵器	瓶頸	小片	(4.5) (22.0)	—	1mm以下の黒色 砂粒含む	内面:10YR7/2 外面:10YR7/1	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ			
35 30 C	西壁	須恵器	壺	小片	(7.0) (31.4)	—	1mmの大粒色砂 粒含む	内面:2.5GY6/1 外面:10GY3/1	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ		
35 31 C	□□3	灰輪	平腹	小片	(4.1)	—	—	黄褐色のせいろ な粒に1mm大 の黒色砂粒含む	内面:10YR7/3 外面:10YR7/3	良好	内面:回転ナダ 外面:回転ナダ		
35 32 C	西溝	須恵器	壺	小片	(13.7) (36.6)	—	精緻	内面:10R4/2 外面:10R3/1	良好	内面:体部斜面内リタキ口縁斜面ナダ 外面:体部平行リタキ口縁斜面ナダ	外縁外周沈縛2条あり		
35 33 C	東2層	土師器	环	小片	(3.0)	—	—	精緻	内面:5YR6/4 外面:5YR6/4	良好	内面:ミガキのち赤彩 外面:ミガキ・赤彩		
35 34 C	西3層	土師器	環	小片	—	—	—	精緻	内面:5YR6/4 外面:5YR6/4	良好	内面:ナダ 外面:ナダ		
35 35 C	PNO60	土製品	土輪	定形	長8.2幅2.15 孔径0.95×0.8 重さ27.5	1mm以下の砂粒 含む	—	—	7.5YR6/4	良好			



# 写 真 図 版



1.尾崎遺跡  
調査前風景（南から）



2.尾崎遺跡  
調査前風景（北から）



3.尾崎遺跡  
A区全景（南より）



図版2



1.尾崎遺跡 A区  
全景（北から）

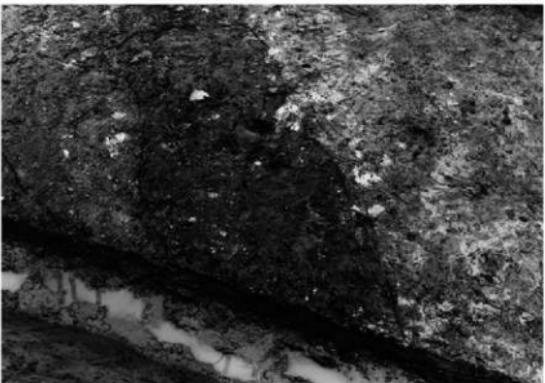


2.尾崎遺跡 A区  
西壁土層（南側）



3.尾崎遺跡 A区  
西壁土層（北側）

1.尾崎遺跡A区  
SD01検出（西から）



2.尾崎遺跡A区  
SD01（西から）



3.尾崎遺跡A区  
SD02（西から）



図版4



1.尾崎遺跡 A区  
土器窯り 1 (南から)



2.尾崎遺跡 A区  
拡張区 (東から)



3.尾崎遺跡 A区  
拡張区調査終了 (北から)

1.尾崎遺跡B区  
(南から)



2.尾崎遺跡B区  
(東から)



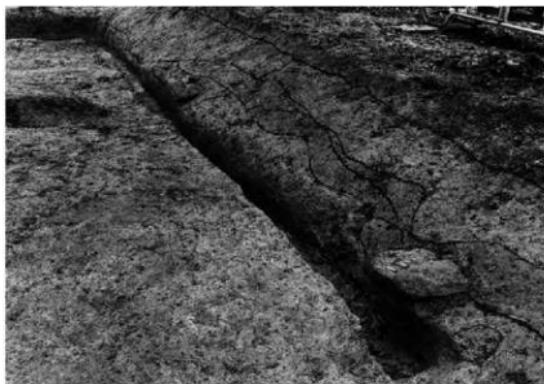
3.尾崎遺跡C区  
(北から)



図版6



1.尾崎遺跡C区  
(西から)

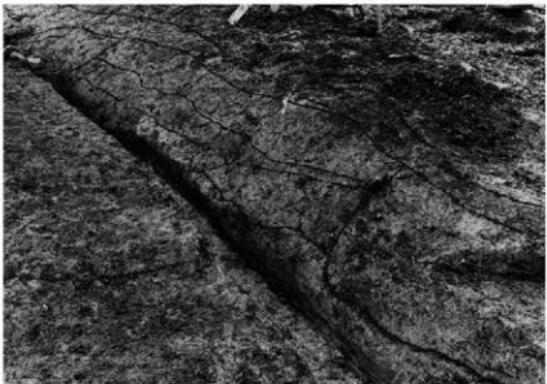


2.尾崎遺跡C区  
東壁土層（北部分）



3.尾崎遺跡C区  
東壁土層（中部分）

1.尾崎遺跡C区  
東壁土層（南部分）



2.尾崎遺跡C区  
SD03検出（東から）



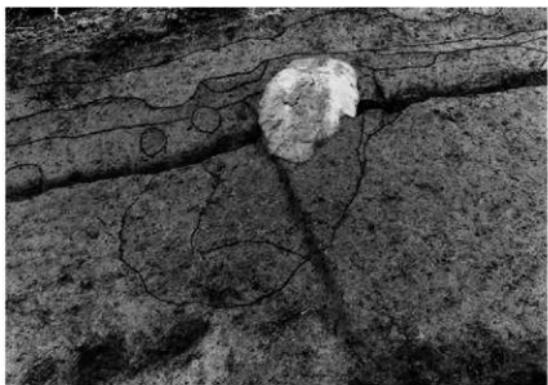
3.尾崎遺跡C区  
SD03（東から）



図版8



1.尾崎遺跡C区  
柱穴1（西から）



2.尾崎遺跡C区  
大石1（東から）



3.尾崎遺跡C区  
加工段1 東部分検出  
(南から)

1.尾崎遺跡C区  
加工段1 西部分検出  
(東から)



2.尾崎遺跡C区  
加工段1 東部分  
(東から)



3.尾崎遺跡C区  
加工段1 西部分  
(東から)



図版10



1.尾崎遺跡C区  
加工段西壁土層



3.尾崎遺跡C区  
加工段2 遺物出土状況



3.尾崎遺跡C区  
加工段2 床面検出

1.尾崎遺跡C区  
加工段2・3完掘



2.尾崎遺跡C区  
土器溜り2 (南西から)



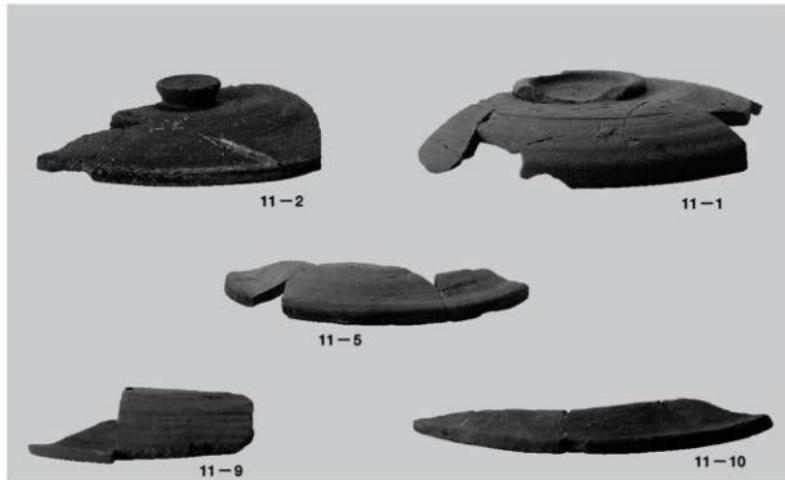
3.尾崎遺跡C区  
遠景 (南から)



図版12



1.A区 SD02 · SD03 出土遺物



2.A区 土器窯跡1 出土遺物(1)

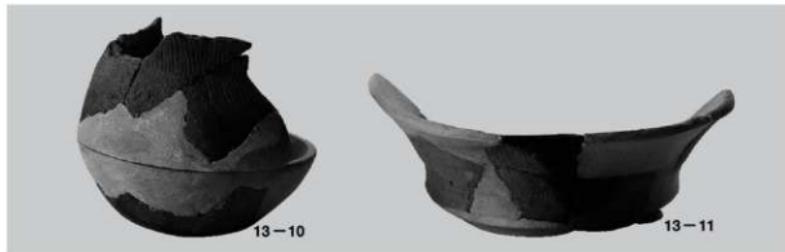


1.A区 土器窯② 出土遺物(2)

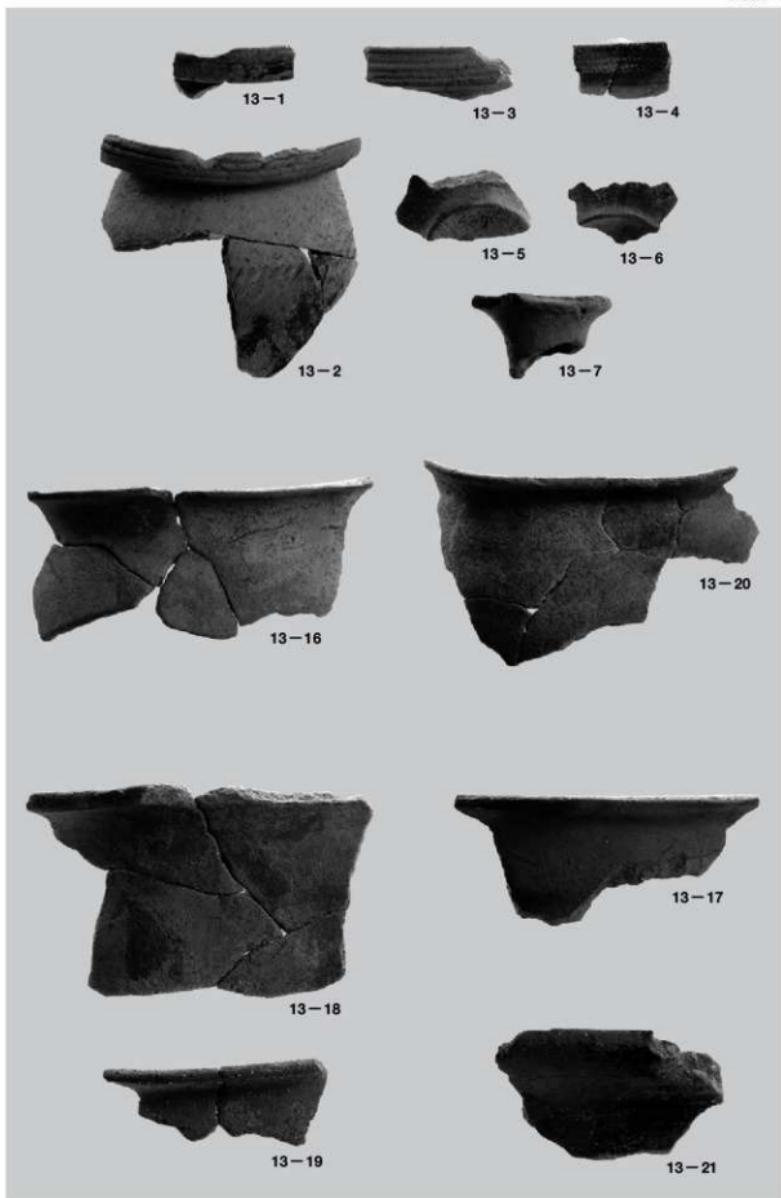
図版14



1.A区 土器溝り1出土遺物(3)

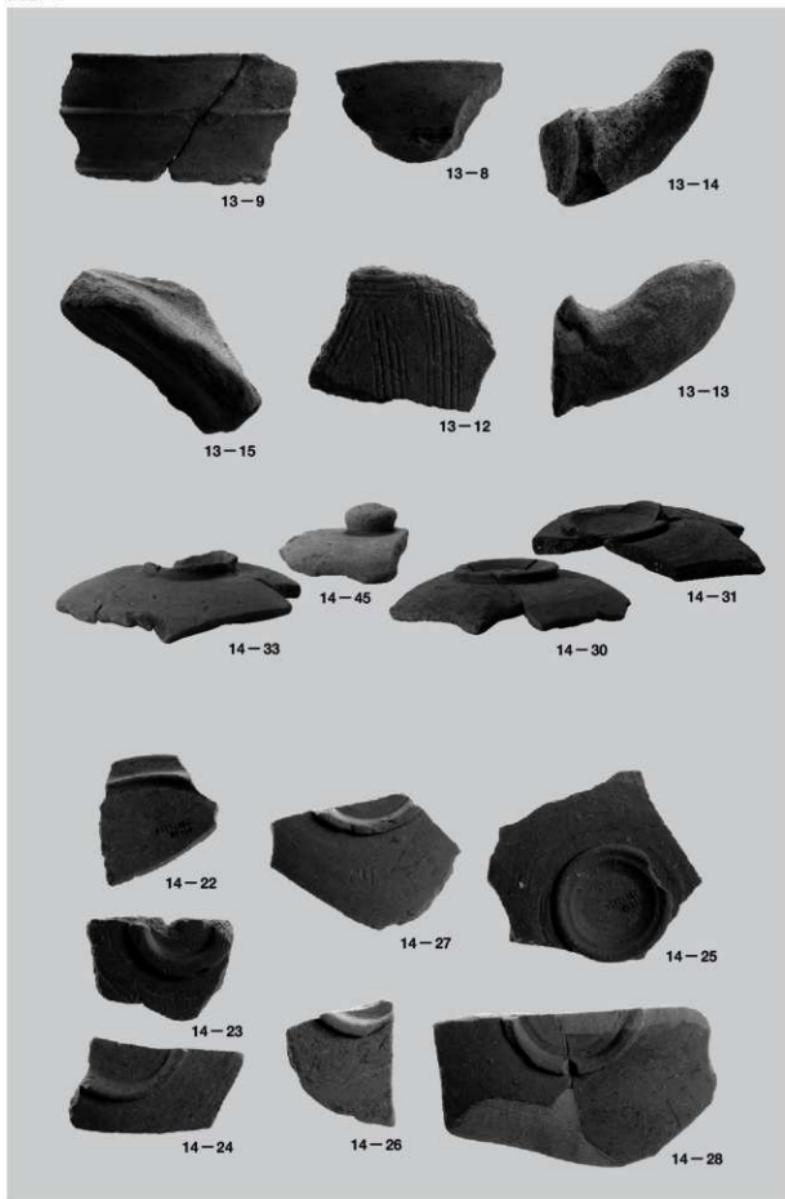


2.A区 遺構外出土遺物(1)



1.A区 遗構外出土遺物(2)

图版16

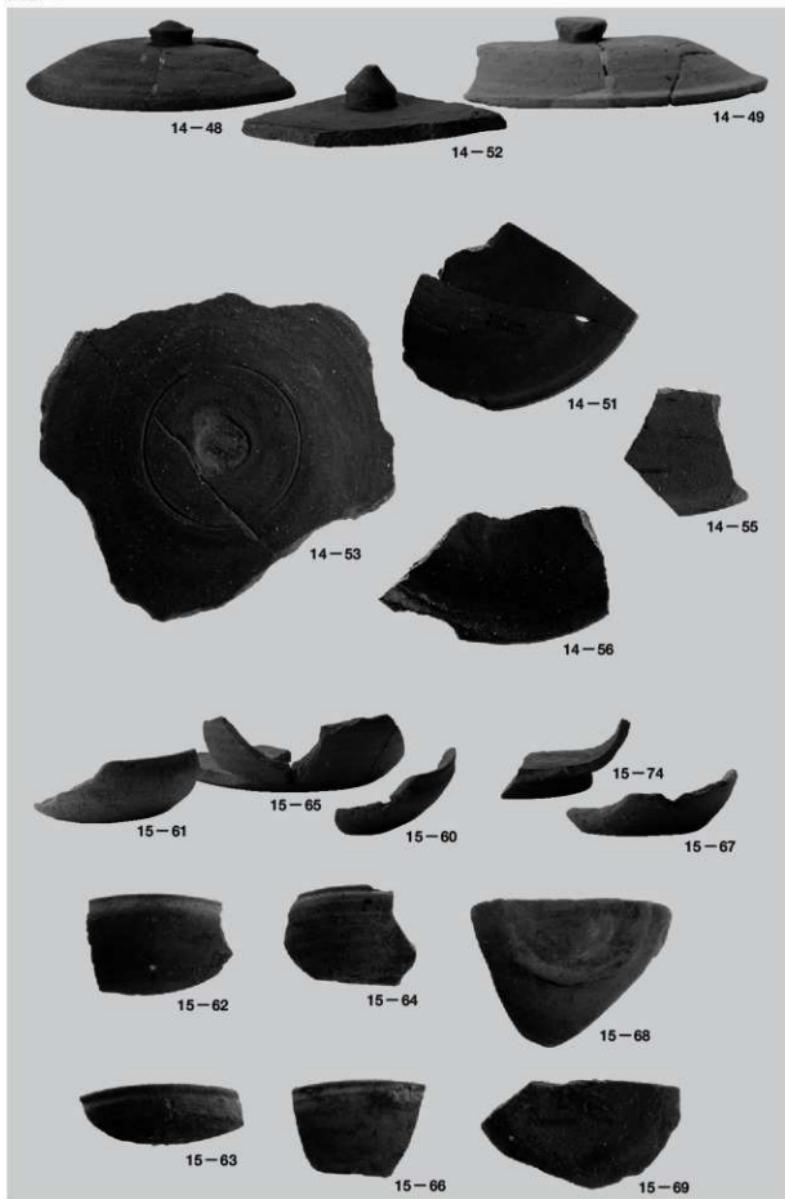


1.A区 遗構外出土遺物(3)

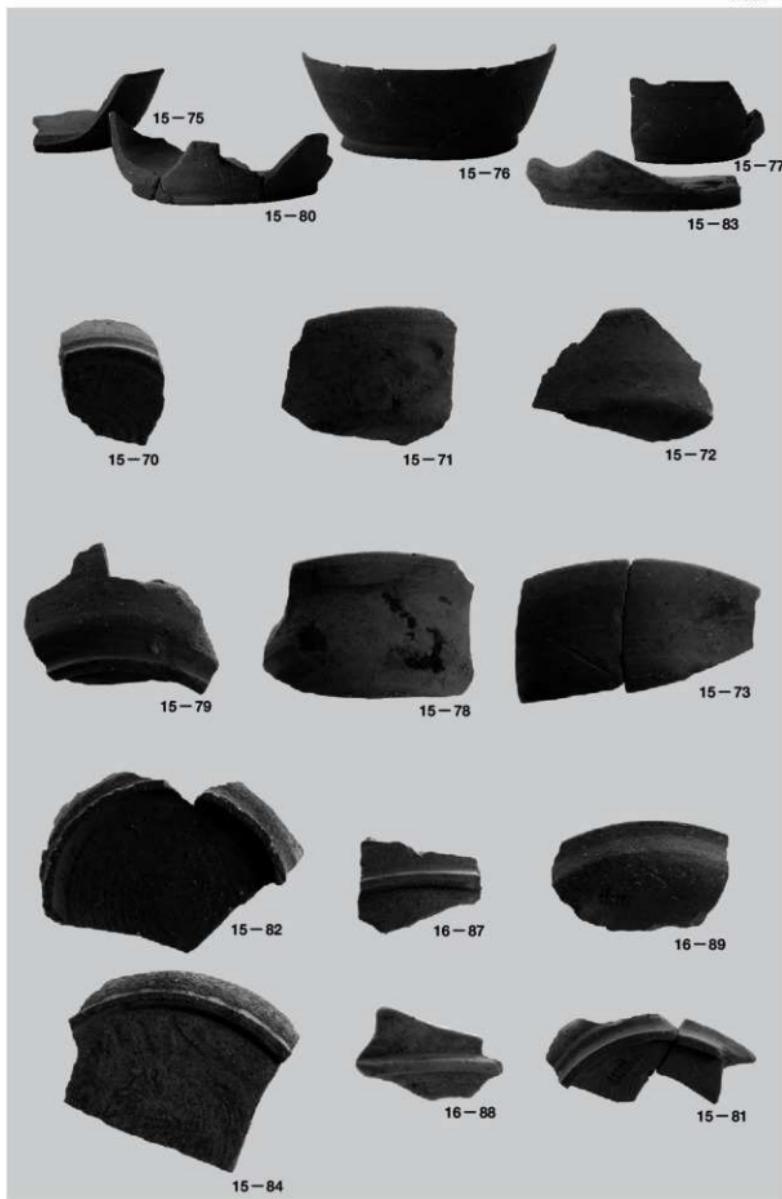


1.A区 遗構外出土遺物(4)

図版18

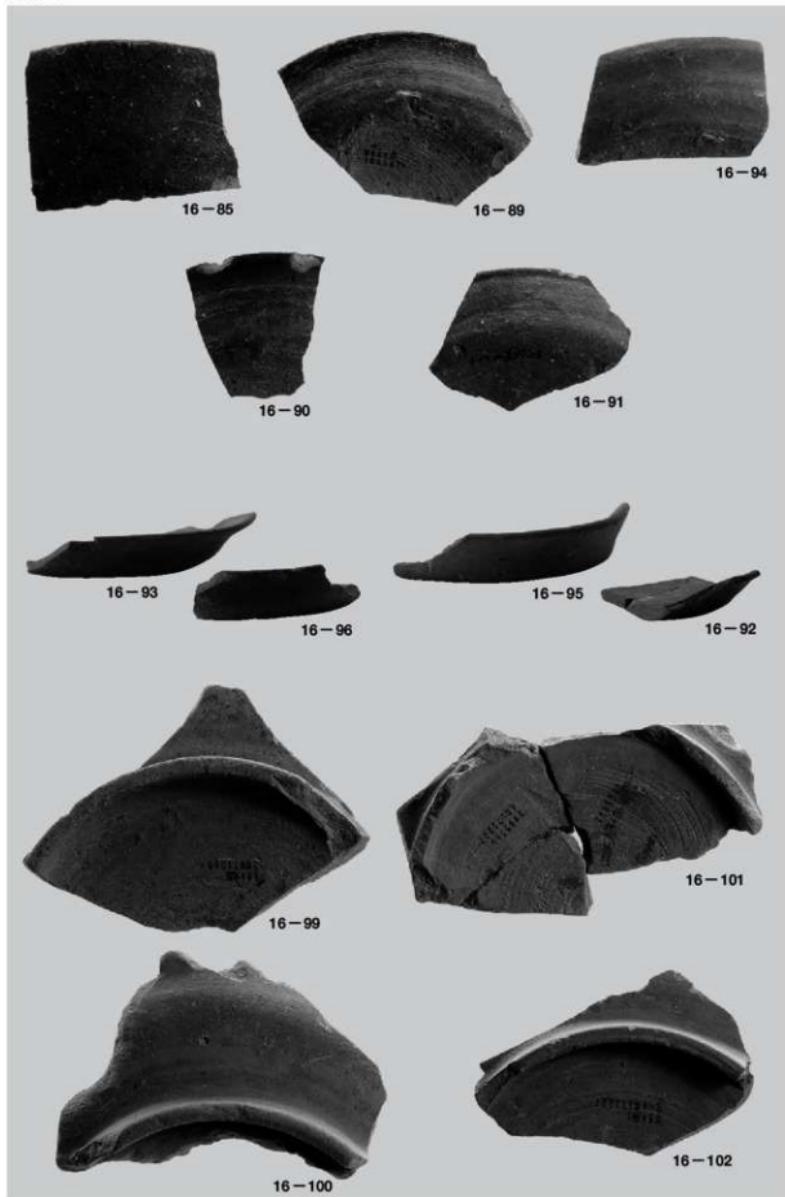


1.A区 遺構外出土遺物(5)

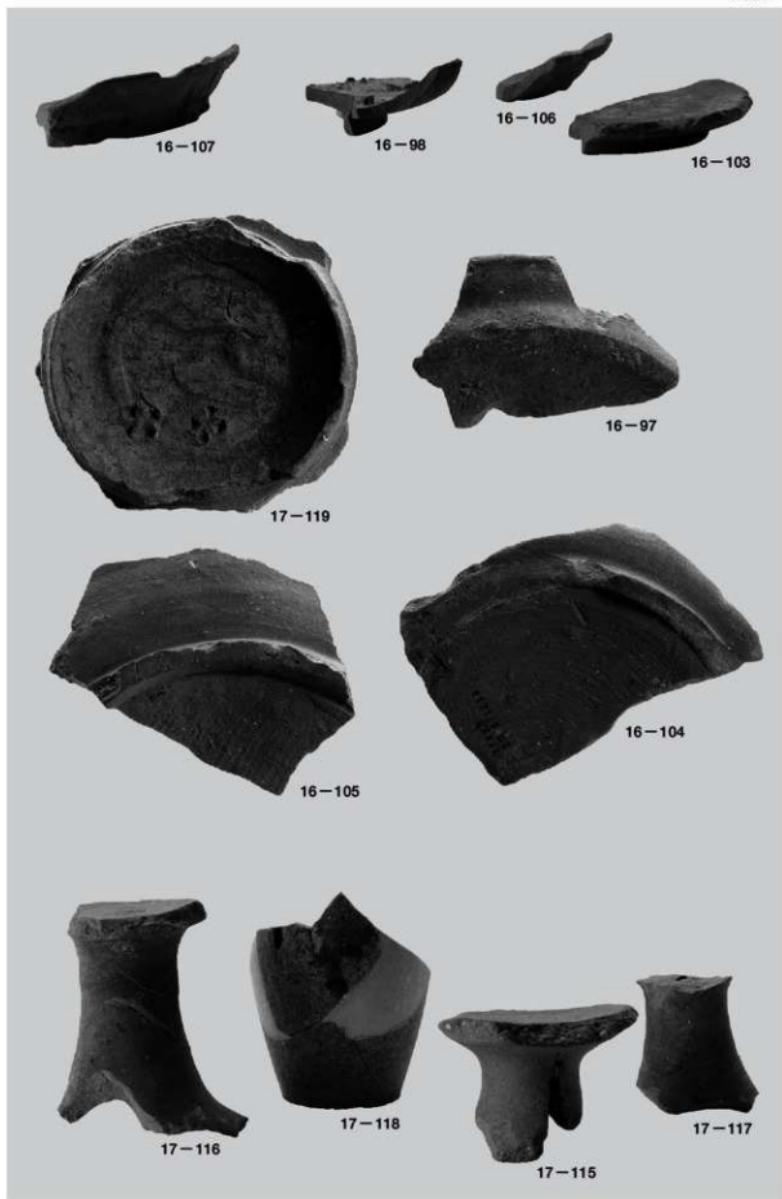


1.A区 遺構外出土遺物(6)

図版20

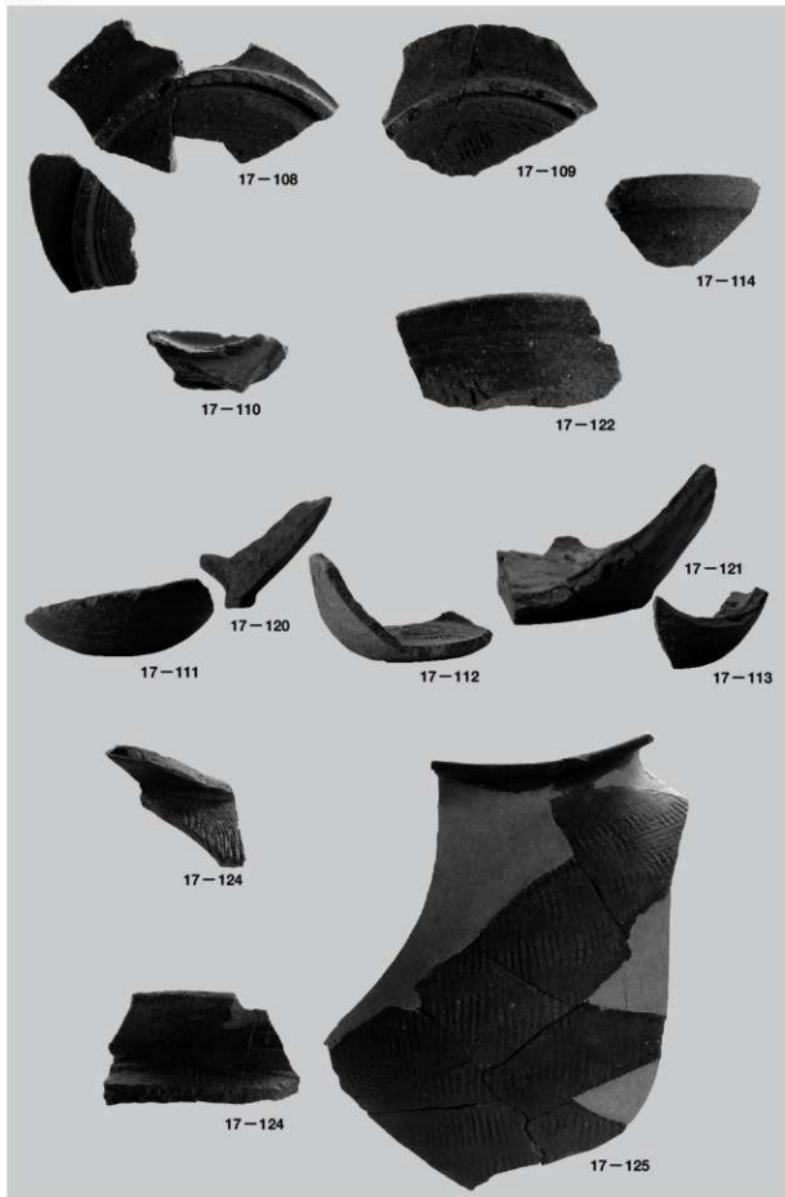


1.A区 遺構外出土遺物(?)

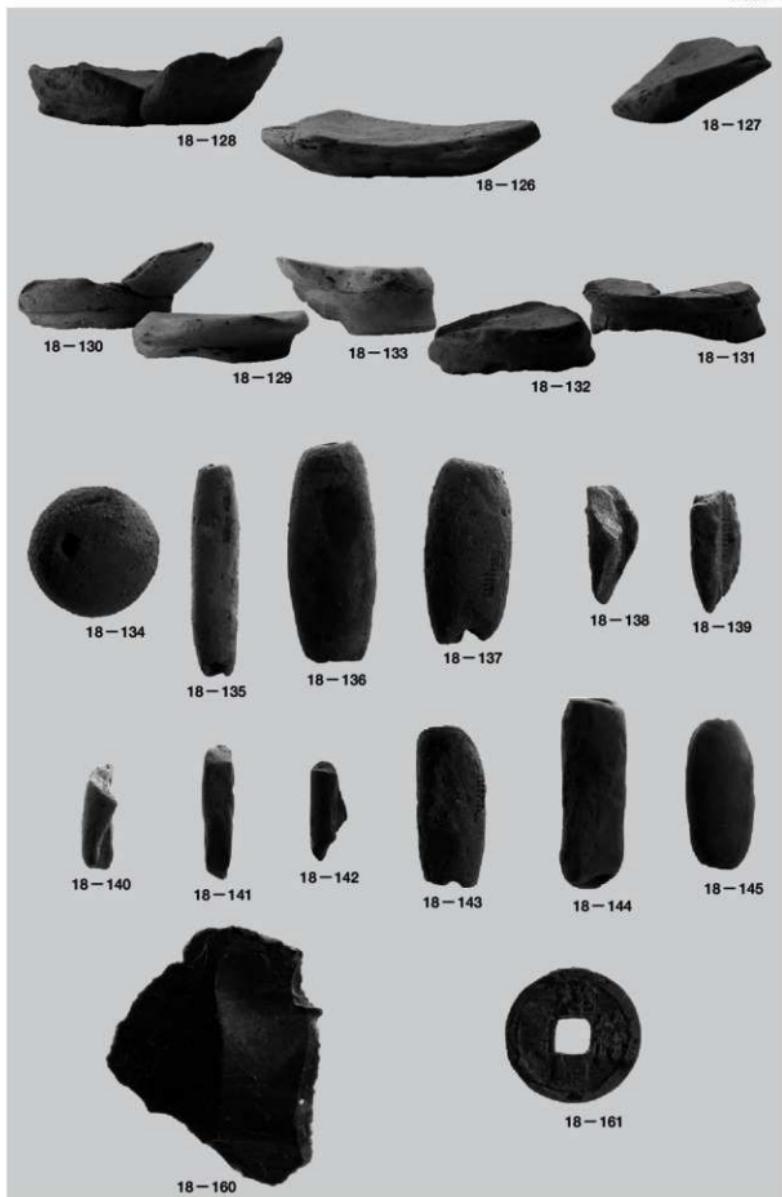


1.A区 遗構外出土遺物(8)

图版22

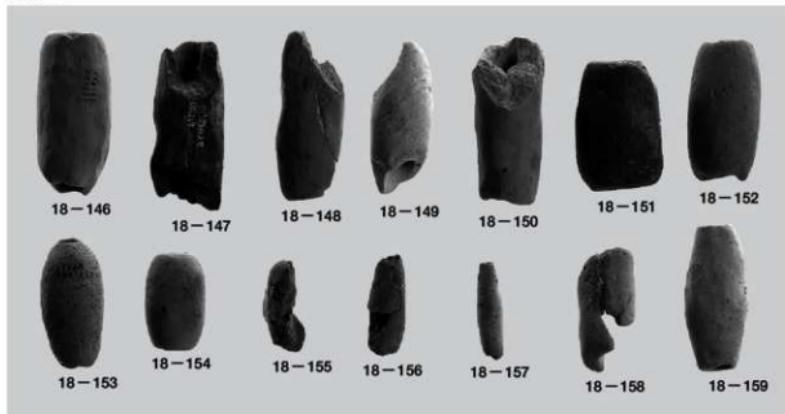


1.A区 遗物外出土遗物(9)



1.A区 遺構外出土遺物(10)

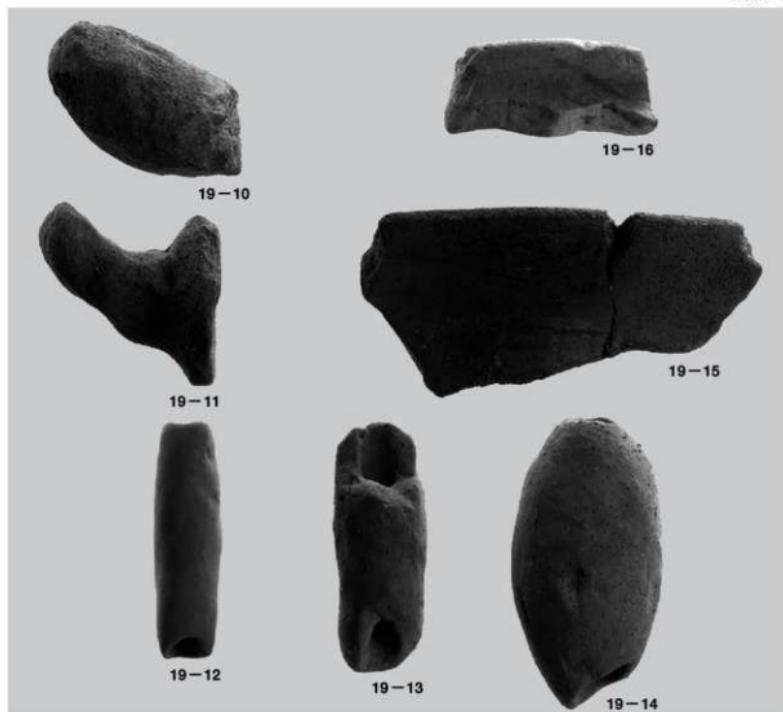
图版24



1.A区 遗構外出土遺物(1)



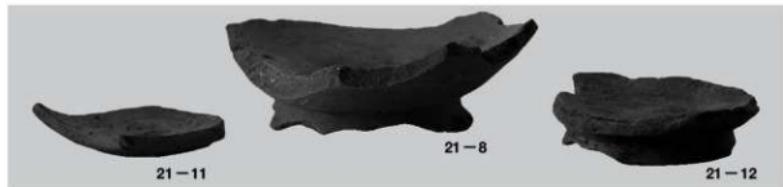
2.A区 拼接区出土遺物(1)



1.A区 拡張区出土遺物(2)



2. その他遺構外出土遺物



3.B区 遺構外出土遺物(1)

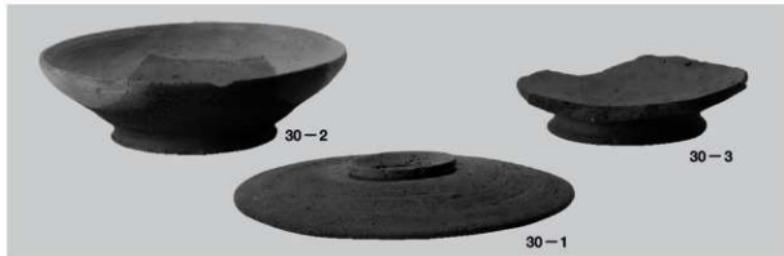
图版26



1.C区 加工段1出土遗物

2.B区 遗构外出土遗物(2)

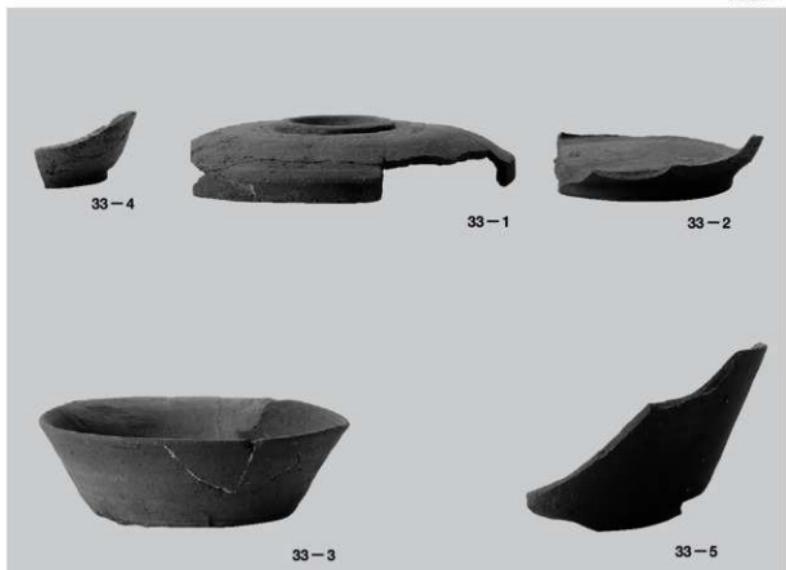
2.B区 加工段2出土遗物



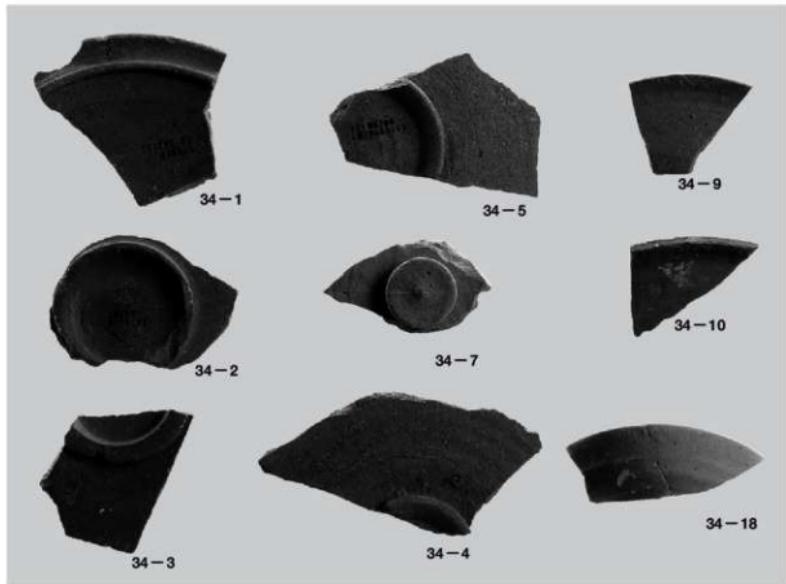
30-3

30-1

30-2

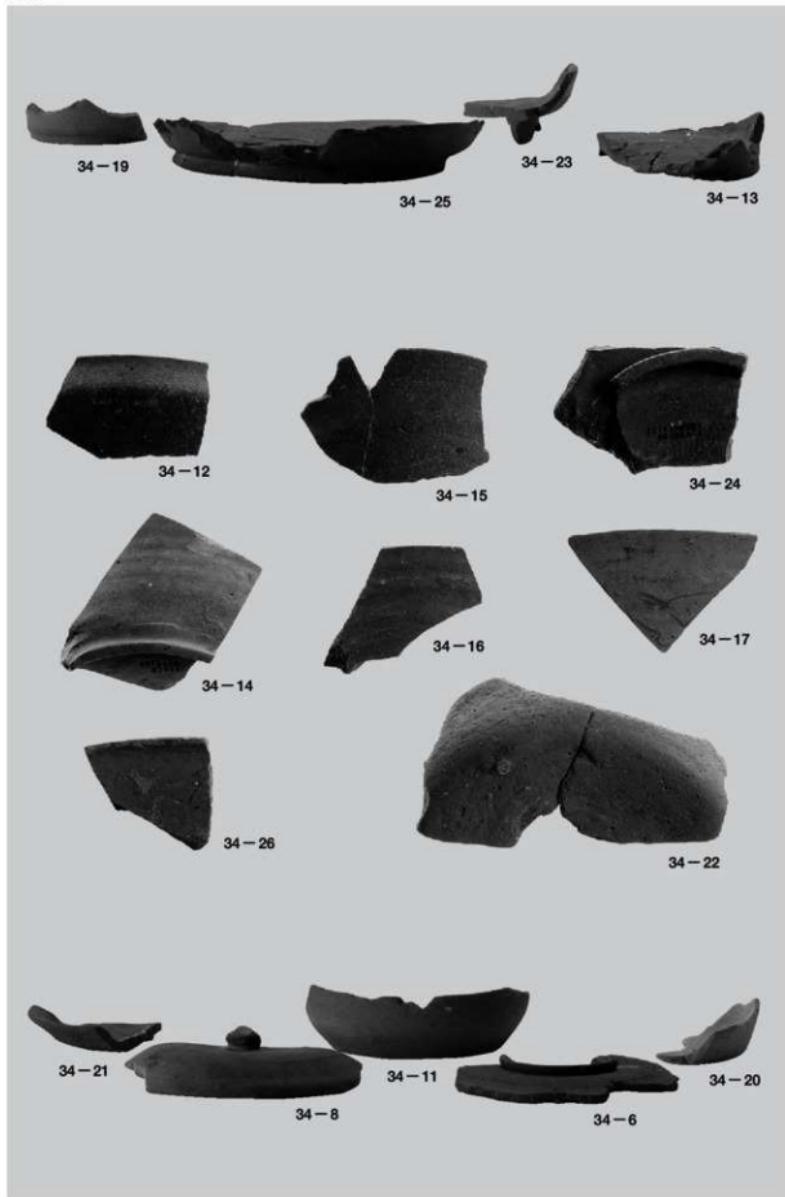


1.C区 土器溜り1出土遺物

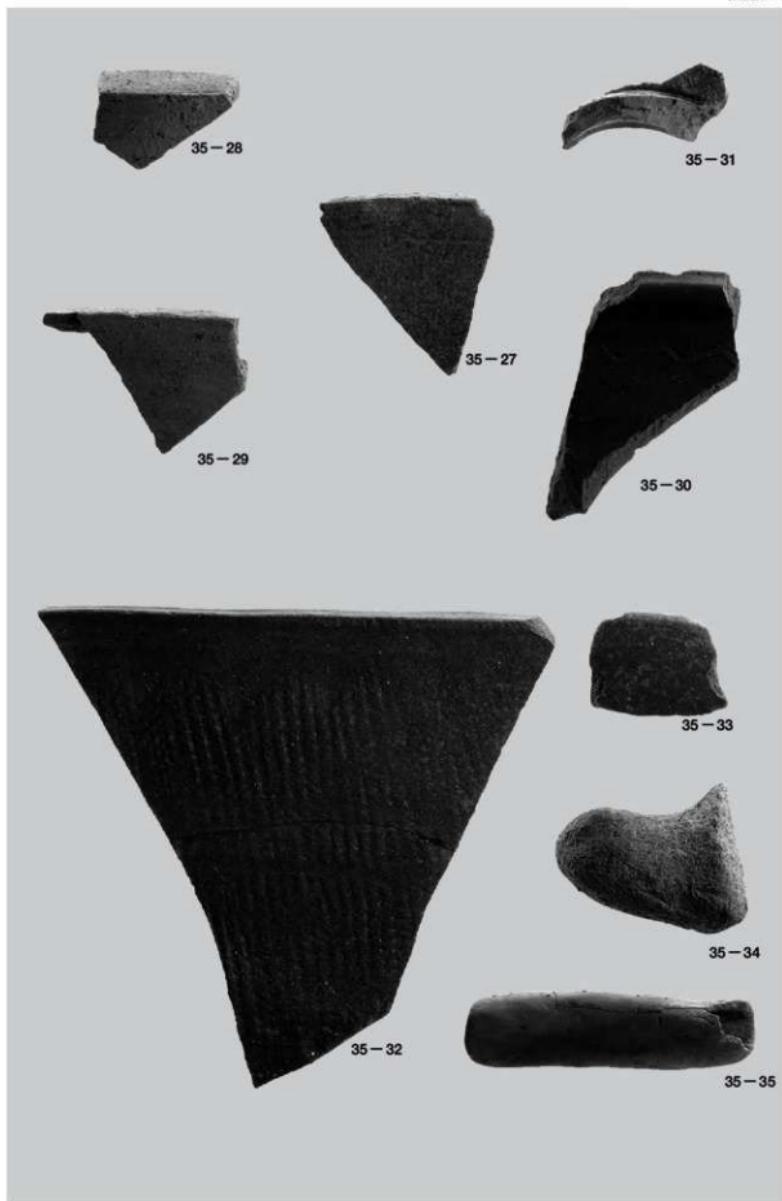


2.C区 造構外出土遺物(1)

图版28

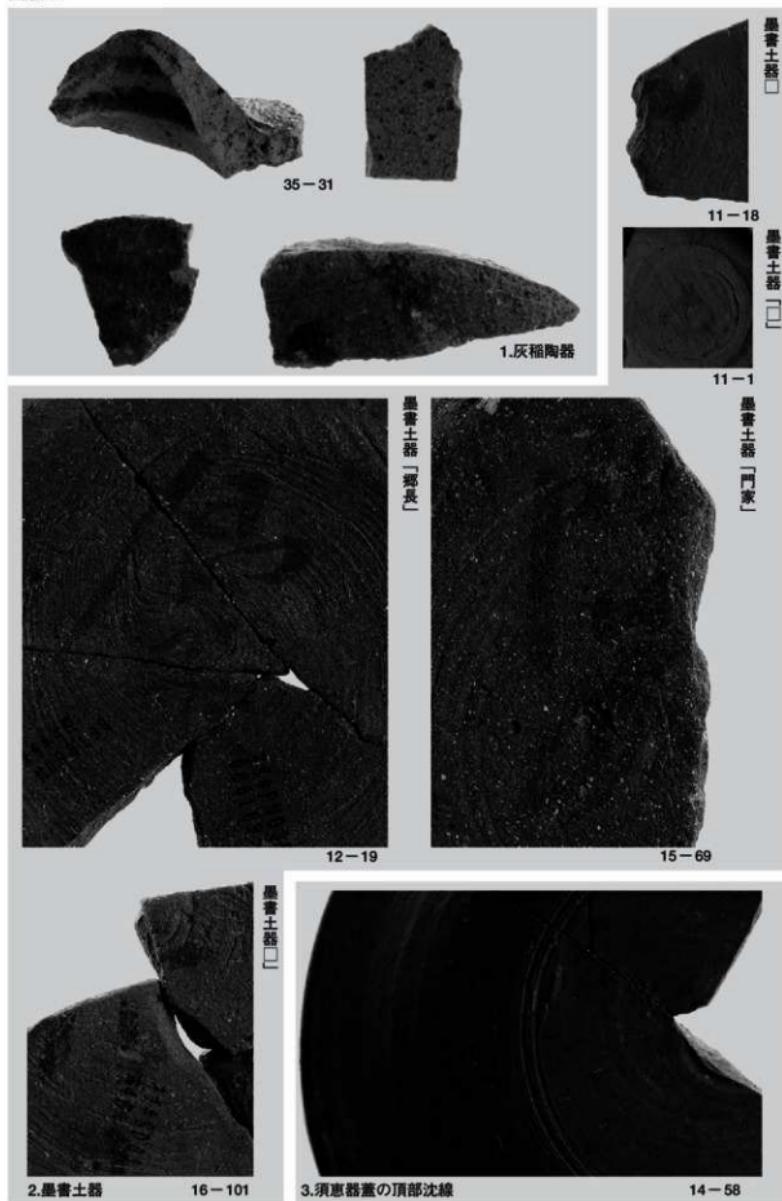


1.C区 遗構外出土遺物(2)



1.C区 遺構外出土遺物(3)

図版30



## 報告書抄録

## 印刷仕様

紙質	表紙	レザック66四六判 175kg
	本文モノクロ	上質紙A判 57.5kg
	本文 2 色	上質紙A判 57.5kg
	写真図版	コート紙A判 70.5kg
DTP	Windows XP	
画像原稿	階調画像線数	200線

## 尾崎遺跡

発行 2009年3月

発行者 烏根県教育委員会  
中国電力株式会社

編集 烏根県埋蔵文化財調査センター  
〒690-0131 烏根県松江市打出町33  
TEL 0852-36-8608

印刷 株式会社 報光社